

『モノグラフ・中学生の世界』vol.66

調査レポート

中学生の権利意識

〔執筆分担〕

- 東京成徳短期大学教授 深谷 昌志（はじめに・第5章・まとめに代えて）
 筑波大学教授 田中 統治（第1・6章）
 戸板女子短期大学助教授 井上 健（第2・3章）
 ベネッセ教育研究所 山田 剛（第4章）

要

① 調査の意図と調査対象

今の中学生は権利についてどんな意識をもっているのだろう。「子どもの権利条約」が日本で発効して6年がたった。しかし、その内容はあまり知られていないし、反発もあるようだ。国連子どもの権利委員会は日本の現状についてきびしい注文をつけている。

子どもを「権利行使の主体」とみるならば、中学生は自分の権利をどう考え、どう使いたいと思っているのだろう。ここでは、条約が強調する自己決定権、意見表明権、プライバシーなどを中心に、彼らが考える「権利の侵害」「権利とわがままの境界」「行使したい権利とその意欲」などについて尋ねている。

調査の対象は、東京・千葉・神奈川にある6校の中学生計1,238人。その中には、「子どもの権利条約」の普及に熱心な学校2校も含まれている（p.12 表1 - 1）

約

② 家庭での様子

「学校へ持っていく物」は90%以上が自分で準備しているが、「食器の後かたづけ」や「パジャマをたたむ」など家事の分担や身の回りの整理整頓のできていない生徒も3～4割いる（p.14 図2 - 1）

③ 親との関係

現在の親子関係については84.2%が「うまくいっている」と答えており、良好な親子関係に性差は認められない（p.16 表2 - 2、表2 - 3）

「どんな親か」と尋ねると、「よいことと悪いことをしっかり判断してくれる」が最も多く、71.7%（「とても+わりとそう」の数値）に達した。また、10%前後であるが、「学校

で納得できないことがあったら、学校に抗議に行ってくれる」「たとえ校則に違反しても、親が悪くないと思えば認めてくれる」「『学校へ行きたくない』と言ったら休ませてくれる」という回答があったことも注目される(p.17 図2 - 2)

親への要望の第1位は、「秘密にしているものは勝手に見ないでほしい」で、60%を超える生徒が「ぜったいそうしてほしい」と回答している。次いで、「家ではゆっくりと休ませてほしい」「いちいちうるさく言わないでほしい」「友だちづきあいに口を出さないでほしい」などがあがった(p.19 図2 - 3)

④ クラスの雰囲気

クラスの雰囲気を尋ねると、「行事などではみんなで協力してもりあがる」「男子と女子の仲がいい」が8割(「とても+わりと+少しそう」の数値)と多かったが、「自分の意見を言いにくい」と感じている生徒が4割、「まじめにやっている人が損をしてしまう」も4人に1人いた(p.23 図3 - 1)

⑤ 学校でいやな思いをした経験

学校でいやな思いをしたことでは、「先生がある生徒だけを特別扱いしたこと」「授業中、友だちにちょっかいをかけられたこと」「みんなの前で悪口を言われたこと」「悪くないのに、自分のせいにされたこと」などが多く、「しゅっちゅう+ときどきある」が3~4割、「1、2回ある」を含めると6~7割の生徒が経験している(p.25 図3 - 2)

⑥ ぜったいしてはいけないこと

「プライバシーをみんなの前で話すこと」「いじめること」「借りた文房具などを返さないこと」「先生がある生徒だけを特別扱いすること」「悪くないのに、その人のせいにする事」「先生が体罰をすること」「カバンの中や手帳などを勝手に見る事」などは、8割の生徒が「どんな理由でもぜったいしてはいけない」と考えている。しかし、少数であるが、「理由があればしてもいい」と思う生徒もいる(p.26 表3 - 1、p.27 表3 - 2)

⑦ 意見を言えるとしたら、言いたいこと

生徒に意見を言いたいことを尋ねると、「遠足や修学旅行の行き先や内容」「高校入試の仕方」「部活動の活動計画や練習方法」「通知表につける成績」などが上位にあがるが、「とても言いたい」は2割ほどで、「あまり+ぜんぜん関心がない」(3割)生徒の方が多い(p.29 図3 - 4)

もし放課後、「文化祭や体育祭のプログラム」「授業で勉強する内容」「公園のプランづくり」について話し合いが開かれたとしても、積極的に参加したり、リーダーを引き受けるという生徒はそれほど多くない(p.32 表3 - 5、p.33 表3 - 6)。けれども、クラスに自分の意見を言いやすい雰囲気があれば、「意見を言いたい」と思う割合が高くなり(p.30 表3 - 3) 行事でもりあがった経験があるほど、「放課後の話し合いに参加したり、リーダーを引き受けてもいい」と回答する割合が高くなる傾向がみられる(p.33 表3 - 7、p.34 表3 - 8)

⑧ 権利か、それともわがままか

身近な行動のレベルで、「わがままか、それとも権利の主張か」を尋ねたところ、「授業中にトイレに行きたくなったら行く」は7割、「制服（標準服）の着方をちょっとだけ変える」「校則に決められているけれど、好きな髪型にする」などは半数の生徒が「権利」と考えていることがわかった。「給食に嫌いなものがあるときは食べない」「自分の用事があるときは係の仕事をしなくて帰る」など、かつては生活指導の対象となったような事柄でも、個人の「権利」だとする生徒の方が多い。「みんなで決めたことだけれど、やりたくないのだからやらない」「学校へ行きたくない日は欠席する」「気分がのらないときは保健室で休む」などについては、半数が「ぜったいわがまま」と回答しているが、「権利」ととらえる生徒も1～2割いることは注目される（p.36 図3-5）

⑨ 学校のきまりについて

一口にきまりといっても、ほとんどの生徒が疑問を感じない「授業の前後にあいさつをすること」「授業中にいねむりをする」と叱られること」から、疑問を感じる生徒の方が多い「学校で持ち物検査をすること」や「校則で髪型を決めること」まで幅がある。ただ、きまりに疑問を感じても、生徒がそれを教師に話すことは少ない（p.38 表4-1）

自由記述には、同じ学校でも多様な意見が記されており、きまりそのものよりも、きまりを通して示される「教師が生徒をどう扱っているか」という「関係性」を重視する声もあった（p.94 資料3：自由記述回答例「学校のきまりや校則について言いたいこと」）

⑩ 「子どもの権利条約」の知名度

「子どもの権利条約」を「自分で読んだことがある」生徒は6.4%、これに「どんなものか少し知っている」の18.9%を含めても、「知っている」生徒は25.3%と、全体の4分の1にとどまる（p.45 表5-1）

⑪ 「子どもの権利」の意味

生徒たちは「自分の進路を自分で決められること」や「自分の意見をきちんとと言えること」を「権利」と考えている（p.47 図5-1）

⑫ 決定できるか

「校則を決める」ことができると思う生徒が34.3%で、多くの生徒は決めるのは無理と感じている（p.51 図5-2）

⑬ 「している」か、「早い」か

「している」のは「好きな人とつきあうこと」で、化粧やセックス、ピアスは「早い」と大方の生徒が考えている（p.52 表5-9）

⑭ 自由ときまり

「人に迷惑をかけなければ、何をやってもその人の自由だ」は32.0%、「校則やきまりは、納得できなくても守らなくてはならない」は36.1%のように、全体として、生徒は自由やきまりを大事に考えている（p.54 表5-11）

⑮ 権利意識の高い子・低い子

中学生の権利意識にみられる特徴を一言で表現すれば、「失敗を恐れず、進路ややりたいこと、そして交友関係を中心に、自分の好みと選択権を積極的に主張してみたい」ということである。

こうした権利観のなかで注目される傾向は、「たとえ失敗しても、自分たちのことは自分たちで決めたい」と強く思っている積極群（6割弱）と、そうでない消極群（4割強）の違いである。この「自己決定の意欲度」が異なる2つのグループを中心に、権利意識の高い子・低い子の特徴を分析してみた（p.57 表6-1-1~3）

すると、「子どもの権利条約」の内容を知っているかどうか、グループ間で大きく違うことがわかった。積極群の方に周知度が高い（p.58 図6-1）

自己決定に意欲的な生徒ほど、自分の権利行使に積極的だが、反面、彼らは多数決、義務、中学生としての制約を受け入れる「バランス感覚」を示した（p.60 図6-2）

⑯ 自己像・将来像と権利意識

「たとえ失敗しても、自分たちのことは自分たちで決めたい」と強く思う生徒像をみると、権利について知識をもっているばかりでなく、自分で決めた経験をもっており、また将来像についても楽観的である（p.62 図6-4、p.63 図6-5）

友人関係での自己像を中学生・高校生で比較してみると、「考えの違う友人への意見主張」において、その割合は高校生の方が高い（p.64 図6-6）

〔調査概要〕

対象 東京・千葉・神奈川の公立中学校1～3年生

時期 1999年11月～12月

方法 学校通しによる質問紙調査

サンプル構成

(人)

	1年	2年	3年	合計
男子	193	182	265	640
女子	170	186	242	598
合計	363	368	507	1,238

はじめに

「子どもの権利条約」 のとらえ方

課題が見えにくい

「児童（子ども）の権利条約」（以下「子どもの権利条約」）といわれたとき、「聞いたことがあるけれど、関係がなさそうなので、くわしくは知らない」が大方の感想であろう。教育関係者で子どもの問題に関心を持っている者でも、『子どもの権利条約』は発展途上の社会の子どもには重要だ。しかし、日本の子どもは恵まれているので、権利の規定と無関係だ」と思う人が少なくない印象を受ける。

「子どもの権利条約」についての日本の批准は遅れたが、平成6年（1994年）の5月に発効することになった。その際、批准にもなる国内法の整備が問題になった。しかし、日本は子どもを取り巻く条件が整備されているので、批准したからといって特に法的な整備を行う必要はないというのが政府筋の公式の見解だった。

確かに、ユニセフの『世界子ども白書』などを手にすると、発展途上社会の子どもの問題として、児童売買や貧困による病弱死、児童労働などがとり上げられている。そして、そうした社会では基礎教育を終えることなく、労働に追われている子どもが少なくない。

こうした社会で、「子どもの権利条約」批

准を契機として、児童売買の禁止や児童労働の解消、無償教育の徹底などが実現されるなら、権利条約締結は意義の深いものとなるだろう。

現在では、日本の子どもは貧困と無縁のように思われる。しかし歴史的にとらえた場合、初等教育レベルでの就学が定着したのは明治30年代に入ってからだが、その後も就学できない子どもが少なくなかった。大正から昭和にかけても、貧困のため就学できない子どもが多く、子守学校や夜間小学校が盛んだったのは教育史の示す通りである。

第2次大戦後でも働く子どもの姿はまれではなかったし、学校へ来ても昼食代や教科書代を払えない子どもがかなり多かった。そして、曲がりなりにも、どの子どもも働くことなく就学できるようになったのは、東京オリンピックが開催された頃からであろう。

それから30年以上を経て、発展途上の社会を基準にした尺度で計ると、日本の場合、子どもの権利はかなりのレベルまで保障されている。児童売買や幼児や児童への性的な虐待、年少労働などがほとんどみられないからである。そのため、「子どもの権利条約」を通して、子どもの何の権利を保障すべきなのか、課題がみえにくい社会のように考えられる。

現代の視点に立った課題の抽出

そこで観点を变えて、現代の子どもの視点から「子どもの権利条約」の意味を考えてみよう。子どもを取り巻く物質的な環境は改善された。しあわせなことに、日本の子どもたちは飢えや乾きと無縁な育ち方をしてきた。不足感を味わったこともない。

それならば、子どもたちはしあわせなのか。かつての不幸な状況が改善されたことは確かだ。しかし、子どもは現代に生まれ今の社会の中で生活をしている。それだけに、かつての子どもと比べて、現代がしあわせな暮らしなのだといわれても、子どもたちは実感を持ってないと思う。

「子どもの権利条約」が条約の締結だけで終わり、実行が形骸化されてしまわないように、条約の締結から2年以内に第1回、それから5年ごとに国連に設置された子どもの権利委員会に実行の状況を提出し、審査を受ける制度がとられている。

第1回報告批准後2年たった1998年、日本が提出した報告書に対し、国連の子どもの権利委員会は、権利条約に対する日本の取り組みは不十分との判定を下した。そして、42項目にのぼる改善の観点を指摘している。これらの項目の中には、日本の状況に即さないと思われる内容も含まれているが、生徒たちが受験のストレスにさらされているだけでなく、学校が閉鎖的で子どもの自主性を損なっているなどの指摘には納得のできるものを感じる。

日本ではそれほど病理に感じてはいないが、国際的な基準に照らすと問題が明らかになる。そうした意味で、権利委員会の指摘は、日本の子どもの状況を判断する一種のリトマス試験紙的な重みを持っていよう。

現代の子どもの状況を過去と比較して問題が減ったというのではなく、現代の視点に立って、子どもたちのしあわせを阻害しているものは何かと考える態度が必要になる。豊かで平和な情報化社会の到来は、子どもたち

にしあわせをもたらしたのだろうか。

顕在的な課題と潜在的な課題

日本の場合、子どもの権利が侵害されているといえば、「いじめ」が連想される。下火になったといっても、いじめられて死を急ぐ子どもは決して少なくない。その背後に、死まで至らなくとも、苦しい思いで毎日を送っている多くの子どもの姿が浮かんでくる。

児童虐待は欧米に多く認められるが、日本では事例が少ないといわれてきた。しかし、日本でも虐待が増加傾向を示しているだけでなく、表面化しない暗数は表面化したものをはるかに上回るといわれる。

こうした状況に対する対応策としては、虐待を受けている子どもを虐待から切り離すことや、いじめられている子どもをいじめから解放することが、とりあえずの課題として浮かんでくる。

これらは見えやすく、緊急的な対応が望まれる課題であろう。そして、「子どもの権利条約」に関連させて、子どものしあわせを保障するための課題としたいのは、こうした緊急的な問題に限られていない。

一例をあげるなら、学習塾通いする子どもは小学高学年生の約5割、中学生の7割に達する。塾通いの理由はともかく、小学生は学校の授業が終わってから塾へ行くので、放課後友だちと遊ぶ時間がとれないうえに、生活のリズムが崩れる。なにしろ、塾から帰るのが遅くなるので夕食も遅くなり、テレビを見たり復習をしたりしていると、就寝は12時を過ぎる。そうした生活が続くと翌朝まで疲れが残り、食欲が落ち、学校へ行っても授業に集中できない状況になる。

中学生は部活動が終わってから塾へ行くので、帰宅はさらに遅れる。その結果、12時すぎまで起きている生徒が半数を超える状況が生まれる。

こうした状況を誰も望ましいとは思っていないが、塾通いが慢性化し、通塾率は高まるばかりである。

塾通いの他にも、群れ遊びをする子どもの姿が見えない、自然と接点を持たずに子どもが成長している、テレビに象徴されるマスメディアに囲まれ成長に歪みが認められる、学校に充足感を持ってない子どもが少なくないなど、子どもの成長にとって気にかかる現象は少なくない。

問題を感じつつも、状況が慢性化して、意

識しないと問題の深さがわからなくなる。そうした潜在化した形の、しかしどの子どもにも関連する問題が認められる。

したがって、緊急度の高い顕在化された問題に早急に対応すると同時に、慢性化して広範に及ぶ、しかも子どもの成長に関連する様々な問題に対しても、成長を願っての対策を講じる必要がある。

第1章 中学生の権利意識を考える視点



1. 調査のねらいと視点 D D D

1) 「子どもの権利条約」をめぐって

「子どもの権利条約」が1994年に日本で発効して6年が経過する。国連総会でこの条約が採択されたのが1989年である。したがって、足かけ12年の歳月が流れたわけである。

けれども、この条約の内容は一部のおとなや子どもたちを除いて正確には知られていない。今回の調査に協力してくれた中学生の場合でも、「自分で読んだことがある」(6.4%)、「どんなものか少し知っている」(18.9%)という結果である。4人に1人の割合でしかない。なぜ、このように周知度が低いのだろうか。

理由はいろいろと考えられるが、「子どもの権利条約」の内容が学校の現実とかけ離れていると受け止められ、その周知がためられていることが大きいだろう。実際、先生方

に本音を聞くと、「子どもに権利主張されては学校が混乱して困る」という抵抗感があるようだ。なかには、「日本よりも途上国の問題」として認識されている場合もある。

国連の子どもの権利委員会が1998年に採択した「総括所見」によれば、日本の場合、積極的な側面は5項目にとどまり、22項目に及ぶ懸念事項の指摘と、提案および勧告がなされている。その一部を子どもの人権連代表委員・平野裕二氏の仮訳でみてみたい(『子どもの権利条約のこれから』子どもの人権連・反差別国際運動日本委員会編著/エイデル研究所刊などより)。なお、番号は総括所見の一貫番号を、...は省略をそれぞれ示している。

C 主要な懸念事項

11... 委員会は、条約の原則および規定、

ならびに子どもは権利の全面的主体であるという考え方を条約が重視していることに関する幅広い意識を、社会のあらゆる層において子どもにも大人にも同様に普及しかつ促進するために、十分な措置がとられていないこと、…関連の専門家集団に対して子どもの権利に関する研修を行うために十分な措置がとられていないことを、懸念する。

22. 識字率がきわめて高いことに表れている通り同国が教育を重視していることに留意しながらも、委員会は、競争が激しい教育制度のストレスにさらされ、かつその結果として余暇、運動および休息の時間が得られないために子どもたちの間で発達障害が生じていることを、条約の原則および規定、とくに第3条、第6条、第12条、第29条および第31条に照らして懸念する。委員会はさらに、学校嫌いが相当数にのぼることを懸念するものである。

23. 委員会は、同国が、条約第29条に従い、人権教育を系統だったやり方で学校カリキュラムに導入するために十分な措置をとっていないことを、懸念する。

D 提案および勧告

33. 委員会は、条約の規定が子どもおよび大人の双方によって広く知られかつ理解されることを確保するために、同国がさらなる努力を行うよう勧告する。あらゆる専門家集団を対象として、子どもの権利に関する系統だった研修および再研修のプログラムが行われるべきである。…権利の全面的主体としての子どもの地位を強化するため、条約をすべての教育機関のカリキュラムに盛り込むよう勧告する。…

43. 競争の激しい教育制度が同国に存在すること、ならびにその結果として子どもの身体的および精神的健康に悪影響が生じていることを踏まえ、委員会は、同国に対し、条約第3条、第6条、第12条、第29条および第31条に照らして、過度のストレスおよび学校嫌いを防止しかつそれと闘うため

に適切な措置をとるよう勧告する。

44. 委員会は、同国に対し、条約第29条に従って、人権教育を系統だったやり方で学校カリキュラムに含めるために適切な措置をとるよう勧告する。

この一部をみてもわかるように、国連の子どもの権利委員会による勧告は、学校での体系的なカリキュラムによる人権教育および教師への研修プログラムの必要性と、競争によるストレスおよび学校嫌いの防止など、かなり踏み込んだ提言を行っている。その斬新さは、子どもの権利侵害に対する救済措置や差別問題に焦点づけた人権教育にとどまらず、子ども自身を「権利行使の主体」として育成することを訴えているところにある。つまり、子どもの権利条約は「尊重から行使へ」という発想の転換を求めている。

2) 中学生の権利意識をさぐる視点

では中学生の場合、彼らは「権利行使の主体」としてうまく育っているのだろうか。この疑問が権利意識に関する調査を思い立った動機である。すなわち、一般に今の中学生の多くは「権利の主張ばかりして義務を果たそうとしない」と評されることが多い。しかし、それは本当だろうか。そもそも彼らは「権利」自体をどうとらえているのだろうか。また、中学生はどの程度まで権利を主張してもよいと考えているのだろうか。

こうした権利に関する問題は過去にあまり調査されたことがないので、調査の仮説を立てることが一定、困難である。また、権利意識をどう規定するか、その定義も一般に使われているわりには難しかった。それは私たち自身の権利意識が明確でないためであろう。中学生に限らず、私たちが日常、権利を行使するとは一体どんなことが、この問題を明らかにすることが必要である。

そこで、「子どもの権利条約」が強調する自己決定権、意見表明権、プライバシー権などに注目して、生徒にとって身近な問題から

設問を作るよう努めた。すなわち、家庭や学校の場面で、生徒たちが当事者として直面する問題から権利意識の特徴を探ろうと考えた。その理由は、これまでの差別問題を中心とした人権教育の視点から、まず自己的人権について中学生がどう考えているかを調べる視点へ調査の焦点を移してみる必要性を感じるからである。

国際比較による調査の結果をみると、日本の子どもは自分の考えや意見が持てない育ち方をしている。これはおとなたちが学校化されすぎた価値観によって、「子どものためだから」といって先回りして、子どもにかかわることを勝手に決めてきたためではないだろうか。子どもたちが自分に関係することは自分で決める。そのためには、自ら考えて判断し決定する能力が必要とされる。このような自己決定力は、新学習指導要領が掲げる「生きる力」にもつながる。

以上の理由から、この調査ではきちんとした仮説を立てなかったけれども、しかし、おおよそ、次の視点を重視しながら分析を試みることにしたい。

①家庭や学校の場面で、権利を「侵害」された経験の頻度と、これをどのくらい「侵害」として感じるかその程度を尋ねる。そして、この両者を照らし合わせることによって、彼らの権利「侵害」への意識の特徴を明らかにする。ただし、ここで括弧つ

きで表記するように、中学生からみた場合の権利の侵害である。これは調査票の質問の⑤、⑦、⑧に対応する。

②権利意識の行動面での特徴を明らかにするため、学校で中学生が意見を表明したり決定に参加する、その機会と彼らの意欲の程度を尋ねる。これは質問の⑨、⑩、⑪に対応する。

③「権利の主張」と「わがまま」の境界線を尋ねて、彼らが権利主張の正当性をどこにしているか、その傾向を把握する。学校のきまりについて尋ねた質問の⑫が対応する。

④子どもの権利とは何か、中学生がしてよいことの内容を尋ねることによって、彼らの「権利観」の特徴を明らかにする。質問の⑬、⑭、⑮がこれに対応している。

以上の視点は、中学生の権利意識にみられる受動的側面と能動的側面の双方の特徴を明らかにし、さらに、彼らが権利を行使できると考えるその基準についても解明しようと図るためのものである。

この他に学校別、学年別、および性別による差異が、上記の権利意識に影響すると考えられる。特に今回の調査校には、「子どもの権利条約」を普及することに熱心な自治体の学校も対象に選んでいる。このことは、次の調査対象のところで詳しく述べることにしたい。

2．調査対象の概要 D D D

全国的にみれば、子どもの権利条例を制定している自治体もあるし、また、「子どもの人権連」のような連絡団体もできている。しかし、国連・子ども権利委員会からの提言を受け止めて、その実現に向けた十分な施策や活動が展開されているわけではない。特に中学校ではどのように条約の精神を生かしたらよいか、また、生徒による「権利の行使」を

どうとらえればよいかといった点について議論が分かれている。

この調査では、中学校でのこうした現状を考えて、「子どもの権利条約」の普及に熱心な学校をいくつか選んでいる。東京都はこの条約をわかりやすく解説したパンフレットなどを作成しているが、その普及度は各区や市町村によって違うし、また、学校によっても

「温度差」があるようである。

そこで表1-1に示す学校の中で、神奈川のB校と東京のE校を「子どもの権利条約」などによる人権教育に比較的熱心なタイプの学校として選んだ。ただし、東京のC校のように、生徒の間で「子どもの権利条約」の普及度が高い学校もある。東京のA校とD校ではそれほど高い普及度ではない。また、F校は首都圏の地方にある学校である。

調査方法は、学校通しの留め置き法による質問紙調査である。調査時期は1999年11月～12月である。この6校の他にも、調査依頼を試みたけれども、権利意識というテーマもあってか、協力が難色を示された学校があった。また、質問項目の中にやや「刺激的な」設問があると受け取られるケースもあった。

こうした事情から、最終的に分析可能な対象数は総計1,238名である。

調査対象の内訳をみれば、表1-1に示す通り、学校ならびに学年による偏りがある。すなわち、A校が400名強と多いのに対して、C校、D校、およびF校の対象数が100名前後と少ない。この人数のアンバランスは、各学校の事情によるものである。特にD校の場合、3年生のみが対象となっているため、サンプル全体の学年比に影響している。3年生の割合が高いことが回答の結果に一定の影響を及ぼすと考えられるので、分析にあたっては学年別集計によってその偏りを点検することが必要である。なお、性別構成において大きな偏りはみられない。

表1-1 調査対象の学校・性別・学年構成

% (実数)

	合 計	性 別		学 年			
		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年	
全 体	100.0 (1,238)	51.7 (640)	48.3 (598)	29.3 (363)	29.7 (368)	41.0 (507)	
学 校 名	A中学校	100.0 (429)	52.0 (223)	48.0 (206)	30.8 (132)	36.6 (157)	32.6 (140)
	B中学校	100.0 (231)	53.2 (123)	46.8 (108)	32.5 (75)	30.3 (70)	37.2 (86)
	C中学校	100.0 (91)	51.6 (47)	48.4 (44)	33.0 (30)	28.6 (26)	38.5 (35)
	D中学校	100.0 (112)	50.0 (56)	50.0 (56)			100.0 (112)
	E中学校	100.0 (276)	51.8 (143)	48.2 (133)	33.7 (93)	30.8 (85)	35.5 (98)
	F中学校	100.0 (99)	48.5 (48)	51.5 (51)	33.3 (33)	30.3 (30)	36.4 (36)

第2章 家庭での様子・親との関係



「子どもの権利条約」は、子どもを「保護の対象」としてだけでなく、「権利行使の主体」としても位置づけたところに画期的な意味があるとされる。

中学生という時期は、まさに主体的に考え、

行動する存在へと成長していく時期にあたるが、他方で、自立の遅れや主体性のなさなども指摘されている。そこでまず、今回の調査対象となった中学生たちの家庭での様子や親との関係についてみてみよう。

1. 家庭での様子 DDD

図2-1は、「ふだんの家庭での様子」を尋ねたものである。

最も肯定率の高かったものは「学校に持っていく物は自分できちんと準備している」であり、「とてもそう」という回答が75.0%で、「わりとそう」の16.4%を合わせれば9割に達した。当然と言えば当然であるが、中学生ともなれば学校への持ち物くらいは自分で準備できているようである。次いで、「近所の人に会ったら、あいさつをする」「自分の部屋の掃除は自分でする」「保護者あてのプリ

ントは必ず親に渡す」なども、「とてもそう」の数値は4～3割に減るものの、「わりとそう」を合わせれば6～7割となり、半数以上の中学生が日常的にしていることがわかる。他方、「自分の食器の後かたづけは自分でする」では3割が、「パジャマは自分できちんとたたむ」は4割が「あまり+ぜんぜんそうでない」と答えており、家事の分担や身の回りの整理整頓については十分にはできていない現状がうかがわれる。

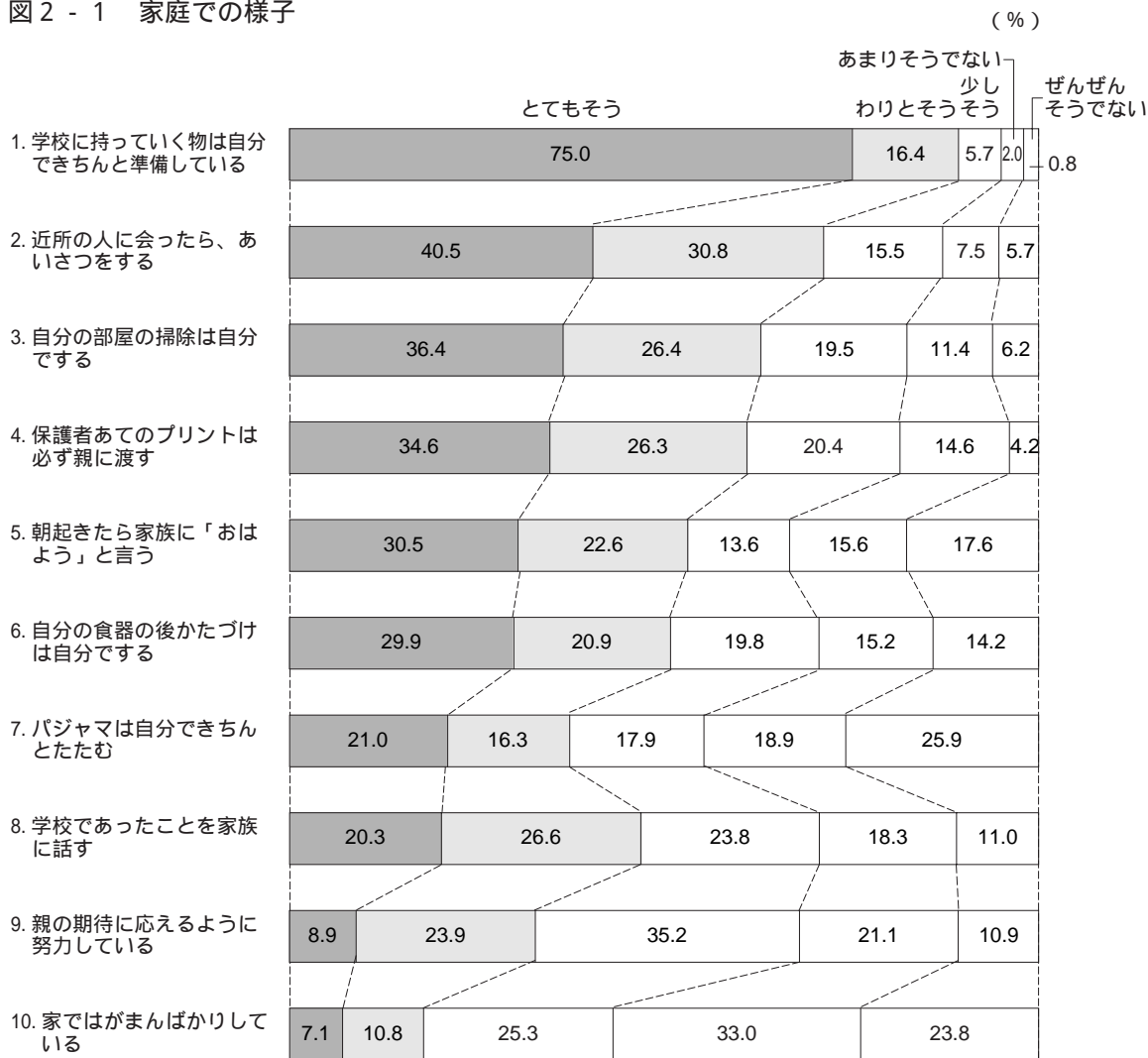
加えて、「親の期待に応えるように努力し

ている」や「家ではがまんばかりしている」を否定する生徒が多いことにも注目したい（「あまり+ぜんぜんそうでない」の数値が前者は32.0%、後者は56.8%）。彼らがふだん、家庭であまり親の目を意識することなく自由

に過ごしているのか、それとも「ものわりのよい親」が増えているのかは不明であるが、こうしたデータと彼らの自立心や権利意識がどのように関連するかは興味を引かれる。

なお、表2 - 1で男女差をみると、概して

図2 - 1 家庭での様子



女子の方が基本的な生活習慣がしっかりしていることがわかる。また、学年差は有意といえるほどではないが、たとえば「自分の部屋の掃除は自分でする」は1年生よりも3年生の方がしており、「保護者あてのプリントは

必ず親に渡す」「学校であったことを家族に話す」などは学年が上がるにつれて少なくなるといった傾向がみられ、年齢とともに自分の世界を意識し、親とは距離をおく様子が感じられる。

表2 - 1 家庭での様子 × 性・学年

(%)

	全 体	性 別		学 年		
		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
1. 学校に持っていく物は自分できちんと準備している	91.4	86.3	96.8	88.8	93.9	91.4
2. 近所の人に会ったら、あいさつをする	71.3	65.2	77.7	72.0	70.4	71.3
3. 自分の部屋の掃除は自分でする	62.8	55.8	70.2	59.9	61.3	65.9
4. 保護者あてのプリントは必ず親に渡す	60.9	54.1	68.0	66.0	64.2	54.7
5. 朝起きたら家族に「おはよう」と言う	53.1	50.7	55.8	58.1	57.2	46.8
6. 自分の食器の後かたづけは自分でする	50.8	45.9	55.9	50.6	52.6	49.5
7. パジャマは自分できちんとたたむ	37.3	31.7	43.2	40.2	40.0	33.2
8. 学校であったことを家族に話す	46.9	36.9	57.5	51.4	47.6	43.4
9. 親の期待に応えるように努力している	32.8	33.0	32.6	35.3	30.8	32.4
10. 家ではがまんばかりしている	17.9	18.4	17.4	15.9	16.8	20.2

「とても」+「わりと」その割合

2 . 親との関係 DDD

続いて、現在の親子関係について尋ねた結果が表2 - 2である。「とてもうまくいっている」の26.8%に、「わりと」の57.4%を加えると、「親とうまくいっている」割合が84.2%にも達した。しかも、こうした良好な親子関係に性差は認められない。また、学年

差をみると、学年が上がるにしたがって若干数値は低くなるが、それでも3年生の8割が「親とうまくいっている」と回答している(表2 - 3)。

親子が良好な関係にあることはもちろん悪いことではないが、中学生といえば、自分ら

表2 - 2 親とうまくいっているか

(%)

とてもうまく いっている	わりとうまく いっている	あまりうまく いない	ぜんぜんうまく いない
26.8	57.4	12.2	3.7
84.2		15.9	

表2 - 3 親とうまくいっているか × 性・学年

(%)

性 別		学 年		
男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
84.4	84.0	88.3	84.4	81.2

「とても」+「わりと」うまくいっている割合

しさに気づき、親を超えるための歩みを始める時期であるだけに手放しでは喜べない気もする。そこで彼らの目に、親がどんな存在として映っているかをもう少し詳しく尋ねた図2-2をみてみよう。

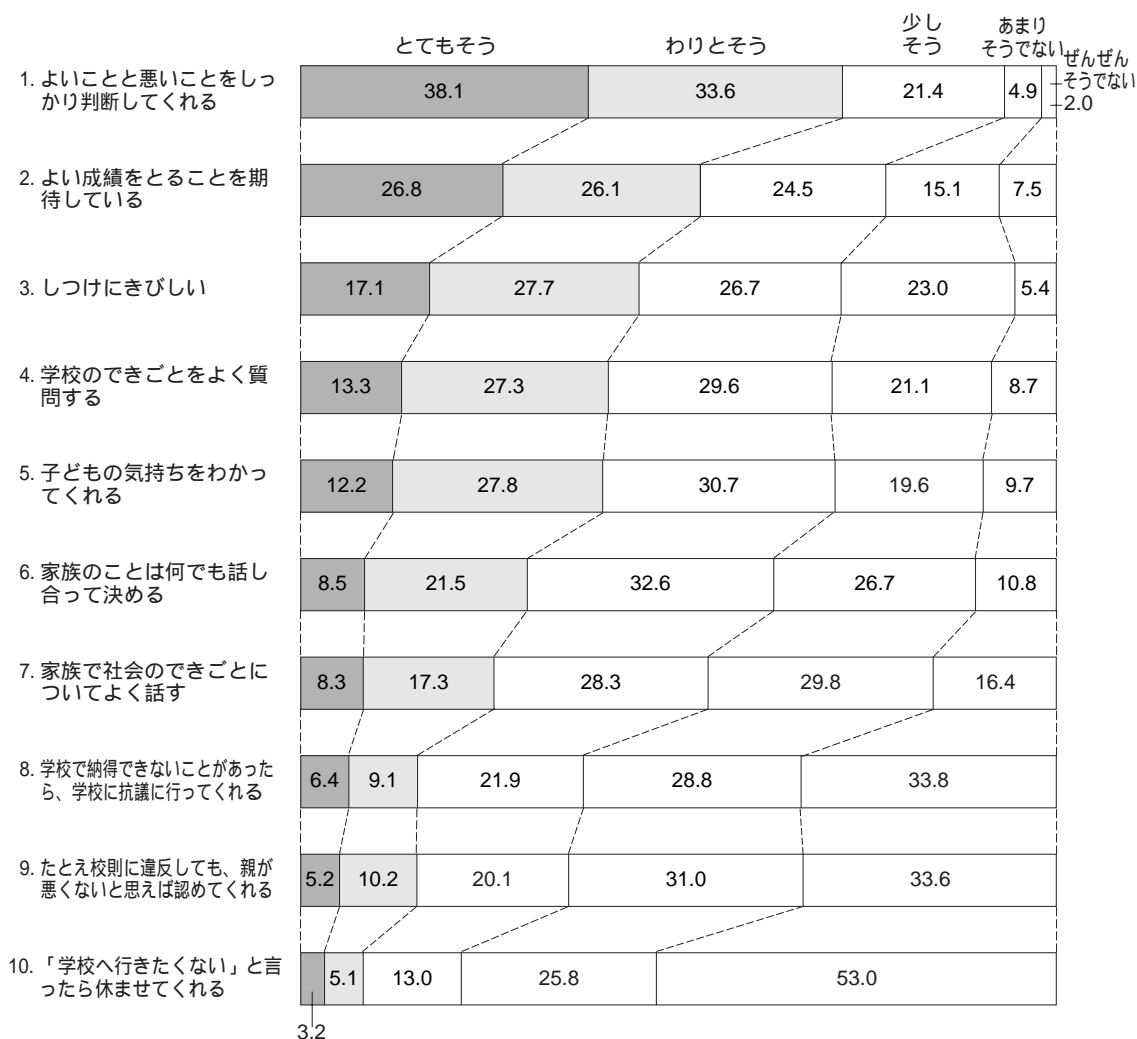
肯定率が最も高かったのは、「よいことと悪いことをしっかり判断してくれる」で、「とてもそう」の38.1%、「わりとそう」の33.6%を合わせると7割を超えた。このことは、彼らの善悪の基準や行動の規範として親が信頼されていることを物語っており、家庭

の重要性があらためて確認される。また、「しつげにきびしい」(「とても+わりとそう」で44.8%)、「子どもの気持ちをわかってくれる」(同40.0%)がほぼ同じ割合であることも特徴である。

加えて、10%前後(「とても+わりとそう」の数値)であるが、「学校で納得できないことがあったら、学校に抗議に行ってくれる」「たとえ校則に違反しても、親が悪くないと思えば認めてくれる」「『学校へ行きたくない』と言ったら休ませてくれる」親がいることに

図2-2 どんな親か

(%)



も注目したい。こうした親は、「少しそう」まで加えれば2～4割になる。

学校と家庭の規範感覚や権利意識が一致しない（あるいは対立するような）場面では、これまで多くの場合は学校側の論理が優先していた。しかし今後は、生徒や保護者の権利意識の高まりとともに、学校が新しい対応を求められる機会が増えてくることが予感される。個人や家庭のエゴイズムを公の場である学校に持ち込むのは論外であるが、学校も一般社会には受け入れがたいような「常識」を

押しつけてはいないか、再度、点検する必要があるかもしれない。

なお、表2 - 4で性差と学年差を調べると、男子は女子よりもよい成績を期待され、しつけにきびしいと感じる割合が高く、1年生は2、3年生よりも、よいことと悪いことの判断を親に求める傾向がみられる。また、高学年になるにつれて、自分の親は「学校で納得できないことがあったら、学校に抗議に行ってくれる」「たとえ校則に違反しても、親が悪くないと思えば認めてくれる」「学校へ行

表2 - 4 どんな親か × 性・学年

(%)

	全 体	性 別		学 年		
		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
1. よいことと悪いことをしっかり判断してくれる	71.7	71.7	71.7	78.2	68.6	69.3
2. よい成績をとることを期待している	52.9	59.9	45.4	55.3	53.0	51.0
3. しつけにきびしい	44.8	49.3	40.2	46.3	45.9	43.0
4. 学校のできごとをよく質問する	40.6	41.9	39.3	38.8	39.0	43.0
5. 子どもの気持ちをわかってくれる	40.0	38.0	42.0	42.8	40.8	37.2
6. 家族のことは何でも話し合ってきた	30.0	28.3	31.8	33.1	27.4	29.6
7. 家族で社会のできごとについてよく話す	25.6	25.4	25.7	24.2	23.9	27.7
8. 学校で納得できないことがあったら、学校に抗議に行ってくれる	15.5	14.3	16.9	12.6	13.4	19.2
9. たとえ校則に違反しても、親が悪くないと思えば認めてくれる	15.4	12.7	18.2	10.0	14.4	19.9
10. 「学校へ行きたくない」と言ったら休ませてくれる	8.3	6.3	10.2	5.4	8.7	9.8

「とても」+「わりと」その割合

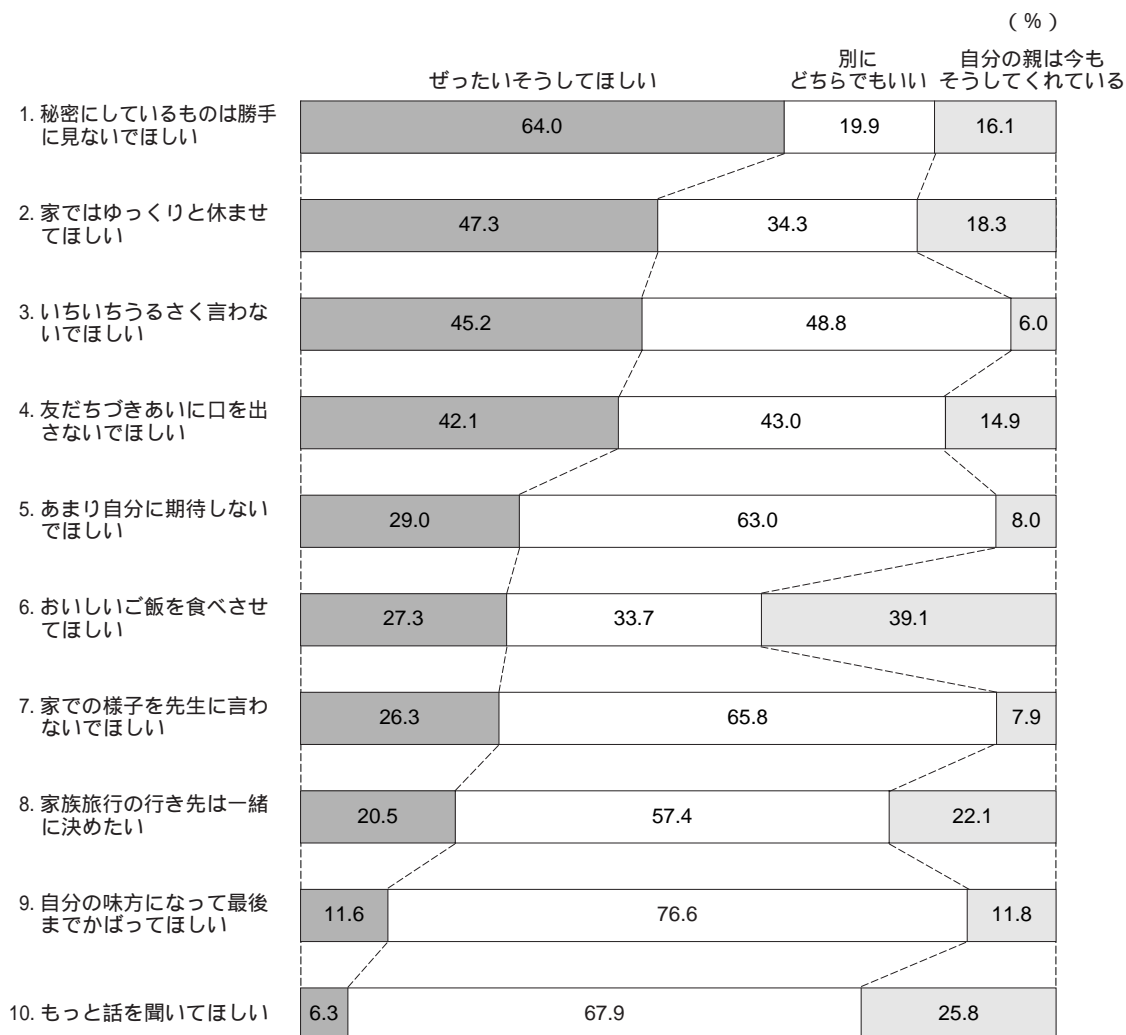
きたくない』と言ったら休ませてくれる」とする割合も増加している。実数では少ないが、そうした回答はわがままとも、権利意識の芽生えとも解釈が可能であり、興味深い。

続いて、中学生が親に対してどんなことを「してほしいか」あるいは「やめてほしい」と思っているかという観点から親子関係や権利意識の様子をみてみよう。今回の調査では、友だちづきあいや先生との関係、プライバシーの問題など10項目を尋ねたが、すでにそういった事柄について配慮している親も少なく

ないと考えられるので、選択肢には「ぜったいそうしてほしい」「別にどちらでもいい」「自分の親は今もそうしてくれている」の3つを用いた。

その結果が図2 - 3であるが、最も希望が高かったのは、「秘密にしているものは勝手に見ないでほしい」で、6割を超える中学生が「ぜったいそうしてほしい」と回答している。この項目に関して「自分の親は今もそうしてくれている」は1割強であり、彼らのプライバシー意識の高まりと、それに十分に対

図2 - 3 親にしてもらいたいこと



応できていない親とのギャップが感じられる。

続いて上位には、「家ではゆっくりと休ませてほしい」「いちいちうるさく言わないでほしい」「友だちづきあいに口を出さないでほしい」が上がり、4～5割の中学生が「ぜったいそうしてほしい」と思っている。中学生がこうした事柄を「権利」という枠組みにどれだけ結びつけているかはわからないが、「子どもの権利条約」の視点に立てば、おとなたちはもっと配慮が求められよう。他方、これらの項目では、「別にどちらでもいい」という回答が3～5割近くにも達していることも見逃せない。彼らの口癖である「べつに…」のニュアンスをどのように解釈すべきかは簡単ではないが、自分の部屋にこもってしまえば、親の言うことなど「あまり関係ない」ということなのかもしれない。

視点を変えて、「自分の親は今もそうしてくれている」の数値の高い項目をみると、4割の中学生が自分の親はおいしいご飯をつくってくれ、4人に1人が子どもの話を聞いてくれ、家族旅行の行き先は子どもと一緒に決めてくれると回答している。

表2-5には「親にぜったいそうしてもらいたいこと」の性差と学年差を示したが、それほど大きな違いは認められない。あえて細

かな数値に注目すれば、男子は運動量が増しておなかがすくのか、それとも好き嫌が多いのか、「おいしいご飯を食べさせてほしい」の数値が女子よりも高い。また、1年生では「家族旅行の行き先は一緒に決めたい」が他の学年に比べてやや高く、家族中心の行動に重きを置いていることが感じられるが、2年生では「友だちづきあいに口を出さないでほしい」で、また、3年生になると「秘密にしているものは勝手に見ないでほしい」で数値が高くなるなど、学年とともに自立への欲求が高まり、親の干渉をいやがる様子が読み取れる。

以上、本章では中学生の権利意識を考える前提として、彼らの家庭生活や親との関係を概観した。今回の調査対象者に関しては、親子関係は良好であり、親は善悪の判断の基準として信頼されている。また、「プライバシーへの配慮」には子どもの意識と現実にかなりのギャップがあることや、自分の親は納得できないことがあれば学校に抗議し、校則違反も悪くないと思えば認めてくれるという生徒も少数だがいることなども知ることができた。次章では、彼らの権利意識を学校生活の具体的な場面に即して、さらに検討していくことにしよう。

表2 - 5 親にぜったいそうしてもらいたいこと × 性・学年

(%)

	全 体	性 別		学 年		
		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
1. 秘密にしているものは勝手に見ないでほしい	64.0	62.6	65.4	61.1	61.8	67.5
2. 家ではゆっくりと休ませてほしい	47.3	50.5	44.0	46.6	45.7	49.0
3. いちいちうるさく言わないでほしい	45.2	46.2	44.1	40.2	46.0	48.1
4. 友だちづきあいに口を出さないでほしい	42.1	43.8	40.4	36.0	44.6	44.7
5. あまり自分に期待しないでほしい	29.0	27.0	31.0	28.4	29.9	28.7
6. おいしいご飯を食べさせてほしい	27.3	32.9	21.4	24.1	27.0	29.7
7. 家での様子を先生に言わないでほしい	26.3	25.1	27.5	30.8	27.7	22.1
8. 家族旅行の行き先は一緒に決めたい	20.5	20.5	20.5	25.1	17.9	19.1
9. 自分の味方になって最後までかばってほしい	11.6	11.0	12.2	12.8	12.3	10.2
10. もっと話を聞いてほしい	6.3	6.0	6.7	8.0	4.7	6.4

「ぜったいそうしてほしい」割合

第3章 学校生活と権利意識



中学生に「権利とは」と尋ねても、実生活に結びつかなければ、漠然としたイメージでしか答えられないであろう。その意味で、彼らが当事者としてかかわる身近な問題と関連づけて考えさせることができるかどうかの中

学生の権利意識を知る鍵になる。

本章では、毎日の学校生活で生徒たちが直面する具体的な問題から、彼らの権利意識の特徴を探ってみたい。

1. クラスの雰囲気 D D D

まず、「あなたのクラスはどんなクラスか」と尋ねた図3-1をみていただきたい。回答は分散が大きかったので、ここでは全体的な傾向をみるために、「とても+わりとそう」の数値の高い順に並べてみた。最も肯定する割合が高かったのは、「行事などではみんな協力してもりあがる」で「とても+わりと」が6割、「少し」を加えれば8割強の生徒が「そう」だと答えている。「男子と女子の仲がいい」や「チャイムが鳴ったら、先生がいなくても席につく」も肯定率は高く、「とても+わりとそう」が4割、「少しそう」を合

わせれば6～8割となる。

こうした数値には、日本の学校が力を入れて取り組んできた、協力することや基本的な生活習慣・態度を重視する教育が一定の成果を上げ、生徒たちに浸透していると評価することができる。

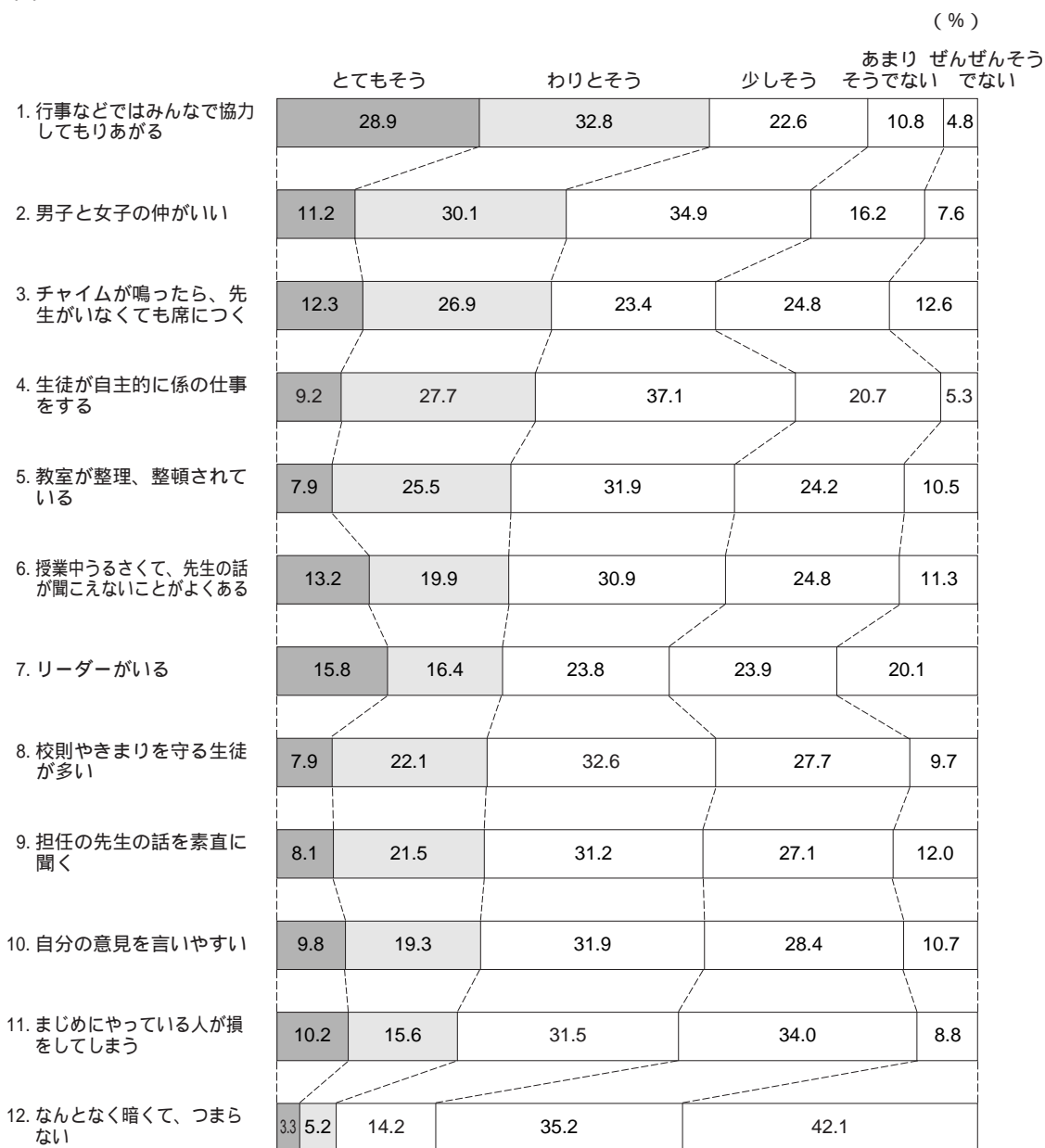
けれどもその一方で、「リーダーがいる」「校則やきまりを守る生徒が多い」「担任の先生の話を素直に聞く」「自分の意見を言いやすい」などでは、「とても+わりとそう」(約3割)より、「あまり+ぜんぜんそうでない」(4割)と感じる生徒の方が多いという別の

問題点も浮かび上がってくる。「まじめにやっている人が損をしてしまう」と感じている生徒も4人に1人いる。

調査した学校やクラスのそのときどきの様々な状況によっても異なる結果が出ると思われるが、少なからぬ生徒たちに「自分の意

見を言にくい」「まじめにやっている人が損をしてしまう」と感じさせる状況が学校にあることも、中学生の「権利意識」や「人権教育」を論じる前提として押さえておかなければならないだろう(学校差などについては、第4章以降で考察する)

図3-1 どんなクラスか



2 . 学校でいやな思いをした経験 D D D

言うまでもなく、学校は共同生活の場であるから、他者とのかかわり合いの中で自己を主張したり、反対に自我を抑え、他者を思いやらねばならない場面がしばしばおとずれ。そうした経験を積むことで、権利についての感覚が磨かれ、ふさわしい形でそれを扱うことができるようになって考えられる。そこで手始めに、これまでの中学生活で「権利」を侵されたような経験がどれくらいあるかを尋ねた。

その結果が図3 - 2であるが、上位には「先生がある生徒だけを特別扱いしたこと」「授業中、友だちにちょっかいをかけられたこと」「みんなの前で悪口を言われたこと」「悪くないのに、自分のせいにされたこと」などがあがった。さすがに、「しょっちゅうある」という生徒は1～2割であるが、「ときどき」を加えれば3～4割、「1、2回ある」まで含めると6～7割の生徒が経験している。反対に、「1度もない」の数値が高いのは、「これまでに、先生から体罰を受け

たこと」(77.4%)、「いじめを受けたこと」(76.8%)で、幸いなことに8割近い生徒はそうした経験がない。

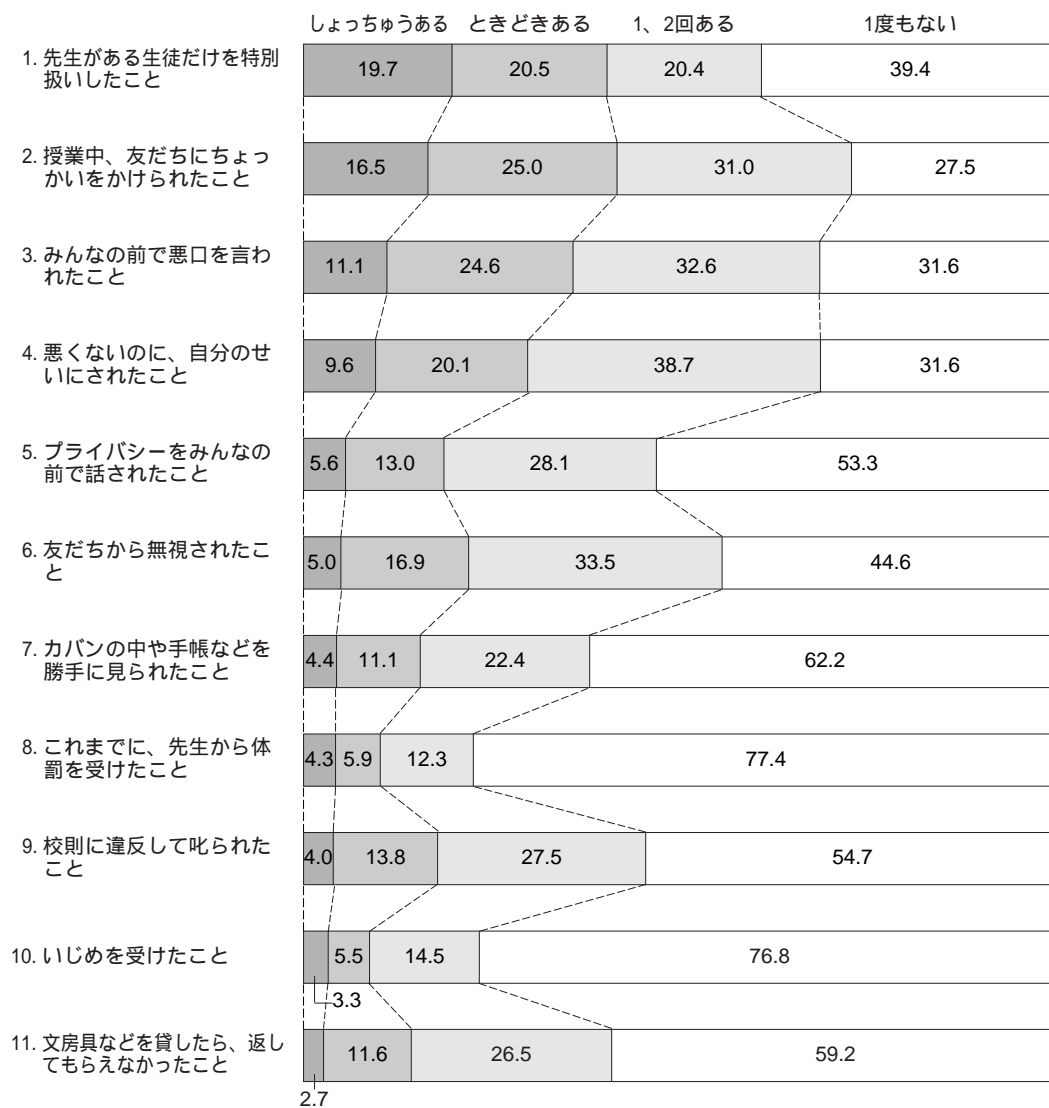
だが学校において、少なからぬ生徒がここにあげたような権利の侵害 - 軽微なものから深刻なものまであるが - を経験していることに私たちは目を向ける必要がある。

もちろん、こうした言い方にはいくつか留意が必要である。まず今回の調査では、この質問は「あなたは学校で次のような経験がありますか」というワーディングで尋ねており、「権利の侵害」という言葉は使っていない。したがって、中学生がそうした経験を「権利」と直接的に結びつけて考えているかどうかはわからない。また、その経験の程度や受け止め方には当然、個人差があろう。

大事なことは、理念的な議論になりがちな「権利」の問題を中学生の生活実態や視線に即して考え、意味のある学習に結びつけていくことではないだろうか。

図3 - 2 次のような経験がどれくらいあるか

(%)



そこで、次の表3 - 1は図3 - 2でみたような「学校で経験したこと」について、「どんな理由でもぜったいしてはいけない」「理由があればしてもいい」「しかたなくすることもある」の3つの選択肢を用いて、価値判断を試みた結果である。なお参考のため、右側に「これまでの経験」を「しょっちゅう+ときどきある」の数値で併記した(図3 - 2より)

これによると、「プライバシーをみんなの前で話すこと」「いじめること」「借りた文房具などを返さないこと」「先生がある生徒だけを特別扱いすること」「悪くないのに、その人のせいにする事」「先生が体罰をすること」「カバンの中や手帳などを勝手に見る事」などは、約8割の生徒が「どんな理由

でもぜったいしてはいけない」と考えており、彼らがまっとうな「権利意識や人権感覚」を持っていることにほっとする。しかし少数ではあるが、「理由があればしてもいい」と考える生徒がいることが気になる。

他方、「授業中、友だちにちょっかいをかけること」「校則に違反すること」「みんなの前で悪口を言うこと」では、無条件に「してはいけない」とする回答は4割と少ない。実は、「授業中、友だちにちょっかいをかけること」は「学習権」、「みんなの前で悪口を言うこと」は「人権」との関連を念頭に置いて質問したのだが、生徒たちはそうしたことを日常的に経験しているためか、それほど深刻には受け止めていないふしも見受けられる。

また、「校則に違反すること」に関しては、

表3 - 1 図3 - 2であげたことについてどう思うか

	どう思うか			これまでの経験*
	どんな理由でもぜったいしてはいけない	理由があればしてもいい	しかたなくすることもある	しょっちゅう+ときどきある
1. プライバシーをみんなの前で話すこと	83.8	5.0	11.2	18.6
2. いじめること	83.6	5.0	11.4	8.8
3. 借りた文房具などを返さないこと	81.7	6.7	11.5	14.3
4. 先生がある生徒だけを特別扱いすること	81.0	5.7	13.3	40.2
5. 悪くないのに、その人のせいにする事	79.8	3.2	17.0	29.7
6. 先生が体罰をすること	79.0	7.7	13.2	10.2
7. カバンの中や手帳などを勝手に見る事	78.3	6.7	15.0	15.5
8. 友だちを無視すること	57.6	11.5	30.8	21.9
9. みんなの前で悪口を言うこと	43.6	16.4	39.9	35.7
10. 校則に違反すること	43.3	20.7	35.9	17.8
11. 授業中、友だちにちょっかいをかけること	42.3	17.5	40.2	41.5

* 左の項目をされた経験(図3 - 2より)

その校則の内容にもよるのであろうが、校則を守っている生徒の中にも（「校則に違反して叱られたこと」が「しょっちゅう+ときどきある」の数値は17.8%にすぎない）、校則違反を「理由があればしてもいい」「しかたなくすることもある」と思っている生徒が少なくないことがわかる。加えて、「友だちを無視すること」において、「しかたなくすることもある」の数値が3割にも及ぶのは見過ごせないデータである。「いじめ」の構造にもかかわるとされるこの年齢の生徒たちに特有な「同調圧力」が感じられる。

表3 - 2 に性差と学年差を示した。それほど顕著な傾向はみられないが、特定の生徒の特別扱い（ひいき）や体罰については女子の方が敏感であり、「どんな理由でもぜったい

してはいけない」と思う割合が男子に比べて若干高い。逆に校則違反については、男子の方が「いけない」と思っている。

学年差が最も顕著にみられるのは校則に関してであり、1年生では半数以上が「校則に違反すること」は「どんな理由でもぜったいしてはいけない」と考えているのに対して、3年生では3割ほどに減少する。また、数値的にはわずかではあるが、プライバシーや他人のもの（所有権）への配慮などに関して、学年が進むにつれて鈍感になる傾向もみられる。学校生活への慣れがその原因と推測されるが、本来、成長とともにより敏感になるべき事柄であるだけに残念である。

表3 - 2 図3 - 2 であげたことについてどう思うか × 性・学年

(%)

	全 体	性 別		学 年		
		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
1. プライバシーをみんなの前で話すこと	83.8	81.3	86.6	86.7	83.9	81.7
2. いじめること	83.6	81.9	85.4	83.7	83.7	83.5
3. 借りた文房具などを返さないこと	81.7	79.7	83.9	84.5	82.0	79.6
4. 先生がある生徒だけを特別扱いすること	81.0	75.9	86.5	81.8	81.9	79.9
5. 悪くないのに、その人のせいにする	79.8	77.2	82.7	82.7	78.2	78.9
6. 先生が体罰をすること	79.0	70.8	87.9	81.7	79.0	77.1
7. カバンの中や手帳などを勝手に見ること	78.3	74.1	82.9	81.2	79.3	75.5
8. 友だちを無視すること	57.6	59.8	55.3	56.5	57.8	58.3
9. みんなの前で悪口を言うこと	43.6	40.5	47.0	43.6	42.7	44.3
10. 校則に違反すること	43.3	48.3	38.0	55.9	46.4	32.2
11. 授業中、友だちにちょっかいをかけること	42.3	39.7	45.1	49.7	42.1	37.2

「どんな理由でもぜったいしてはいけない」割合

3 . 意見を言いたいこと DDD

学校は集団生活であるから、みんなで分担して行う仕事や様々な行事や活動がある。それらは、これまで自治や協力、協働などの視点から重視されてきたが、今日、子どもを権利行使の主体としてとらえる意味で、「自分自身にかかわる問題について意見を表明し、参加すること」が注目されている。では、現実に中学生が学校の中で意見を表明したり決定に参加する機会はどのくらいあり、生徒たちは「意見の表明や参加」について、どのくらい関心を持っているのだろうか。

まず、図3 - 3は、どの学校でもホームルームの議題となるような「教室の座席」や「文化祭や体育祭のプログラム」などを例に、決め方の現状について尋ねたものである。

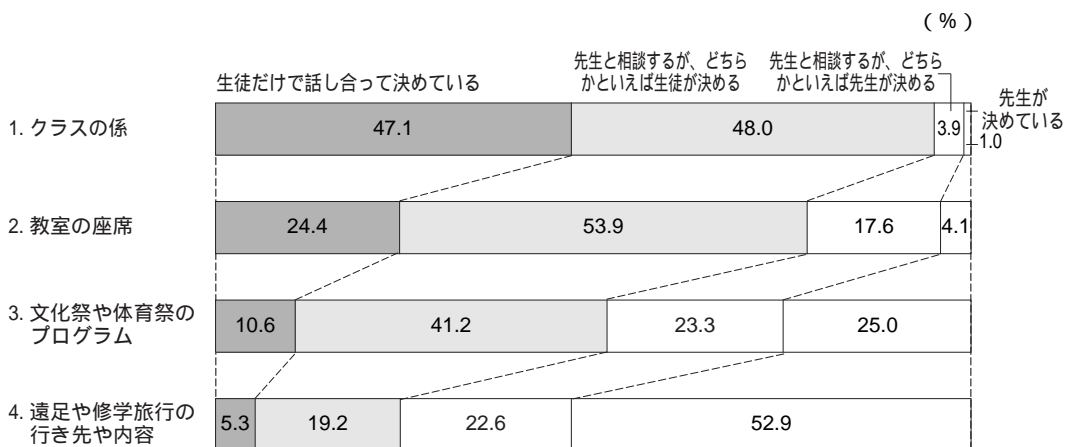
この図からは、生徒にかかわる事柄であっても、その決め方にはおおよそ3つのタイプがあることがわかる。すなわち、①「クラスの係」のような学級内における自治的協働的な活動に関しては、あくまでも生徒が中心になって決めている（「生徒だけで話し合っている」47.1%、「先生と相談するが、

どちらかといえば生徒が決める」48.0%）、②「教室の座席」などハード的な環境や特殊な事情（例えば、近視の子に対する配慮）も考慮すべき場合には、教師と相談しつつ生徒が決めている。それに対して、③全学的な行事については、先生の発言力が増してくる。「文化祭や体育祭のプログラム」では「先生が決めている」の25.0%、「先生と相談するが、どちらかといえば先生が決める」の23.3%を合わせると、半数が先生の主導である。「遠足や修学旅行の行き先や内容」では「先生が決める」だけで52.9%にもなる。

もちろん、文化祭や修学旅行についても一から十まですべてを教員サイドで決めてしまうことは少なく、教員が大枠を決めてから生徒に選択させたり、具体的な内容を考えさせたりするというのが現実の姿であろう。ともあれ、自分たちの問題を自分たちで相談し、決定することが少ない中学生の現状を知ることができる。

そこで次に、「自分の意見を言うことができる」という条件をつけて、「係分

図3 - 3 次のことを決めるとき、どのように決めるか



担や服装についてのきまり」などの身近な問題から、「時間割や自分の成績」といった学習内容にかかわるやや高度な問題、あるいは、「新しい公園のプラン」といった社会的な広

がりをも有するものまで13項目を掲げて、意見を言いたいかどうかを尋ねてみた。

その結果が図3 - 4であるが、まず読み取れるのは、「意見を言いたい」という強い意

図3 - 4 自分の意見を言えるとしたら、言いたいか

(%)

	とても言いたい	わりと言いたい	少し言いたい	あまり 関心がない	ぜんぜん 関心がない
1. 遠足や修学旅行の行き先や内容	26.0	19.1	24.0	19.5	11.5
2. 高校入試の仕方	22.9	16.5	25.8	22.5	12.2
3. 部活動の活動計画や練習方法	20.0	17.5	28.0	23.0	11.5
4. 通知表につける成績	23.8	13.5	25.4	24.8	12.5
5. 教室の座席	19.4	17.7	27.6	24.1	11.2
6. 服装や髪型についてのきまり	20.9	14.4	24.2	24.1	16.3
7. 時間割	20.3	13.7	22.0	27.9	16.1
8. 災害にあった人たちを助けるためにどんなことをするか	13.2	16.9	33.8	23.5	12.7
9. クラスの係	13.7	14.2	23.7	34.4	14.0
10. 授業で勉強する内容	15.1	12.3	25.3	31.3	15.9
11. 文化祭や体育祭のプログラム	11.3	11.3	23.2	34.3	19.8
12. 卒業式のプログラム	12.1	10.4	21.0	36.7	19.8
13. 校区にできる新しい公園のプランづくり	12.8	8.5	14.8	34.5	29.4

欲が全般的に感じられないことである。楽しい行事であるはずの「遠足や修学旅行の行き先や内容」でさえ、「とても言いたい」のは26.0%、「わりと言いたい」の19.1%を合わせても45.1%にすぎない。「少し言いたい」まで加えればどうにか7割に達するものの、「関心がない」も3割いる。この図は「とても+わりと言いたい」の数値に着目して整理してあるが、誰もが気になる「高校入試の仕方」や「通知表につける成績」でも、学校生活を過ごすうえで身近な問題である「部活動の活動計画や練習方法」や「教室の座席」、「服装や髪型についてのきまり」でも、意見を「とても+わりと言いたい」は4割に満たない。「あまり+ぜんぜん関心がない」も同じく4割である。

最も関心の低かった「校区にできる新しい公園のプランづくり」については、中学生にとっては現実味が薄いと考えられ、関心度が低いのもいたしかたないといえようが、「文

化祭や体育祭のプログラム」や「授業で勉強する内容」においても半数が「関心がない」のはどうしたことであろうか。学校ではいつも与えられるもの、自分の意志とは関係なく決められていくものと思ひ込み、受け身でいることに慣れきってしまい、意見を言うことすらどうでもよくなってしまっているとしたら、由々しき問題である。

では、どうすればこうした事柄に関心を持ち、自らの意見を表明できるようになるのであろうか。そこで、次の表3-3をみていただきたい。

この表は、先の図3-1を手がかりに、「クラスが自分の意見を言いやすい雰囲気であるかどうか」に着目して作成したものである。

具体的には、「(あなたのクラスは)自分の意見を言いやすい」という質問項目に対して、「とても+わりとそう」と回答した群(355名)と「あまり+ぜんぜんそうでない」と回答し

表3-3 自分の意見が言えるとしたら、言いたいか
× クラスの雰囲気(自分の意見を言いやすい)

(%)

	自分の意見を 言いやすい (355名)		自分の意見を 言にくい (480名)
1. 遠足や修学旅行の行き先や内容	55.4	>	43.3
2. 通知表につける成績	40.2		40.6
3. 高校入試の仕方	42.7		40.7
4. 服装や髪型についてのきまり	45.6	>	34.4
5. 時間割	37.7		36.2
6. 部活動の活動計画や練習方法	45.5	>	34.6
7. 教室の座席	47.9	>	32.8
8. 授業で勉強する内容	30.7		28.1
9. クラスの係	38.0	>	22.9
10. 災害にあった人々を助けるためにどんなことをするか	33.8		29.5
11. 校区にできる新しい公園のプランづくり	28.5		19.5
12. 卒業式のプログラム	28.5		22.2
13. 文化祭や体育祭のプログラム	32.1	>	19.2

「とても」+「わりと」言いたい割合
> は差が10%以上

た群(480名)を抽出し、図3-4にある項目についてどれくらい「自分の意見を言いたい」と思っているかを比較したものである(「とても+わりと言いたい」の数値で)

不等号の向きが示すように、「遠足や修学旅行の行き先や内容」「服装や髪型についてのきまり」「部活動の活動計画や練習方法」「教室の座席」「クラスの係」「文化祭や体育祭のプログラム」など、生徒にとって身近で、また、その気になれば自分の意見を反映させることができるような事柄については、クラスが「自分の意見を言いやすい」かどうか、大きなファクターとなっていることがわかる。このことから、多様な意見を許容し合える、民主的な雰囲気や学級づくりが大切であると言える。

次の表3-4は、同様な方法を用いて、クラスに「まじめにやっている人が損をしてしまう」ような雰囲気があるかどうかで比較したものである。

ここでも不等号の向きに注目すると、「まじめにやっている人が損をするクラス」と感じている群(「とても+わりとそう」315名)は「まじめにやっている人が損をしないクラス」と思う群(「あまり+ぜんぜんそうでない」523名)よりも、「通知表につける成績」「高校入試の仕方」「教室の座席」において、「意見を言いたい」と思う割合が高いことがわかる。成績や進学に直結するような事柄で、「言わなければ損をしてしまう」と不満を感じる時、「自分の意見を言いたい」と思うのは当然であろう。他方、「まじめにやっている人が損をしない」群の数値が全般的に低いのは、どう解釈したらよいであろうか。「まじめにやっている人が損をしない」のであれば、声高に自己主張する必要はないと考えているのだろうか。日本人の気質や集団の特性にかかわる問題であるが、気になるところである。

表3-4 自分の意見が言えらしたら、言いたいか

× クラスの雰囲気(まじめにやっている人が損をする)

(%)

	まじめにやっている 人が損をする (315名)		まじめにやっている 人が損をしない (523名)
1. 遠足や修学旅行の行き先や内容	48.6		44.9
2. 通知表につける成績	47.9	>	31.2
3. 高校入試の仕方	47.6	>	34.9
4. 服装や髪型についてのきまり	42.4		33.4
5. 時間割	37.5		30.8
6. 部活動の活動計画や練習方法	41.6		36.5
7. 教室の座席	43.2	>	32.3
8. 授業で勉強する内容	30.9		25.2
9. クラスの係	31.7		26.4
10. 災害にあった人々を助けるためにどんなことをするか	32.4		28.7
11. 校区にできる新しい公園のプランづくり	22.5		20.0
12. 卒業式のプログラム	24.8		20.5
13. 文化祭や体育祭のプログラム	26.8		21.3

「とても」+「わりと」言いたい割合
> は差が10%以上

4 . 話し合いに参加するか、 リーダーを引き受けるか D D D

前節では、中学生に様々なテーマを提示して、「意見を言いたいか」どうかを尋ねた結果を検討してきた。もちろん、そこで「言いたい」と答えていても、実際に話し合いの場で建設的な意見を表明したり、提案の具体化に向けて主体的に行動するかどうかまでは、わからない。

そこで、その「本気度」を確かめるために、「意見を言ってみたいか」から一歩進めて、「(1)放課後に話し合いが開かれるとしたら、自主的に参加するか」(2)「リーダーになってほしいと頼まれたら、引き受けるか」と尋ねてみた。なお、具体的なイメージを持たせるため、話し合いの内容は次の3つをあげた。すなわち、①学校行事の代表例として「文化祭や体育祭のプログラム」、②学習への主体的な参加という観点で「授業で勉強する内容」、③社会的な広がりやを考慮して「公園のプランづくり」である。②と③は、現在では生徒が参画することは少ないと思われるが、将来実現するかもしれない学習形態を想定した。中学生の授業や学習に対しての考え方を知りたいという意図もある。

まず、「放課後の自主的な話し合い」への

参加を尋ねた表3 - 5をみると、「ぜったい参加する」と積極的な生徒は、3つのいずれの内容についても10%程度にすぎないことがわかる。「たぶん参加する」を合わせると、「文化祭や体育祭のプログラム」「授業で勉強する内容」でどうにか半数、「公園のプランづくり」では3割強である。「ぜったい参加しない」と、はなから拒否する生徒も1～2割いる。半数の中学生は強制されなければ、放課後の自分の時間を割いてまでそうした話し合いに参加しようとは思わないのである。

「リーダーを引き受けるか」では、さらに数値は減少する。表3 - 6に示したように、「ぜったい引き受ける」はいずれも10%に満たず、「たぶん引き受ける」を加えても「文化祭や体育祭」のリーダーで3割強、「授業で勉強する内容」「公園のプランづくり」のリーダーで2割強である。

もちろん客観的にみて、「リーダーにふさわしい」資質の持ち主はそれほど多いとは言えないだろう。話し合いに参加し、みんなをリードしようという意欲を持った生徒が1割でもいれば、ものごとはどうにか進むのかもわからない。しかし、学校は試行錯誤を繰り返し、

表3 - 5 放課後の話し合いに参加するか

(%)

	ぜったい参加する	たぶん参加する	たぶん参加しない	ぜったい参加しない
1. 「文化祭や体育祭のプログラム」を決める話し合い	14.0	36.3	38.2	11.5
2. 「授業で勉強する内容」を決める話し合い	13.2	34.9	38.5	13.4
3. 「公園のプランづくり」のための話し合い	10.1	24.2	41.9	23.8

成長していくための場所である。生徒の半数が話し合いに参加したくない、リーダーを引き受けたくないという現状はやはり望ましいものではない。では、どうしたらもっと多くの生徒たちがそうした問題に積極的にコミットできるようになるのであろうか。

そこで、先の表3 - 3、表3 - 4と同様の方法でクラスの雰囲気との関係を調べた、表3 - 7（自分の意見を言いやすいか）表3 - 8（行事でもりあがるか）をごらんいただきたい。

不等号の向きが示すように、2つの表からは「自分の意見を言いやすい」と感じていたり、また、クラスメートと「行事でもりあが

った」経験があることで、放課後の話し合いに参加したり、リーダーを引き受けてもいい、と回答する割合が高くなるのがわかる。

こうした調査結果は、「自分の意見がみんなに受け入れられるという安心感」や「共に何かをやり遂げた充実感」がアクションを起こすきっかけになることを示唆しており、生徒たちが「権利主体」にふさわしい成長を遂げるために、どんな援助ができるかのヒントを与えてくれる。「子どもの権利条約」にある「意見表明権」や「参加権」を言葉として論じたり、それを単に生徒に保障するだけでは、成果が期待できないことを肝に銘じたい。

表3 - 6 リーダーを引き受けるか

(%)

	ぜったい 引き受ける	たぶん 引き受ける	たぶん 引き受けない	ぜったい 引き受けない
1. 「文化祭や体育祭」のリーダー	8.9	27.8	38.8	24.5
2. 「授業で勉強する内容」を決めるリーダー	5.6	17.8	45.8	30.8
3. 「公園のプランづくり」のリーダー	6.8	17.7	40.8	34.6

表3 - 7 「放課後の話し合いに参加する」「リーダーを引き受ける」
× クラスの雰囲気（自分の意見を言いやすい）

(%)

	自分の意見を言いやすい (355名)		自分の意見を言にくい (480名)
1. 「文化祭や体育祭のプログラム」を決める話し合い	60.6	>	45.5
2. 「授業で勉強する内容」を決める話し合い	54.1	>	42.9
3. 「公園のプランづくり」のための話し合い	40.0		31.2
4. 「文化祭や体育祭」のリーダー	51.6	>>	29.4
5. 「授業で勉強する内容」を決めるリーダー	35.8	>	17.7
6. 「公園のプランづくり」のリーダー	33.8	>	20.6

1~3は「ぜったい+たぶん参加する」、4~6は「ぜったい+たぶん引き受ける」の数値
>は10%以上、>>は20%以上

表3 - 8 「放課後の話し合いに参加する」「リーダーを引き受ける」
 × クラスの雰囲気（行事でもりあがる）

(%)

	行事でもりあがる (754名)		行事でもりあがらない (192名)
1. 「文化祭や体育祭のプログラム」を決める話し合い	57.4	>	38.5
2. 「授業で勉強する内容」を決める話し合い	53.5	>>	31.3
3. 「公園のプランづくり」のための話し合い	38.6	>	27.0
4. 「文化祭や体育祭」のリーダー	41.9	>	29.5
5. 「授業で勉強する内容」を決めるリーダー	26.1		20.1
6. 「公園のプランづくり」のリーダー	27.5		24.2

1~3は「ぜったい+たぶん参加する」、4~6は「ぜったい+たぶん引き受ける」の数値
 >は10%以上、>>は20%以上

5 . 権利か、それともわがままか D D D

さて「子どもの権利条約」は、現状では学校現場に浸透しているとは言えないが、その理由の1つに、教師側の「生徒に権利主張されては学校が混乱する」「主張ばかりして義務を果たさないのではないか」という(本音の部分での)抵抗感があるとされる。

先の4節では、放課後の話し合いへの参加やリーダーを引き受けることについての意識を検討したが、彼らの回答には みんなのことにかかわるよりも、自分の好きなことを優先しようとする - それこそが「権利」であると考え - ふしを感じられる。これでは、「権利を保障すれば、自分勝手な行動を助長しかねない」と心配するのも無理はない。

そこで最後に、当事者である生徒自身に「権利の主張」と「わがまま」の境界線を尋ねた図3 - 5をみておこう。

この表には、どの学校でも目にするような身近な行動について質問しているが、「ぜったい+やや権利の主張」の数値に着目すると、「授業中にトイレに行きたくなったら行く」は7割、「制服(標準服)の着方をちょっとだけ変える」「校則に決められているけれど、好きな髪型にする」で、半数の生徒が「権利」であると考えていることがわかる。

少し前ならば、「トイレは休み時間に行くべきで、仮に授業中に行きたくなってもがまんすべきこと」であり、また、校則と異なる服装や髪型は「してはならないこと」であった。けれども今の中学生たちにとって、それらは「わがまま」というよりは、「その人の権利」(あるいは自由か?)と受け止められていることがわかる。おそらくマスコミなど

の影響もあるだろうが、「権利意識の拡大」が示されている。

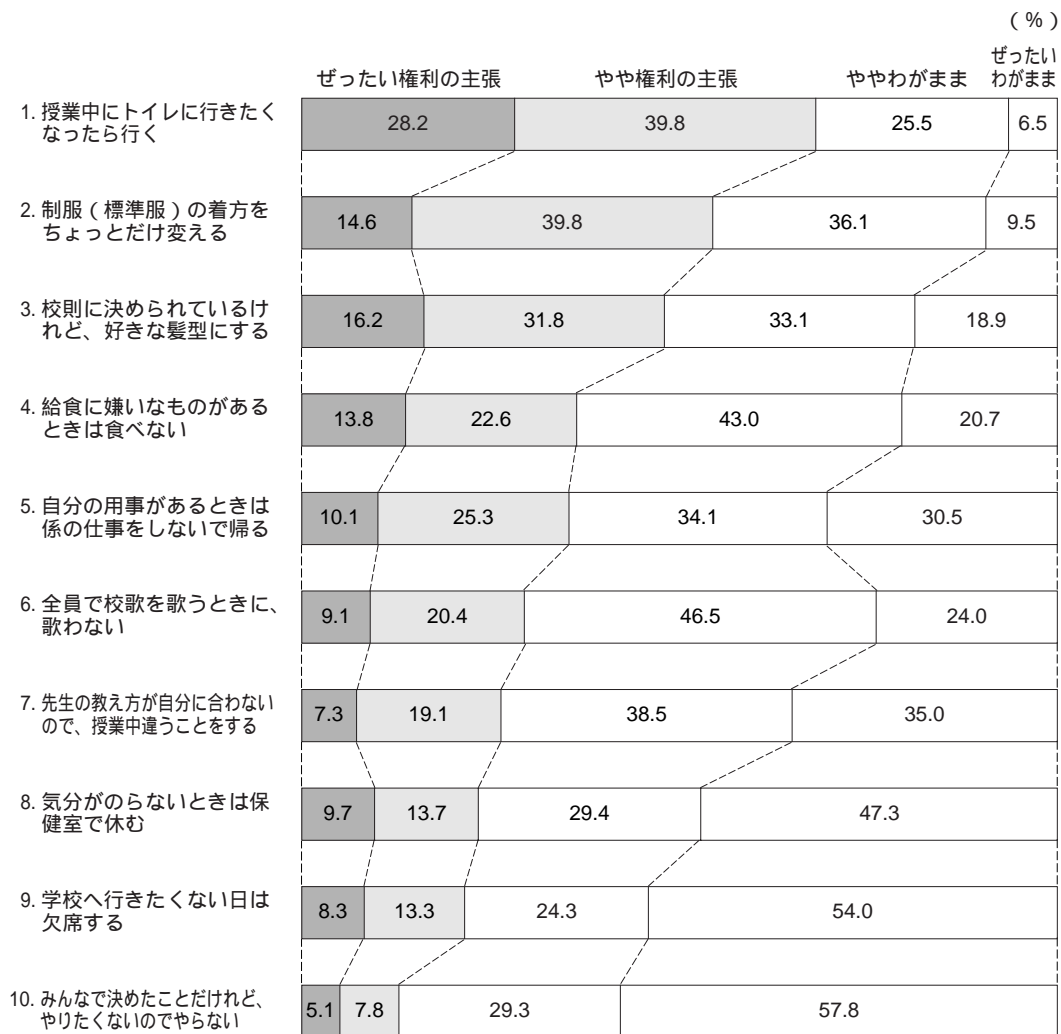
もちろん彼らも、「みんなで決めたことだけれど、やりたくないのだからやらない」「学校へ行きたくない日は欠席する」「気分がのらないときは保健室で休む」のは、半数が「ぜったいわがまま」だと考えている。しかしそれらでさえ、「権利」ととらえる生徒も1 - 2割いることは注目される。

それ以外にも、「給食に嫌いなものがあるときは食べない」「自分の用事があるときは係の仕事をしないで帰る」など、かつては「生活指導の対象」となったような事柄でも、「ぜったいわがまま」と判断する生徒よりも「権利の主張」と考える生徒の方が多いこと(「ぜったい+やや権利の主張」の数値で)なども見逃すことはできない。いわゆる「内職」(「先生の教え方が自分に合わないので、授業中違うことをする」)でさえ、「先生の教え方が自分に合わなければ、それは権利だ」と思う生徒も4人に1人の割合でいる。

こうした結果について、考え方の幼さや身勝手さを指摘することはたやすいが、「権利」という言葉においてイメージするものが中学生とおとなとは異なることも理解しておきたい。そのうえで、彼らの権利意識や生活実態に即して、権利を保障し、権利行使の主体へと育てていかななくてはならないだろう。

次章では、中学生の権利意識が最もヴィヴィッドに示される「学校のきまり」に関連して、自由記述を中心にもう少し掘り下げて考察していこう。

図3 - 5 次のことは権利か、それともわがままか



第4章 学校のきまり



本章では、学校のきまりに関する中学生の意識についてみていきたい。

学校のきまりというと、まず私が思い浮かべるのは、都会から田舎の中学校へ転校したときのことである。その田舎の中学校の校則では、髪は五分刈りと決まっていた。長髪にしていた私にとって、さらにショックだったのは、登校初日に廊下で見知らない教師から「その頭は何だ！ きさまはどういうつもりで学校に来ているんだ！」といきなり怒鳴られたことである。そのときはクラスメートが「きょう転校してきたので」とかばってくれたのを覚えている。私はすぐに五分刈りにしたし、成績優秀で学校の規則を守る優等生だったが、それ以来、教師に対して素直に心

を開くことは少なくなったと思う。

ここで申し上げたいのは、髪に関する校則の是非や、教師への非難ではない。学校のきまりには、管理という側面と教育という側面がある。どういうきまりを、どういう形で生徒に伝えるかによって、その子どもに自分がどういう存在として扱われているかを感じさせるし、一度の不幸な経験がその後の人間関係に影を落とすこともあることを指摘したい。

本章では、こうした問題について直接論じることは控えたいが、得られたデータから、どのような生徒の意識が見えてくるか、それがどのような問題を私たちに問いかけているかを述べたい。

1 . 学校のきまりに対する疑問 D D D

表4 - 1は、いくつかの学校のきまりに対して、中学生が疑問を感じたかを聞いた結果を表している。上から「疑問を感じなかった」割合が高い項目順に並んでいる。特に下位の項目で「自分の学校にそのようなきまりはない」と答えている割合が高いため、これを除いた回答者を母数に、それぞれの割合を新たに算出しながらしてみた(図4 - 1)。ここで

は、この数字を中心に分析する。

まず、「疑問を感じなかった」割合が高い項目は、「授業の前後にあいさつをすること」79.3%、「学校で掃除をすること」72.5%、「授業中にいねむりをすると叱られること」72.5%である。これらは、日常の学校のきまりとして生徒に受け入れられているのであろう。ただし、こうした日本の中学校で一般的

表4 - 1 学校のきまりに対して疑問を感じたか

(%)

	疑問を感じ なかった	疑問を感じた が自分の胸に しまっていた	疑問を感じて 友だちと不満 を言い合った	疑問を感じて 先生に文句を 言った	自分の学校に そのような きまりはない
1. 授業の前後にあいさつ(「起立・礼」など)をすること	79.0	14.5	5.1	1.0	0.4
		└──────────────────┘ 20.6			
2. 学校で掃除をすること	72.1	13.8	11.2	2.4	0.5
		└──────────────────┘ 27.4			
3. 授業中にいねむりをすると叱られること	68.7	15.9	8.2	2.0	5.2
		└──────────────────┘ 26.1			
4. マラソン大会や合唱大会などがあること	60.6	17.2	18.8	2.8	0.7
		└──────────────────┘ 38.8			
5. 決められたワイシャツやジャージを着ること	58.4	21.9	15.6	1.9	2.3
		└──────────────────┘ 39.4			
6. クラブ活動に全員参加すること	55.5	22.1	12.5	2.1	7.8
		└──────────────────┘ 36.7			
7. ピアスをしてはいけないこと	51.2	17.2	14.6	2.2	14.8
		└──────────────────┘ 34.0			
8. 校則で髪型を決めること	28.8	21.7	21.1	2.6	26.0
		└──────────────────┘ 45.4			
9. 学校で持ち物検査をすること	19.4	12.7	10.9	2.8	54.2
		└──────────────────┘ 26.4			

と思われるきまりでも、100%の生徒が納得しているわけではない。言うまでもなく、時と場所が異なれば、どのようなきまりも「当たり前」ではなくなるし、指導のされ方でも受け取り方が変わることがある。

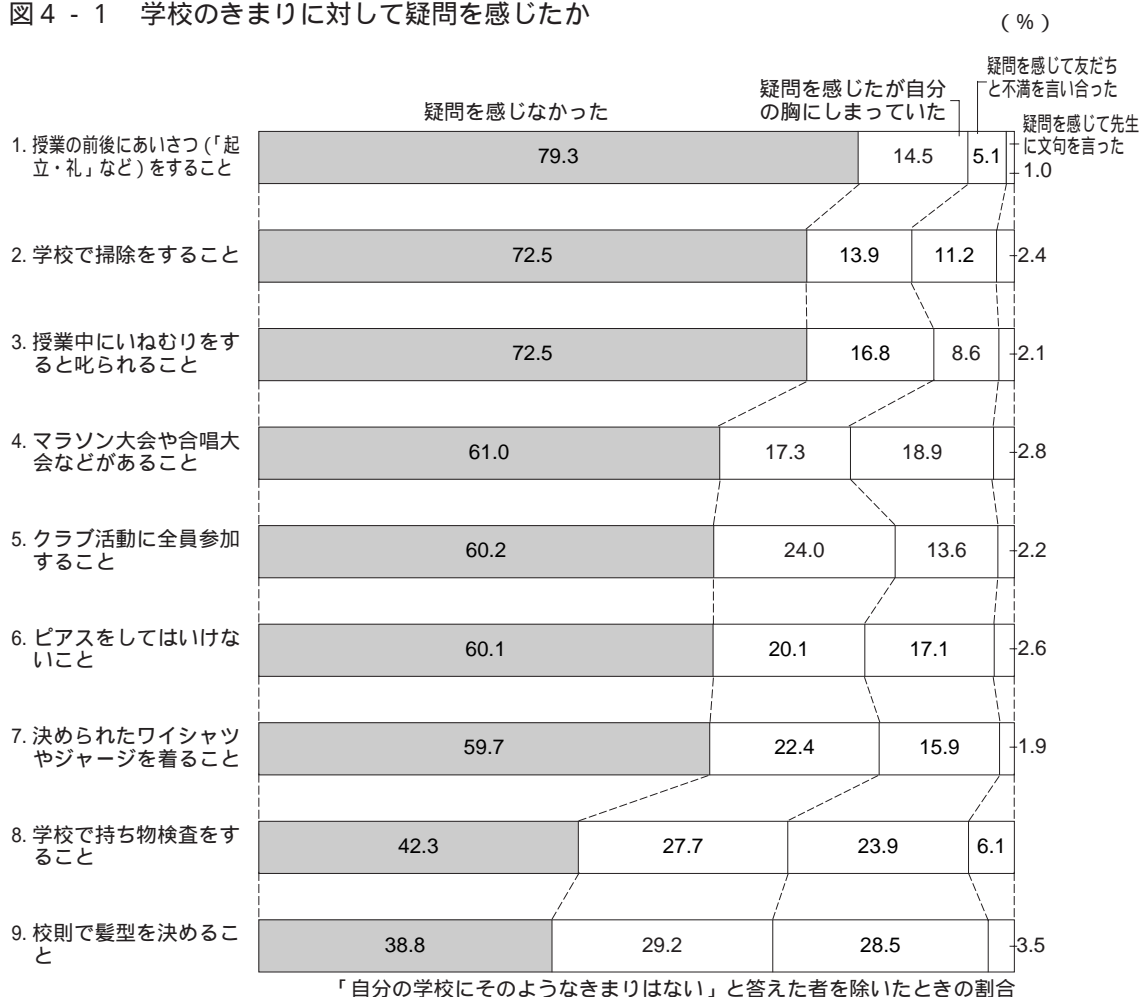
次に「マラソン大会や合唱大会などがあること」61.0%、「クラブ活動に全員参加すること」60.2%、「ピアスをしてはいけないこと」60.1%、「決められたワイシャツやジャージを着ること」59.7%がほぼ同じ割合で続く。そして、「学校で持ち物検査をすること」42.3%、「校則で髪型を決めること」38.8%となっている。裏をかえせば、持ち物検査や髪

型については、自分の学校にそういうきまりがあると答えた生徒のうち、約6割が疑問を感じていることになる。

生徒の抵抗が強いからきまりとして不適当ということにはならないが、持ち物検査や頭髪の問題は、社会で重視されつつあるプライバシーや基本的人権とかかわることを教師は留意すべきであろう。生徒がどこまで人権と関連づけて意識しているかは不明だが、半数以上の生徒が疑問を感じるようなきまりについては、指導の方法などを十分配慮した方がよいと思われる。

このことと関連して、「疑問を感じたが自

図4-1 学校のきまりに対して疑問を感じたか



分の胸にしまっていた」と答えた生徒が、各項目で2～3割いることが注目される。さらに「疑問を感じて先生に文句を言った」は、どの項目でも数%しかなく、疑問を教師に言うのはまれなケースであることがわかる。『納得したわけではないがしたがっておく』ということが悪い状態とは思わないが、教師の側からすれば、生徒の本音を引き出すような関係をつくらずに表面だけをみて判断してしまう危険性を指摘しておきたい。たとえば、持ち物検査や髪型の指導をした場合、7割の生徒は何も言わずにしたがうだろうが、納得しているのは4割にすぎないということが起こりうるわけである。

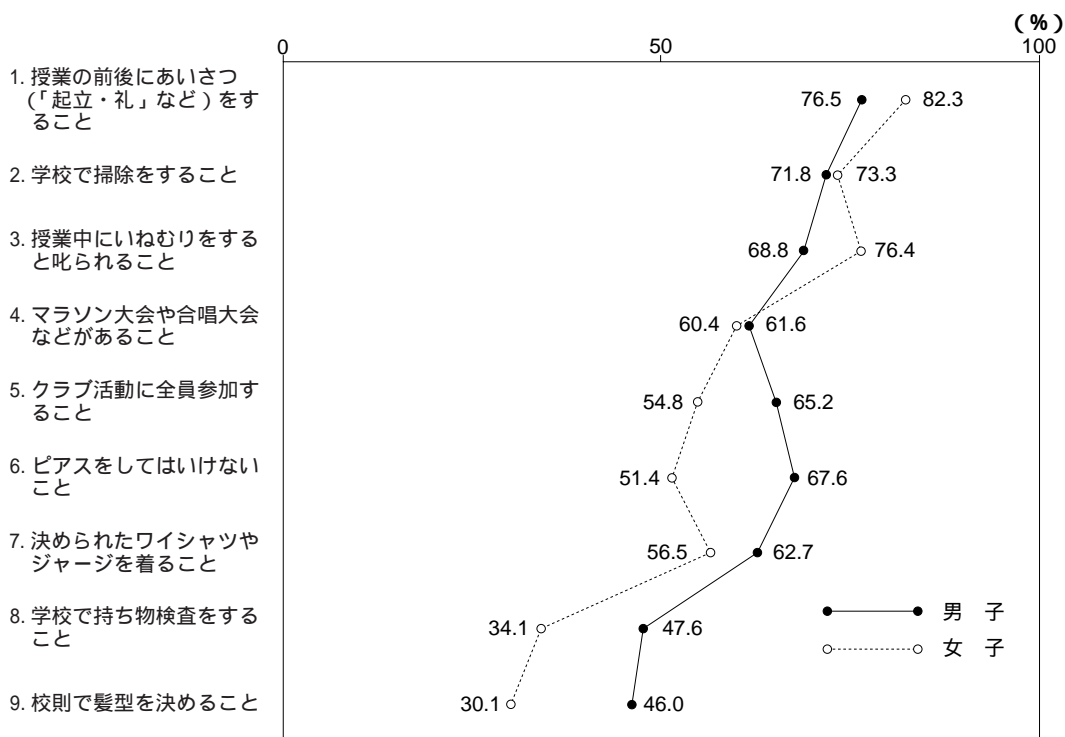
次に、性別による差を図4-2に示してみた。図の数字は、「そのようなきまりはない」と答えた者を除いた生徒のうち、「疑問を感じなかった」と答えた者の割合である。男女で1割以上の開きがあるのは、「クラブ活動に全員参加すること」(男子65.2%、女子

54.8%)、「ピアスをしてはいけないこと」(男子67.6%、女子51.4%)、「学校で持ち物検査をすること」(男子47.6%、女子34.1%)、「校則で髪型を決めること」(男子46.0%、女子30.1%)で、いずれも女子の割合が低い。一般的に女子の方が、きまりに疑問を感じることが多いことになる。女子の方が、成熟が早い、細かい規則にひかかりやすい、指導する側に男性教諭が多いなどの理由が推測できる。

では、学校差はどうであろうか。ここでは、学校間で数字上の差が大きかった3項目「ピアスをしてはいけないこと」(図4-3)、「校則で髪型を決めること」(図4-4)、「学校で持ち物検査をすること」(図4-5)を取り上げる。調査した6校の中でB校、E校は、比較的きまりが少なく自由な学校である。なお、D校はサンプルが3年生のみなので、ここでは分析対象から除外する。

まず、学校差で目立つのは、B校とE校で

図4-2 学校のきまりに対して疑問を感じなかった生徒の割合 × 性



疑問を感じなかった生徒 / 自分の学校にそのようなきまりがあると答えた生徒

3つのきまりとも「自分の学校にそのようなきまりがない」とする生徒が多い。自由な校風の中、きまりについては個別指導に任されていることが読み取れる。特にE校は「E中宣言」として、生徒に自主的にきまりを考えさせる取り組みを行っている。こうした学校のようにきまりを少なくすれば、当然、疑問を感じる生徒の割合も減る。もちろん、現実どこまで可能かは各学校の事情によるだろう。

きまりごとにみると、「ピアスをしてはいけないこと」について学校差が大きいことがわかる。ほとんどの生徒がきまりで禁止されていると感じているA校、C校、F校を比較すると、「疑問を感じなかった」は、それぞれ59.3%、70.8%、45.9%と大きな開きがある。それに対して、「校則で髪型を決めること」については、A校36.7%、C校29.5%、F校35.1%とあまり差がみられない。また、「持ち物検査をすること」については、どの

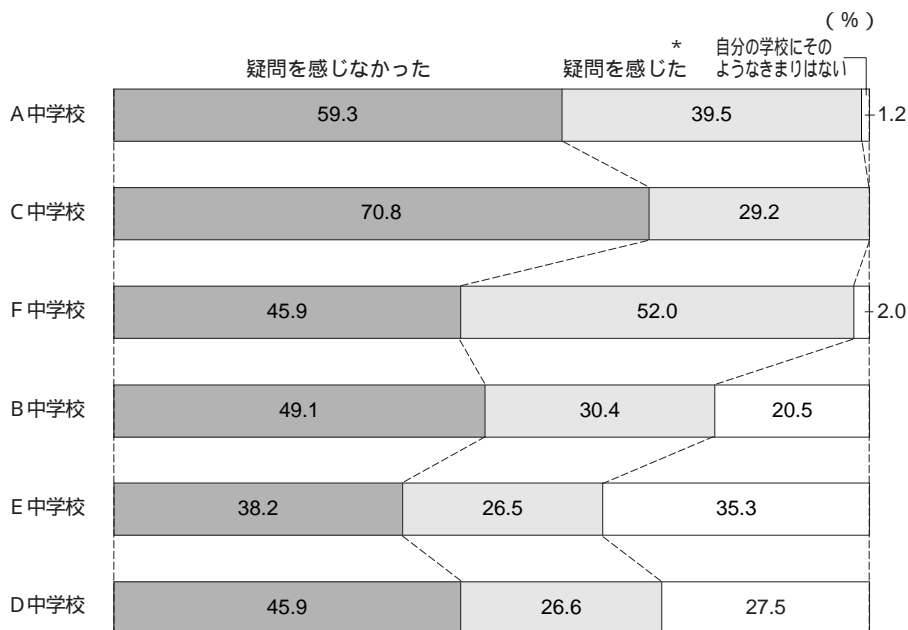
学校も「自分の学校にそのようなきまりがない」という生徒が多く、必要に応じて実施されていることがわかる。

このように、どの学校でも6～7割近くの生徒が支持しないきまり（今回でいえば「髪型」）がある一方で、生徒が受け入れる余地があるきまり（今回でいえば「ピアス」）については、学校によって、生徒が疑問を感じる割合に大きな差が生まれるようである。

学校は子どもが社会に出る前に集団生活を体験できる場である。そう考えると、集団の中できまりを通して何を学ぶかが重要になる。生徒はきまりというものを一律にはとらえていない。果たして教師はどうであろうか。「きまりはきまり」として守らせることに注力するあまり、その質的な意味の違いを考えたり、生徒の声に耳を傾けることがおろそかになっていることはないだろうか。

次節では、フリーアンサーでもう少し詳しく生徒の意見をみていきたい。

図4-3 「ピアスをしてはいけないこと」に対して疑問を感じたか × 学校



* 疑問を感じた（「疑問を感じたが自分の胸にしまっていた」＋「疑問を感じて友だちと不満を言い合った」＋「疑問を感じて先生に文句を言った」）

図4 - 4 「校則で髪型を決めること」に対して疑問を感じたか × 学校

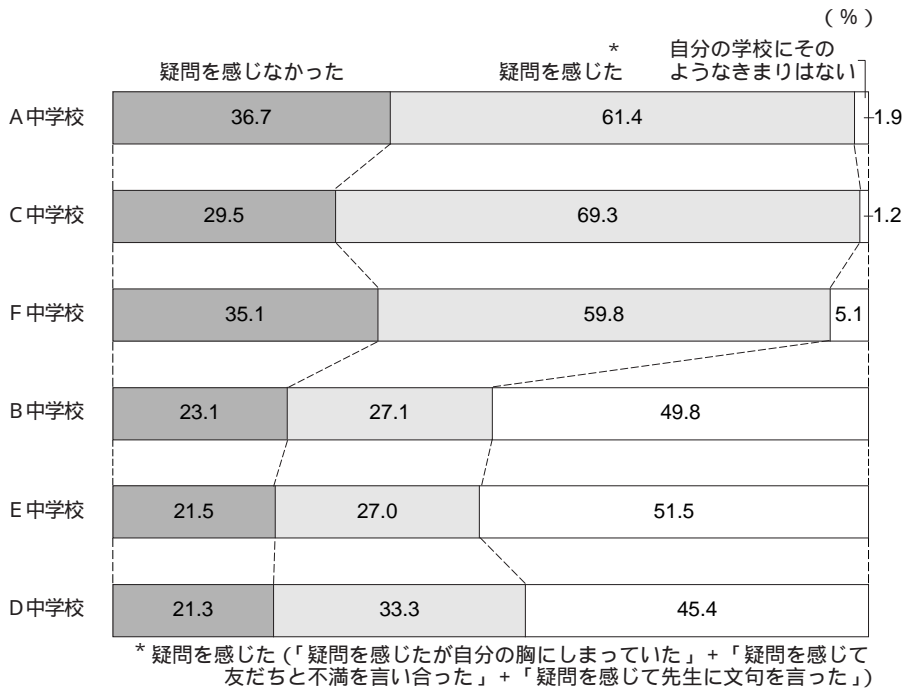
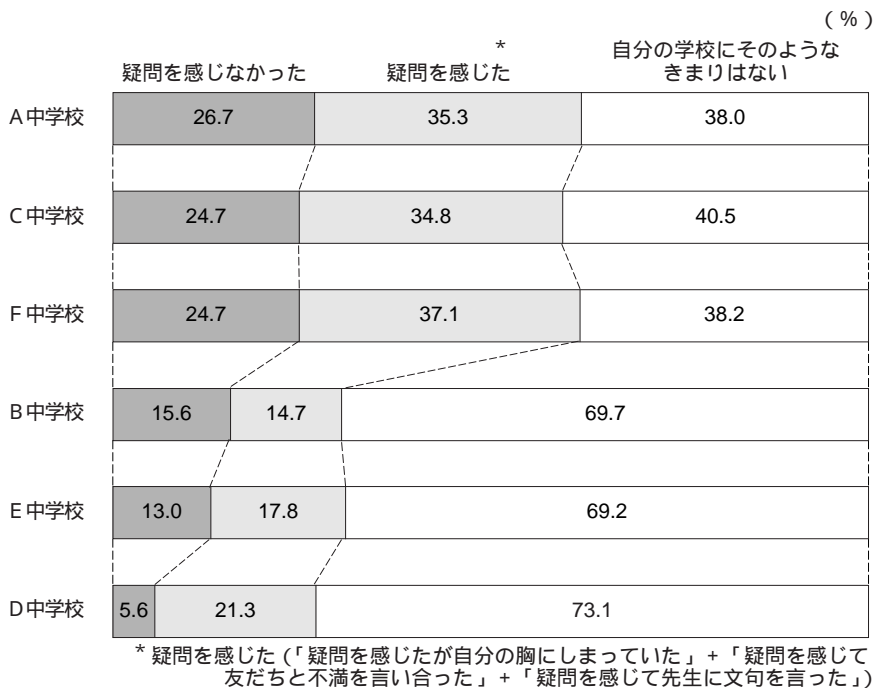


図4 - 5 「学校で持ち物検査をすること」に対して疑問を感じたか × 学校



2. 自由記述から見えてくること D D D

フリーアンサーの質問は「学校のきまりや校則について言いたいことがあれば」となっていたが、こういう場合、通常は不満が記入されることが多い。今回も8割近くが学校のきまりへの疑問や注文、不満に類する内容だった（詳細は巻末P.94以降の資料3参照）。

しかし、詳しくみていくと同じ学校でも様々な意見がある。まず、その中で注目したいのは、きまりの必要性を述べる意見がみられることである。

…僕たちのことをどうでもいいというのなら注意もしてくれない。…ブーブー言う前に、自分のやったことをよく考えた方がいいと思う。（A中男子）

きまりは、守らなきゃいけないと思います。（C中女子）

もう少しきびしくしてもいいのでは、と思う。校則を守ってない人もいるし、それをもっと気をつけるべきだと思う。（E中女子）

きまりに対する不満は数多くみられたが、単に特定のきまりに対する不満だけでなく、そのきまりの矛盾やデメリット、納得ある説明の不足などを指摘する意見もあった。

必要なものもあるけど、何でいけないのかわからないものも多い。どうして校則で決まっているのかも教えるべきだと思う…おとなの勝手な言い分などでいつもはぐらかされる。（A中女子）

くつ下のワンポイントが入ってたって、別に白いくつ下だったらいいと思う。くだらないきまりはなくしてほしい。（F中女子）

行事が他の学校の先生たちにみせるためのものになっているのが頭にくる。…学校は、子どもが勉強をするところであって、先生た

ちが他人に格好つける場所ではない。（B中男子）

コートで授業受けてだめならもっと教室があったかくしてほしい。セーター姿でだめなんて変。（D中女子）

さらにその背後にある教師との信頼関係や、自分たちの「扱われ方」に言及しているものもあった。

生徒に決めさせるとか言って、先生が決めでほしい。…顔をグーで思いっきりなぐり、ふっとんでよけたとか言って、もう1回なぐるのはよしてほしい。（A中男子）

先生は先生だからいいっていうのが納得いかない。子どもにしてほしいなら先生も多少のことは守るべきだと思う。（F中女子）

先生もやっぱり差別をしていると思う!! セクハラをする先生がいるのでいやだ。（E中女子）

こうした意見をみると、きまりは教師にとって「指導」や「管理」の問題として扱われやすいが、生徒にとっては教師との「関係性」の問題として受け取られている面が強いように思われる。

また、きまりが自由なB校やE校の生徒の中に自分の学校を肯定する意見がみられたのも注目される。つまり、「自分の学校はいい学校だ」と感じているのである。

うちの学校は公立だけど、基準服も私立なみにかわいいし、決められた日以外は私服でもいいです。変な校則なんてないし、一度うちの学校へ来てもらいたいくらいです。（B中女子）

…「E中宣言」は守っていききたい。そして、

それは一生涯の宝物だと思います。(E中女子)

(校則が)きびしいと思うなら、自分たちが常識をわきまえて、判断できるようになったら、少しずつ改善できると思う。(E中女子)

特に、自分たちできまりをつくっていくという前向きな考えがE校の生徒にみられたのは、この学校がきまりについて生徒に主体的に考えさせる活動(「E中宣言」など)に取り組んでいることと無関係ではないだろう。自由記述にみられた生徒の意見に対しては、教師の側にも言い分がある。しかし、それ自体がまっとうと思われる意見は直視すべきである。

この章でみてきたことをまとめると、一口にきまりといっても、ほとんどの生徒が疑問を感じない「授業の前後のあいさつ」から、6割くらいの生徒が疑問を感じない「ピアス」、疑問を感じる生徒の方が多い「持ち物検査」「髪型」までと様々である。生徒は疑

問に感じて教師に話すことは少なく、その点を配慮して指導する必要があると思われる。また「ピアス」など、疑問を感じない生徒が6割と微妙な割合にあるきまりについて学校差が顕著だった。

自由記述では、同じ学校でも生徒の意見は多様であり、きまり自体への意見だけでなく、きまりを通して示される「教師が生徒をどう扱っているか」という「関係性」の問題を指摘する意見や、自由な校風の学校では自校のあり方を自慢する声もみられた。

生徒のきまりに対する意見は一律ではない。個々人で違うし、1人の生徒の中でもそうだし、そのときにどう指導されたかによっても異なる。きまりを、不健全な部分を押さえ込むものとするか、健全な部分を育てるものとするかは大きな分かれ道のように思う。教師が生徒の声に耳を傾けて、きまりに関する身近な疑問を上手に教育活動の中に取り上げていくことが、広い意味での人権教育につながるように思われる。

第5章 中学生の考える「子どもの権利」とは



1. 「子どもの権利」とはどんなものか D D D

1) 「子どもの権利条約」の知名度

「子どもの権利条約」の知名度は低いといわれる。表5-1の結果でも「自分で読んだ

ことがある」が6.4%で、これに「どんなものが少し知っている」の18.9%を含めても、「知っている」生徒は25.3%と、全体の4分の1にとどまる。そうした知名度の低さは、1

表5-1 「子どもの権利条約」の知名度 × 性・学年

(%)

		自分で読んだことがある	どんなものが少し知っている	名前だけはどこかで聞いたことがある	ぜんぜん知らない
全 体		6.4	18.9	36.6	38.1
性 別	男 子	5.8	17.9	33.5	42.7
	女 子	7.0	20.0	39.8	33.3
学 年	1 年	5.1	15.1	35.1	44.6
	2 年	6.4	11.6	32.6	49.4
	3 年	7.3	26.9	40.5	25.3

年の20.2%、2年の18.0%、3年の34.2%と、学年が上がってもそれほど高まってはいない。

「子どもの権利条約」の知名度を学校別に確かめたのが表5-2である。C校やE校での「自分で読んだことがある」割合が高いのが目につくが、その差はそれほど顕著ではない。

何となく聞いたことがあるがどういうものかわからないというのが、生徒にとっての「子どもの権利条約」なのであろう。

2) 「子どもの権利」とは

このように「子どもの権利条約」について、生徒たちがきちんとした理解を持っていないことは確かであろうが、それにしてもなんらかのイメージは抱いているのではないか。

そこで、「子どもの権利」とはどういうものだと思うかを尋ねてみた。図5-1(表5-3)に示したような結果だが、これを「とても+わりとそう思う」割合の高さに着目しよう。

1. 「とても+わりとそう思う」が3割以下

- ①子どもを甘やかすもの 10.1%
- ②法を犯しても許される 12.5%
- ③仕事をしなくてよい 19.9%

2. 「とても+わりとそう思う」が3～5割

- ①受験に苦しまずにすむ 30.5%
- ②学校のきまりをつくれる 33.4%

- ③おとなたちが尊重すべきもの 39.5%
- ④悩みをおとなに相談 42.3%
- ⑤成績や内申書を知るのが可能 43.9%
- ⑥子どもの安全を守る 48.0%
- ⑦おとなになるのに必要 49.7%
- ⑧秘密を守れる 50.0%
- ⑨時間を好きに使える 51.2%

3. 「とても+わりとそう思う」が6割(前後)以上

- ①やりたい勉強ができる 58.7%
- ②自分の意見を言える 60.6%
- ③進路を自分で決定 69.9%

こうした結果が示すように、生徒たちは、「権利」とは好き勝手なことをすることではなく、自分の進路を自分で決めたり、自分の意見を言うことだと思っている。しかし、それを超えて、「学校のきまりを自分たちでつくれること」や「自分の成績や内申書について知ることができること」までは望んでいない。自分の進路くらい自分で決める権利があるが、自分の所属する集団のきまりを決めていいかどうかは半分半分というのであろう。

表5-4によれば、「子どもの権利」についての属性別の分析では、性別ではそれほど大きな開きが認められない。しかし学年別では、学年が上がるにつれて自立を求める気持ちが強まっている。

表5-2 「子どもの権利条約」の知名度 × 学校

(%)

	自分で読んだことがある	どんなものか少し知っている	小計
A 中学校	2.9	20.4	23.3
B 中学校	8.8	15.4	24.2
C 中学校	14.6	27.0	41.6
D 中学校	3.7	32.1	35.8
E 中学校	10.0	19.3	29.3
F 中学校	1.1	16.0	17.1

図5 - 1 「子どもの権利」とは

(%)

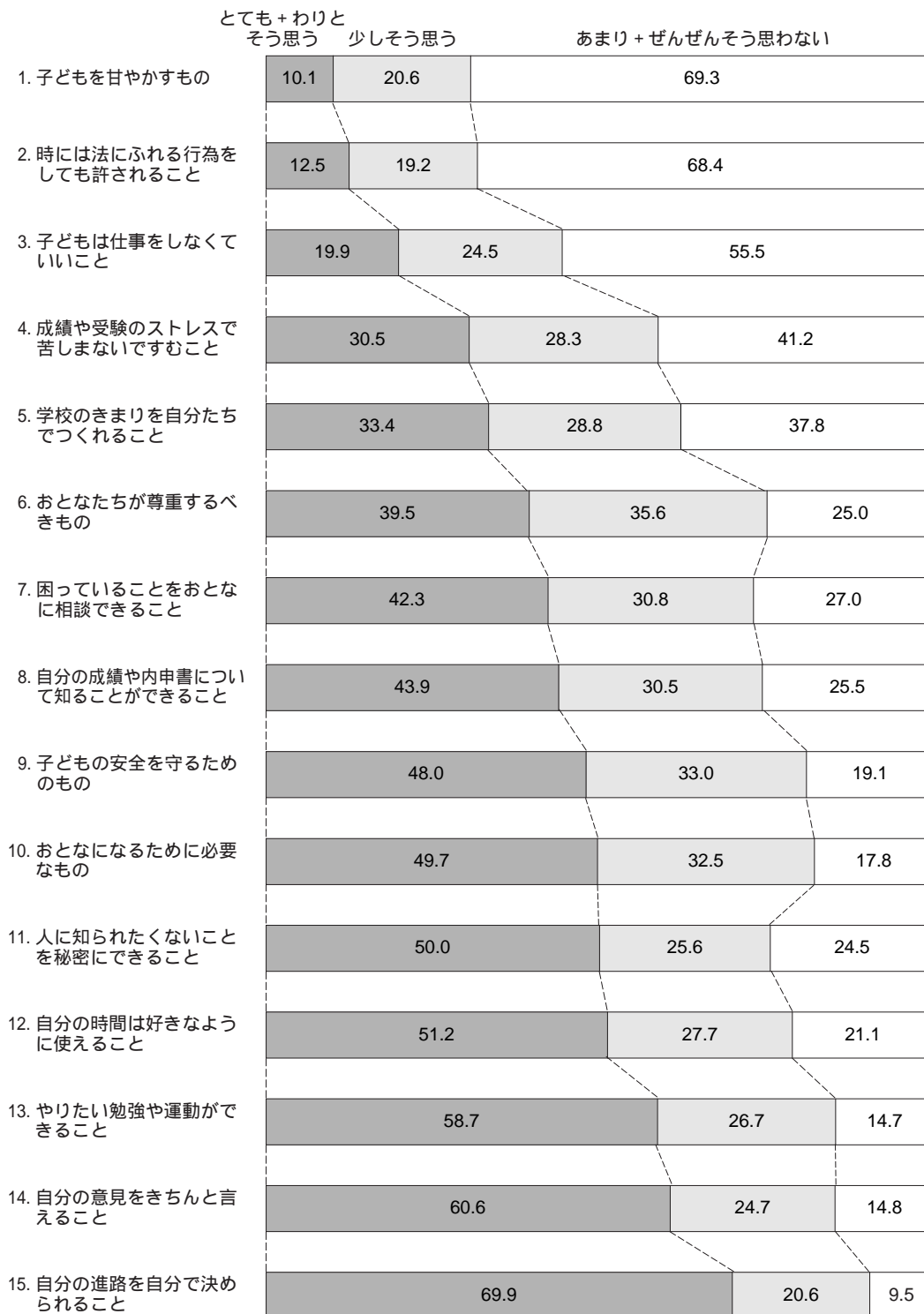


表5 - 3 「子どもの権利」とは

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1. 子どもを甘やかすもの	3.5	6.6	20.6	35.7	33.6
2. 時には法にふれる行為をしても許されること	6.3	6.2	19.2	28.2	40.2
3. 子どもは仕事をしなくていいこと	8.0	11.9	24.5	39.7	15.8
4. 学校のきまりを自分たちでつくれること	16.0	17.4	28.8	24.8	13.0
5. 成績や受験のストレスで苦しまないですむこと	16.8	13.7	28.3	28.0	13.2
6. おとなたちが尊重するべきもの	20.7	18.8	35.6	18.3	6.7
7. 子どもの安全を守るためのもの	22.2	25.8	33.0	13.7	5.4
8. おとなになるために必要なもの	22.3	27.4	32.5	13.0	4.8
9. 困っていることをおとなに相談できること	22.4	19.9	30.8	17.0	10.0
10. 自分の成績や内申書について知ることができること	24.3	19.6	30.5	18.1	7.4
11. 人に知られたくないことを秘密にできること	27.1	22.9	25.6	18.3	6.2
12. 自分の時間は好きなように使えること	28.7	22.5	27.7	15.8	5.3
13. やりたい勉強や運動ができること	30.3	28.4	26.7	11.4	3.3
14. 自分の意見をきちんと言えること	32.1	28.5	24.7	9.5	5.3
15. 自分の進路を自分で決められること	48.6	21.3	20.6	6.6	2.9

表5 - 4 「子どもの権利」とは × 性・学年

(%)

	性 別		学 年		
	男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
1. 子どもを甘やかすもの	5.2	1.7	2.8	4.4	3.4
2. 時には法にふれる行為をしても許されること	8.6	3.7	4.2	7.1	7.1
3. 子どもは仕事をしなくていいこと	10.5	5.4	7.8	9.3	7.3
4. 学校のきまりを自分たちでつくれること	16.3	15.6	13.6	14.8	18.5
5. 成績や受験のストレスで苦しまないですむこと	17.5	16.0	15.4	15.9	18.3
6. おとなたちが尊重すべきもの	20.7	20.6	17.0	19.7	24.0
7. 子どもの安全を守るためのもの	24.3	19.9	18.2	20.3	26.4
8. おとなになるために必要なもの	25.1	19.2	19.3	21.0	25.2
9. 困っていることをおとなに相談できること	22.6	22.1	23.4	20.7	22.9
10. 自分の成績や内申書について知ることができること	24.4	24.2	18.2	23.6	29.2
11. 人に知られたくないことを秘密にできること	28.1	25.9	22.6	22.5	33.5
12. 自分の時間は好きなように使えること	30.5	26.7	24.5	29.1	31.3
13. やりたい勉強や運動ができること	32.3	28.1	20.4	30.9	36.8
14. 自分の意見をきちんと言えること	30.8	33.4	27.4	31.9	35.5
15. 自分の進路を自分で決められること	49.4	47.7	40.9	46.0	55.8

「とてもそう思う」割合

こうした傾向は表5 - 5や表5 - 6にも表れている。「学校のきまりを決めることができる」と思う割合は1年の31.7%から3年の35.2%へ、また、「自分の成績や内申書について知ることができる」権利も1年の36.9%から3年の50.1%へ増加している。

学年が上がるにつれて生徒たちも成長して、自分のことを自分で決めたいという気持ちが強まる。それだけに学校としては、学年が上がるにつれて生徒の判断を尊重する態度が必要となる。

表5 - 5 学校のきまりを決めることができる × 学年

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	小 計	少し そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1 年	13.6	18.1	31.7	28.1	26.2	13.9
2 年	14.8	17.8	32.6	31.0	23.8	12.6
3 年	18.5	16.7	35.2	27.8	24.4	12.7

表5 - 6 自分の成績や内申書を知ることができる × 学年

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	小 計	少し そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1 年	18.2	18.7	36.9	33.2	22.1	7.8
2 年	23.6	18.7	42.3	33.2	16.2	8.2
3 年	29.2	20.9	50.1	26.6	16.7	6.6

2. 生徒がしていること・してはいけないこと DDD

1) 決定できる(している)こと

そこで、もう少し具体的に、子どもが決められることが「できること」と「無理なこと」との境目を尋ねてみた。図5 - 2 (表5 - 7)

のように、「自分の将来の職業や進路を決めることができる」は約8割に達する。しかし、「自分たちで校則を決めることができる」は3割強で、「無理」が65.7%を占める。

図5 - 2 決定できるか

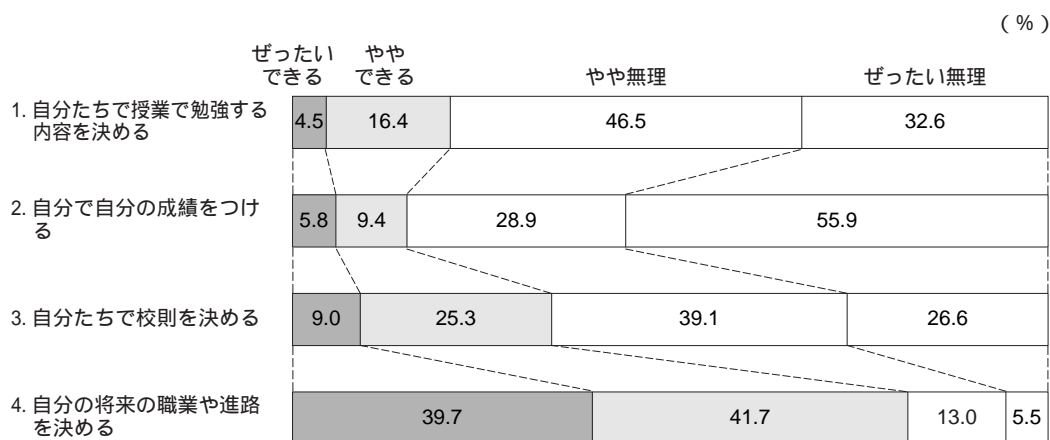


表5 - 7 決定できるか

(%)

	ぜったいできる	ややできる	やや無理	ぜったい無理
1. 自分たちで授業で勉強する内容を定める	4.5	16.4	46.5	32.6
2. 自分で自分の成績をつける	5.8	9.4	28.9	55.9
3. 自分たちで校則を決める	9.0	25.3	39.1	26.6
4. 自分の将来の職業や進路を決める	39.7	41.7	13.0	5.5

ただ、表5 - 8が示すように、学年が上がるとつれて、決定できると思う生徒の割合が増加している。

そこで設問の形を変えて、するのは「早い」か、それとも「していい」かを尋ねてみた。表5 - 9が示すように、「していい」のは「好きな人とつきあう」で、するのが「早い」

のは化粧やセックス、ピアスである。

もちろん、そうした意識は学年が上がるにつれて変化してくるようで、図5 - 3(表5 - 10)が示すように、「アルバイトをするのはぜったい早い」は1年の23.1%から2年の17.8%、さらに、3年の8.1%へと減少している。

表5 - 8 決定できるか × 性・学年

(%)

	性 別		学 年		
	男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
1.自分たちで授業で勉強する内容を決める	19.4	22.5	19.1	27.0	17.6
2.自分で自分の成績をつける	15.1	15.4	13.6	16.7	15.3
3.自分たちで校則を決める	28.6	40.6	27.2	33.9	39.9
4.自分の将来の職業や進路を決める	77.8	85.3	76.4	78.3	87.3

「ぜったい」+「やや」できる割合

表5 - 9 していいか

(%)

	ぜったい していい	やや していい	やや 早い	ぜったい 早い
1.お化粧をする	15.7	29.4	30.3	24.6
2.セックスをする	15.8	15.2	24.0	45.0
3.ピアスをする	17.8	23.8	30.6	27.9
4.エッチな雑誌を読む	21.6	28.3	26.5	23.6
5.アルバイトをする	23.1	31.1	30.4	15.4
6.友だちの家に泊まる	55.0	33.1	7.9	4.0
7.好きな人とつきあう	55.3	29.4	9.6	5.7

図5 - 3 するのは「ぜったい早い」× 学年

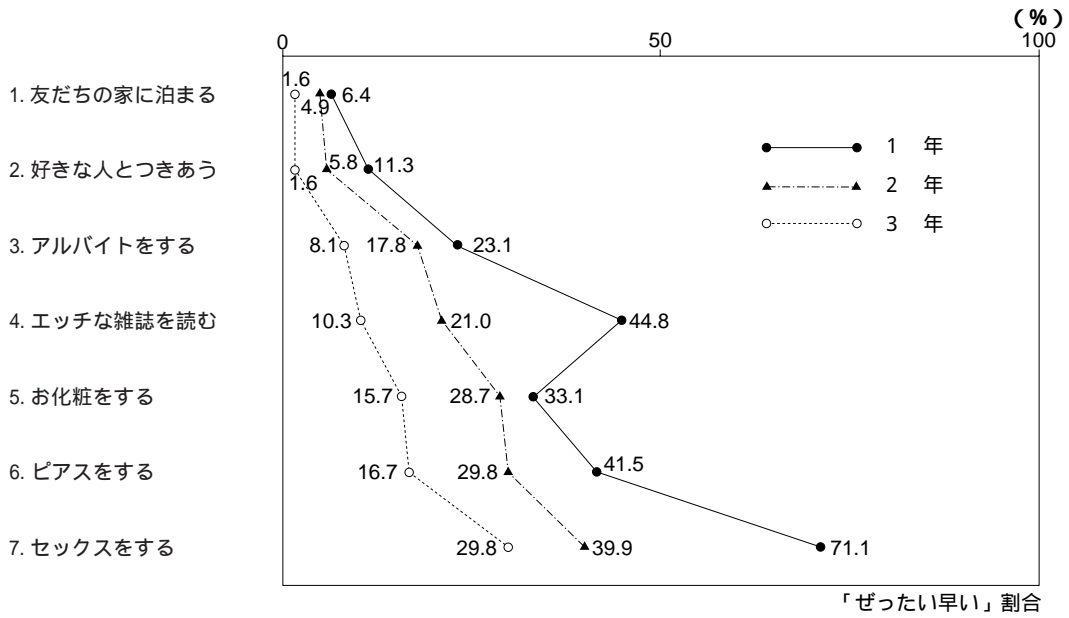


表5 - 10 するのは「ぜったい早い」× 性・学年

	(%)					
	全 体	性 別		学 年		
		男 子	女 子	1 年	2 年	3 年
1. 友だちの家に泊まる	4.0	5.7	2.2	6.4	4.9	1.6
2. 好きな人とつきあう	5.7	8.6	2.6	11.3	5.8	1.6
3. アルバイトをする	15.4	17.9	12.6	23.1	17.8	8.1
4. エッチな雑誌を読む	23.6	26.8	20.2	44.8	21.0	10.3
5. お化粧をする	24.6	33.3	15.3	33.1	28.7	15.7
6. ピアスをする	27.9	36.2	18.9	41.5	29.8	16.7
7. セックスをする	45.0	47.8	41.9	71.1	39.9	29.8

「ぜったい早い」割合

2)「自由」と「きまり」について

このように、生徒たちは権利についてかなり抑制的な態度をとっているようだ。そこで、生徒たちに「自由」と「きまり」についての意見を尋ねてみた。

結果は表5 - 11の通りである。これを要約すると、以下ようになる。

1. 「とても+かなりそう思う」が3割以下

- ①まじめな人は損をする 24.3%
 - ②みんなと同じことをすれば安心 25.8%
 - ③めんどくさいことは誰かに決めてもらいたい 29.1%
2. 「とても+かなりそう思う」が3～5割
- ①迷惑でなければ何をしてもいい 32.0%
 - ②多少の制約は仕方がない 34.3%
 - ③納得できなくてもきまりは守るべき 36.1%
 - ④先生や親は実は強制している 37.5%

表5 - 11 自由ときまりについての感覚

(%)

	とても そう思う	かなり そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1. みんなと同じことをしていれば、とりあえず安心だ	8.8	17.0	40.7	23.8	9.7
2. まじめにやっている人がいつも損をする	11.8	12.5	34.0	31.4	10.3
3. めんどくさいことは、誰かに決めてもらいたい	12.5	16.6	39.7	23.0	8.2
4. 中学生は保護されているのだから、多少の制約は仕方がない	12.5	21.8	44.6	15.0	6.1
5. 校則やきまりは、納得できなくても守らなくてはならない	15.0	21.1	34.0	22.0	8.0
6. 人に迷惑をかけなければ、何をやってもその人の自由だ	17.7	14.3	28.2	26.0	13.8
7. もっと自分の権利を主張すべきだ	18.8	20.8	40.2	16.5	3.6
8. 先生や親は「自分で決めなさい」と言うが、実は強制している	19.3	18.2	32.3	22.7	7.5
9. 多数決で決めたことは、自分が反対でもしたがわなくてはならない	19.7	25.7	35.5	13.7	5.4
10. 中学生も悪いことをしたら、おとなと同じように罰するべきだ	22.0	19.7	33.4	18.3	6.6
11. 権利を主張するなら、義務も果たさなくてはならない	25.9	20.7	37.4	11.9	4.0
12. たとえ失敗しても、自分たちのことは自分たちで決めたい	26.6	31.3	34.4	5.7	2.1

- ⑤自分の権利を主張すべきだ 39.6%
 - ⑥中学生もおとなと同じに罰すべき41.7%
 - ⑦多数決で決めたことにはしたがう45.4%
 - ⑧権利と同じに義務も果たすべき 46.6%
3. 「とても+かなりそう思う」が5割以上
- ①失敗しても自分のことは自分で 57.9%

人に迷惑をかけなければ何をしてもその人の自由だし（32.0%）、納得できなくてもきまりは守るべき（36.1%）だという。

なお、きまりについての感覚の学年別の変化を表5 - 12に示した。

いずれにせよ、生徒たちの反応は模範回答という感じで、本心が別にあるのではという気もする。そうした一方、抑制的な態度をとり、権利の乱用を控え、自分を律していこうという生徒が多いのも確かなように思える。生徒たちの聞き分けがよいだけに、それに安住するのではなく、生徒の自主性や判断力を育てる指導の必要性を感じた。

表5 - 12 自由ときまりについての感覚 × 学年

(%)

	1 年	2 年	3 年
1. みんなと同じことをしていれば、とりあえず安心だ	9.6	8.9	8.2
2. まじめにやっている人がいつも損をする	12.1	8.8	13.8
3. めんどくさいことは、誰かに決めてもらいたい	13.3	11.8	12.5
4. 中学生は保護されているのだから、多少の制約は仕方ない	15.2	12.7	10.4
5. 校則やきまりは、納得できなくても守らなくてはならない	20.0	15.7	11.0
6. 人に迷惑をかけなければ、何をやってもその人の自由だ	16.0	19.0	18.1
7. もっと自分の権利を主張すべきだ	18.6	17.9	19.7
8. 先生や親は「自分で決めなさい」と言うが、実は強制している	18.9	20.8	18.4
9. 多数決で決めたことは、自分が反対でもしたがわなくてはならない	23.6	17.8	18.3
10. 中学生も悪いことをしたら、おとなと同じように罰すべきだ	17.4	22.4	25.1
11. 権利を主張するなら、義務も果たさなくてはならない	22.5	24.9	29.2
12. たとえ失敗しても、自分たちのことは自分たちで決めたい	20.7	25.3	31.7

「とてもそう思う」割合

第6章 権利意識の高い子・低い子



1. 権利意識の違いと関連する要因 D D D

1) 「自己決定の意欲度」に注目する

ここでは、中学生の権利意識に影響している要因をさぐってみたい。そのために、彼らの権利意識の高低をどの項目によって測るかを定める必要がある。つまり、何を目安に権利意識の高低をみるかである。

ここまでの分析から明らかにされたように、調査対象となった中学生の多くは、次の点に「子どもの権利」を行使したいと考えている。すなわち、彼らの過半数が「とても+わりとそう思う」と肯定している項目でみれば、①自分の進路（人生）を自分で決める、②自分の意見をきちんと言え、③やりたい勉強や運動ができる、④自分の時間は好きなように使えることである。これらの項目は、いずれも「自己決定と意見表明」に関係して

おり、しかも進路選択、学習選択、そして時間管理などの「生活スタイルの選択権」に集中している。

また中学生になれば、自分の判断で行えることとして、友人宅への外泊と男女交際が「ぜったいしていい」という強い肯定率（50%以上）となった。また、彼らの権利観の中で最も注目される点は、「たとえ失敗しても、自分たちのことは自分たちで決めたい」の肯定率（とても+かなりそう思う）が6割弱に達していて、他の項目よりも格段に高い。

中学生の権利意識にみられるこれらの特徴を総合して表現すれば、「失敗を恐れず、交友関係を中心に、自分の好みと選択権を積極的に主張してみたい」ということであろうか。この特徴は、思春期に特有の「権利」主張のようにみることができる。

「子どもの権利条約」は、子どもには失敗する権利があることを強調する。しかしおとなの側には、その失敗が「取り返しのつかないことにならないか」という不安と心配がある。だから、子どもの判断に「先回り」して、過干渉を繰り返し、子どもたちの反発を買うことになる。要は、子どもがその失敗から何を学ぶかであって、失敗を失敗のままで終わらせない手立てを講ずることがおとなの役割なのかもしれない。

2) 自己決定への積極群と消極群

中学生の権利意識をこのように整理して考えると、その高低をみるための手がかりは、「たとえ失敗しても、自分たちのことは自分たちで決めたい」の項目にある。なぜなら、積極的に自己決定したいという意欲が、彼らの権利意識の原型をつくるのではないかと考えるからである。そこで、この項目を「自己決定の意欲度」と名づけて、これを指標として、6割弱に達する積極群と、4割強を占める消極群とをそれぞれ対比させる形で以下、分析を試みることにしたい。

まず、「自己決定の意欲度」が学校別、学年別、性別によってどう違うかを表6-1-1～表6-1-3によってみてみたい。

学校別(1%水準)と学年別(5%水準)において、それぞれ表記の水準で有意差を検出した。まず学校別の結果によれば、「子どもの権利条約」の普及に熱心と思われるB校とE校で、それぞれ対照的な傾向がみられる。すなわち、B校では積極群と消極群が半数ずつを占め、前者の割合が平均値より低い。これと比較してE校では、積極群の占める比率が最も高く、この5年間になされた人権教育の影響が認められる。対象数が一番多かったA校がほぼ平均に近い割合であることから考えて、B校とE校の場合には対照的な結果が得られたといってよい。その原因について後で推測して述べたい。

次に学年別の結果をみると、3年生の間で自己決定への意欲が最も高い。おそらく、

表6-1-1 積極群・消極群の学校別内訳

%(実数)

	合 計	失敗しても自分たちのことは自分たちで決めたい	
		積極群	消極群
全体	100.0 (1,219)	57.8 (705)	42.2 (514)
A 中学校	100.0 (420)	55.2 (232)	44.8 (188)
B 中学校	100.0 (228)	50.0 (114)	50.0 (114)
C 中学校	100.0 (90)	57.8 (52)	42.2 (38)
D 中学校	100.0 (109)	63.3 (69)	36.7 (40)
E 中学校	100.0 (274)	65.7 (180)	34.3 (94)
F 中学校	100.0 (98)	59.2 (58)	40.8 (40)

*「積極群」は「とても+かなりそう思う」、「消極群」は「少しそう思う+あまりそう思わない+ぜんぜんそう思わない」

表6-1-2 積極群・消極群の学年別内訳

%(実数)

	合 計	失敗しても自分たちのことは自分たちで決めたい	
		積極群	消極群
全体	100.0 (1,219)	57.8 (705)	42.2 (514)
1 年	100.0 (353)	56.7 (200)	43.3 (153)
2 年	100.0 (364)	53.3 (194)	46.7 (170)
3 年	100.0 (502)	62.0 (311)	38.1 (191)

表6-1-3 積極群・消極群の性別内訳

%(実数)

	合 計	失敗しても自分たちのことは自分たちで決めたい	
		積極群	消極群
全体	100.0 (1,219)	57.8 (705)	42.2 (514)
男子	100.0 (632)	55.7 (352)	44.3 (280)
女子	100.0 (587)	60.1 (353)	39.9 (234)

最上級生として自分の判断を優先したいと考えるためであろう。しかしこれに対して、2年生の落ち込みが目立つ。「中だるみ」の時期にあたる中学2年生は、権利の行使についても「シラケ」た意識を持ちやすいようだ。もちろんこの調査では、3年生の数が多いことを考慮しなければならない。

さらに、性差に関して有意差は見いだせなかったけれども、どちらかといえば女子の方に自己決定したい意欲は高い。

また、学業成績との関連をみても、図表は割愛するが、有意差は見いだせなかった。当初、自己決定への意欲は、生徒の自己効力感（セルフ・エフィカシー：自信）と関連するのではないかと予想した。というのは、他者の判断よりも自分の判断を優先したいという積極性は、自信に裏打ちされているだろうと考えたからである。しかし分析の結果、いくらか成績の高い生徒に積極性がみられるけれども、それは統計的に裏づけられなかった。ということは、積極群と消極群を分ける要因は学業成績以外の別の要因に関係していると考えなければならない。

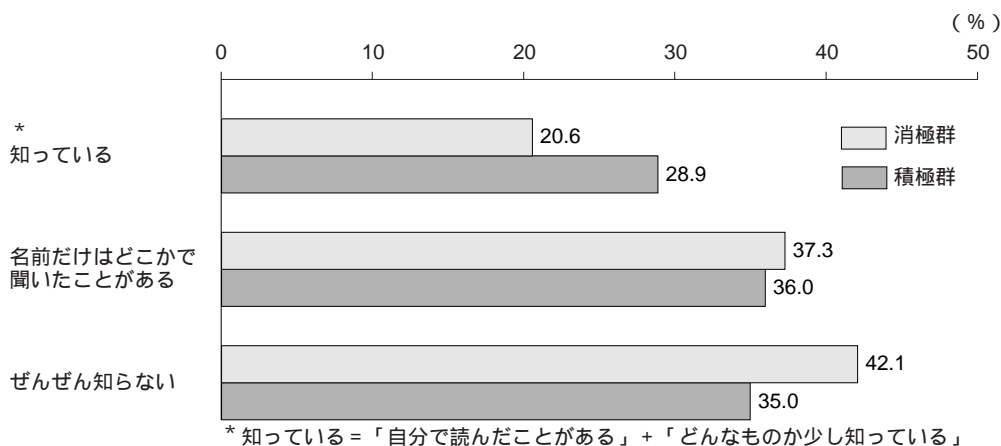
3) 「子どもの権利条約」による教育の影響

そこで、生徒の個人特性による分析に入る前に、「子どもの権利条約」の周知度がどれくらい中学生の意識に影響しているかを検討してみる。図6-1は、生徒がこの条約のことをどれほど知っているか、その認識度が自己決定への意欲にどう関連しているかを調べた結果である。

中学生が「子どもの権利条約」のことをどれほど知っているかによって、彼らの自己決定への意欲が大きく違う。「どんなものか少し知っている」と「自分で読んだことがある」を合計した割合で見れば、積極群が3割弱、消極群は2割である。この差異はカイ二乗検定により1%水準で有意な差を検出したから、関連があるとみてよい。したがって、「子どもの権利条約」の周知度と自己決定への意欲の間には相関がある。

にもかかわらず、各学校での周知度は低い水準にとどまっていることは否めないだろう。全体で4割弱の生徒が「ぜんぜん」知ら

図6-1 自己決定の意欲度 × 「子どもの権利条約」認識度



されておらず、また、同じ割合が「名前だけはどこかで聞いたことがある」という程度の普及度である。しかも、「子どもの権利条約」による教育に熱心と思われる学校の場合でも、「ぜんぜん知らない」割合はC校(23.6%)、E校(31.2%)にも達している。

もちろん、条約の内容を教えることが、即効的に子どもの権利意識を高めるわけではないだろう。しかし、少なくとも彼らの自己決定への意欲を一定程度高めることは確かである。たとえば、この条約の認識度が3年生と女子の間でそれぞれ高いことは、彼らの自己決定への意欲を高めるのに影響していると考えられる。また、2年生の間での「落ち込み」は、彼らの5割弱がまったく知らないことに表れている。

4) 積極群と消極群の特徴

では、こうした教育が自己決定への意欲を形成するうえでどう影響しているのだろうか。人権教育の効果はなかなか明確にはつかめないものである。その理由は、教師の意図通りに生徒が受け止めてくれるわけではないからである。教師が人権教育に熱心になれば、それだけ生徒の反応が見えにくくなる傾向もある。それは、人権教育がどうしても特定の価値観やその枠組みを生徒に課すためではなからうか。「子どもの権利条約」による教育に関しても、類似のことがあるかもしれない。したがって、ここでいう積極群と消極群の特徴をよく調べてみる必要がある。

そこで、まず権利観を尋ねた他の項目との関連を探ってみた。図6-2がその結果である。

ここにみるように、どの項目への肯定率においても積極群の方が大きく上回っている。特に、20%以上の開きを示した項目は、順に

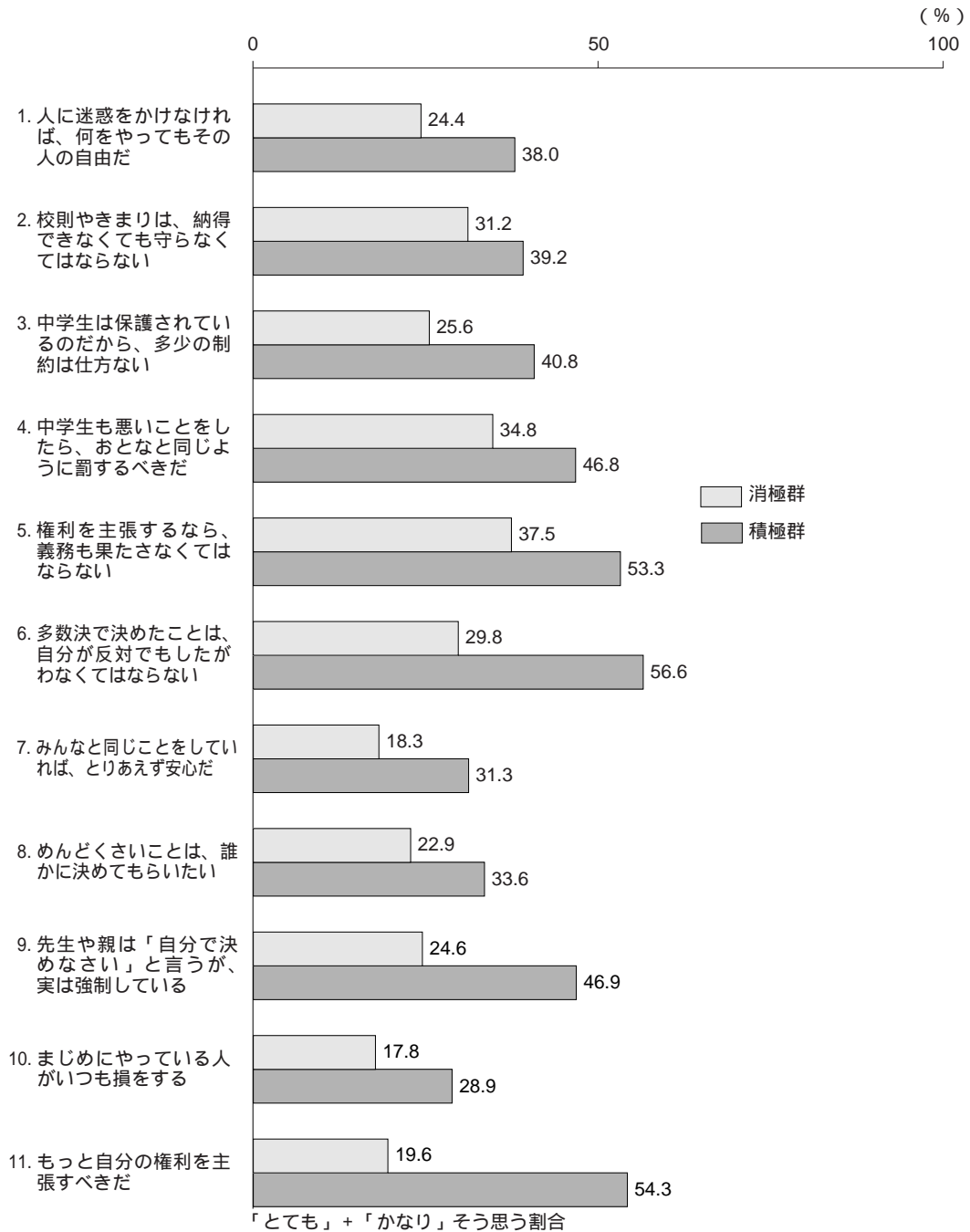
①「もっと自分の権利を主張すべきだ」、②「多数決で決めたことは、自分が反対でもしたかわなくてはならない」、③「先生や親は『自分で決めなさい』と言うが、実は強制している」の3つである。また、15%以上の開きは④「権利を主張するなら、義務も果たさなくてはならない」、⑤「中学生は保護されているのだから、多少の制約(できないことがある)は仕方ない」の2つである。このうち、②、④、および⑤の項目は、消極群の方に高いのではないかと予測したが、圧倒的に積極群の方が高い。

この結果は、自己決定に積極的な生徒たちの「バランス感覚」を示している。「子どもの権利主張を認めるとわがままになって困るのではないか」と一般によく言われる。しかしこの調査による限り、自己決定に意欲的な生徒たちの方が「協動的」な傾向を示しており、これは通説をくつがえす意外な結果である。

類似の特徴はこの他の項目でも認められる。たとえば、「校則やきまりは、納得できなくても守らなくてはならない」「中学生も悪いことをしたら、おとなと同じように罰すべきだ」の項目でも似た傾向がある。自己決定に意欲的な生徒たちの方が、「遵法精神」を持っているし、さらに「厳罰主義」的ですからある。彼らは規則を遵守するけれども、自己決定には積極的なのである。

その反面、彼らの4割弱が「人に迷惑をかけなければ、何をやってもその人の自由だ」と考えている。また、3割近くが「みんなと同じことをしていれば、とりあえず安心だ」「めんどくさいことは、誰かに決めてもらいたい」、そして「まじめにやっている人がいつも損をする」と感じており、やや大勢に影響されがちな特徴もみせている。

図6-2 自己決定の意欲度と権利観の関連



5) 自己決定意欲に関連する要因

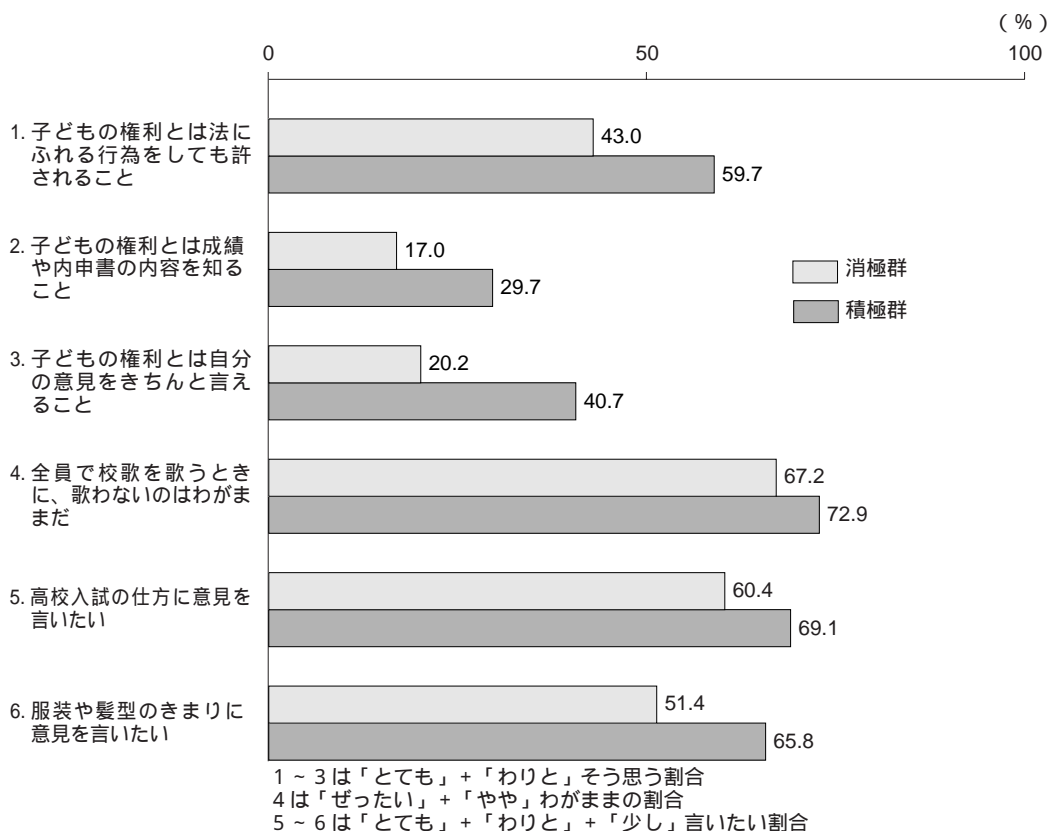
このような積極群の特徴は、どんな要因と関連しているのだろうか。先述のように、自己決定への意欲は、生徒が「子どもの権利条約」の内容を知っているかどうかで違う。これは人権教育による影響である。その影響はどんな生徒の行動に現れるだろうか。また人権教育を受けても、生徒が実際に決定に参加する経験を持たなければ、それは意味がない。そこで、家庭や学校での自己決定の経験も調べてみたい。

ここにみるように、積極群に属する生徒たちは、「子どもの権利条約」が掲げる意見表明権、プライバシー権、および「知る」権利と情報開示についてよく理解しているし、少年法の理念についても知っている。さらに校則だけでなく、入学試験の方法についても自分

たちの意見を述べたいと意欲的である。ただし、「全員で校歌を歌うときに、歌わないのはわがままだ」という考えには、消極群よりも肯定率が高く、少数派の権利を尊重することには消極的である。これらの項目では、どれも1%あるいは5%水準で有意な差を確認できた(図6-3)。

しかし当初、何らかの関連があるだろうと予想したこの他の項目では有意差を検出できなかった。たとえば、家庭での「親子のコミュニケーションの頻度」【2-6】、「家族全員で話し合って決める頻度」【3-4】、および「親が学校に抗議する頻度」【3-10】の項目である。また、学校での「チャイム着席の頻度」【6-1】、「生徒が自主的に係の仕事をする頻度」【6-3】、「文化祭や体育祭のプログラム決定への参加意欲」【11-1】の項目もそうである(【 】内は調査票の質問番号)。

図6-3 自己決定の意欲度によって意見が分かれた項目



この結果から推察すれば、生徒の自己決定への意欲は、家族の親子関係や学校での自治的活動との関連は弱い。つまり彼らの多くは、おとなが考える「権利行使」の範囲内というよりその外側で、こうした自己決定の意欲と経験を身につけているようである。そうであるとすれば、「子どもの権利条約」の内容を

教えるための教育だけでなく、様々な選択場面を設けて、そこで生徒が決断する経験を重ねることも、彼らの自己決定力の形成にとって有意義なことである。権利の行使はそれ自体として教えていく必要があるのかもしれない。

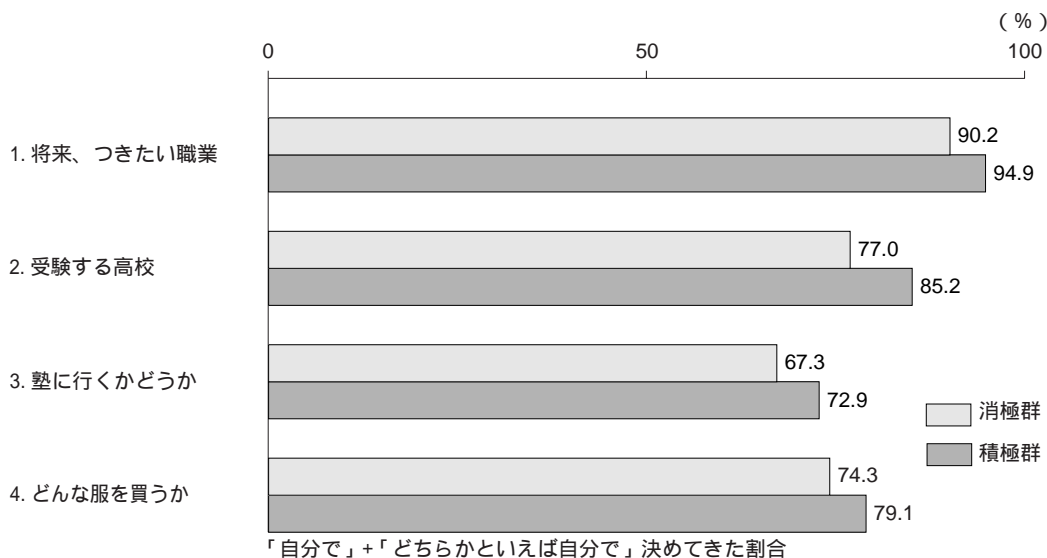
2 . 自己像・将来像と権利意識 D D D

1) 自分で決めてきた経験の持つ意味

そこで、生徒たちがどれほど自己決定の経験を持っているか、また、その経験が彼らの意欲とどう関連しているかについて調べてみた。そうすると、自己決定への意欲が、8項目中、下記の4項目と関連していることがわかった(図6-4)。

すなわち、積極群と消極群の差異は、主として進路決定にかかわる「志望校」と「将来の職業」の決定においてと、これに関係するであろう「通塾」の決定において明確にみられる。積極群に属する生徒ほど、自分の考えにしたがって人生を選択したいと思っている。また、「服選び」の意欲度は、女子生徒と上学年の方に高いけれども、こうしたファ

図6-4 自己決定の意欲度とその経験との関連



ッションの選択に積極的であることが自己決定の意欲と関連している点はきわめて興味深い。

このような自己決定の経験は、生徒が自分の人生を自分で切り開いていこうという意欲と関係する。特に通塾の決定は、とかく保護者の意向で決めてしまいがちであるが、やはり子ども自身に決めさせることが必要なのだろう。子どもの人生は子ども自身が決める。これも「子どもの権利条約」が強調する自己決定の権利である。したがって、将来の進路や志望校を決めるときにも、保護者が子どもの考えを尊重するという態度ではなく、子どもが決めるために必要な情報をできるだけ豊富に準備するという姿勢で臨むことが重要なのである。なぜなら中学生にとって、志望する高校を決めることが自己決定の大舞台であり、人生の岐路だからである。

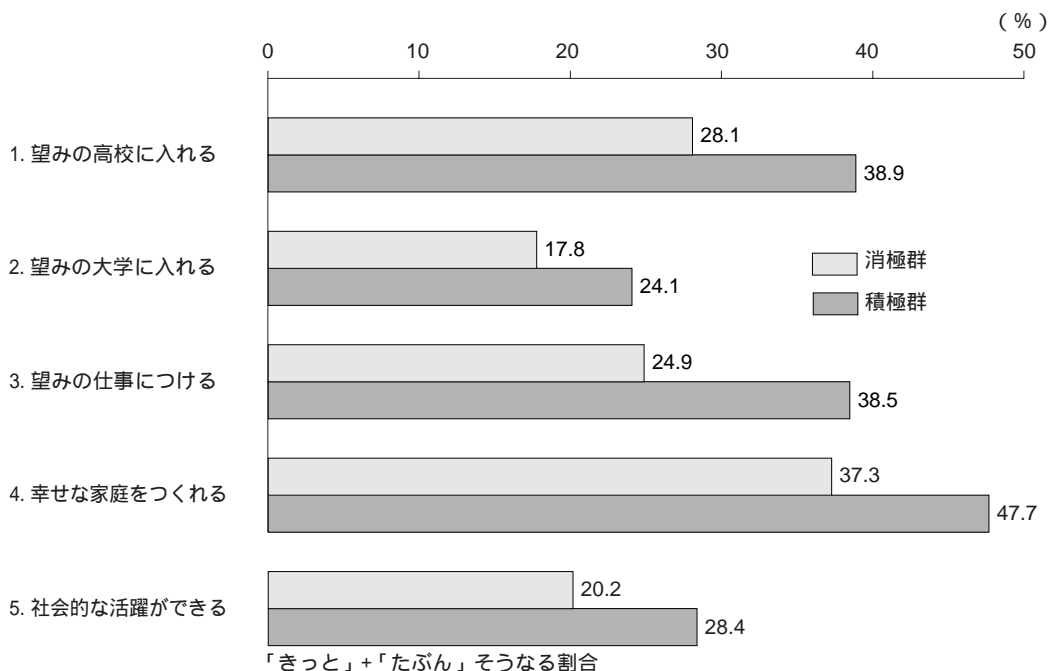
2) 将来の自分を展望すると

こうした自己決定の意欲は、生徒たちの将来像を描くときに明確な差異を示した。図6-5は、将来の自分をどう見通しているか、その展望を差し迫った高校入試や大学入試から、就職、結婚、そして社会的な活躍に至るまで、広く尋ねた結果である。

ここでは、「きっと+たぶんそうなる」割合を積極群と消極群に分けてそれぞれクロス集計しているが、その結果、すべての項目にわたって1%水準で有意な差が認められた。積極群の生徒たちの方が、楽観的と思えるほどの将来像を持っている。

その理由は、彼らが「たとえ失敗しても、自分たちのことは自分たちで決めたい」という積極的な人生観を持っているためであろう。この「強気の」姿勢が、これから待ち受けている人生に対しても貫かれているようである。先述のように、自己決定の意欲度は学

図6-5 自己決定の意欲度と将来像



業成績との関連が弱かったから、必ずしも成績だけに左右されているわけではない。生徒たちが自分で決めるという経験は、彼らにとって一定の「自信」を身につける経験にもなっているようである。

3) 友人関係における自己像との関連

この「自信」の内容を確かめるため、クラス内や友人関係における自己像を尋ねてみた。この設問は高校生を対象とした調査(『モノグラフ・高校生』Vol.53)でも実施したので、まず中学生・高校生の比較からみてみたい(図6-6)。

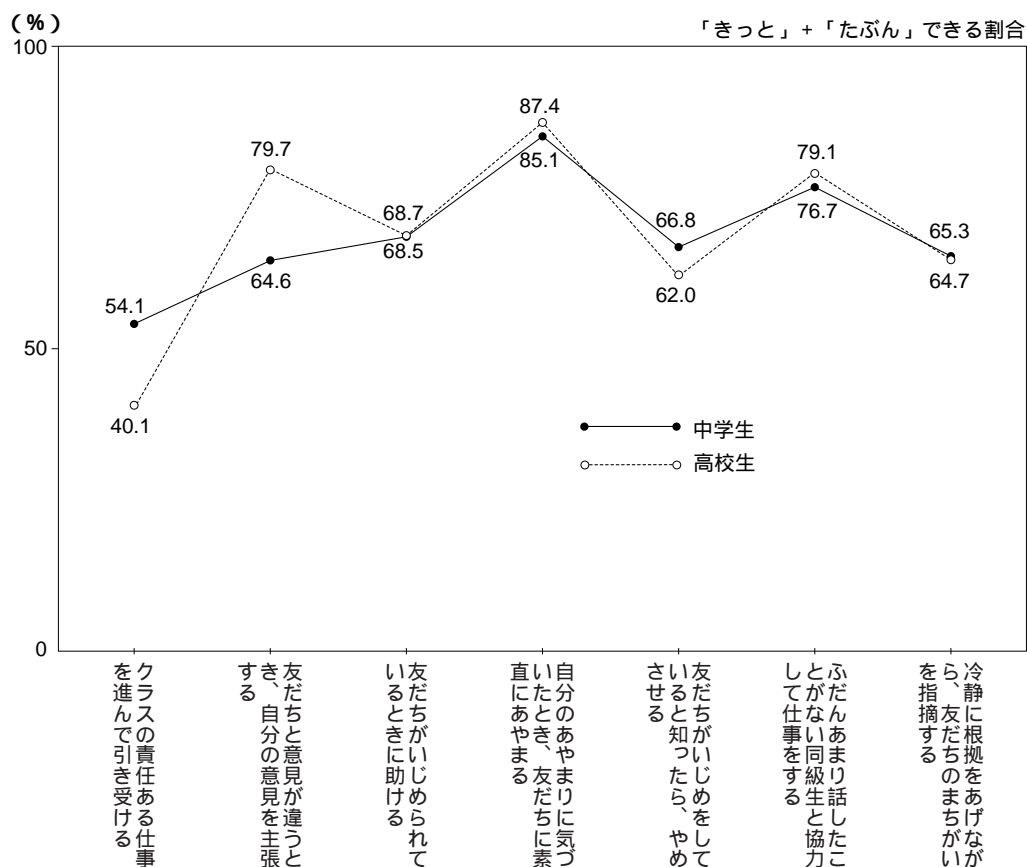
大きな差がみられた項目は、「クラスの責任ある仕事を進んで引き受ける」と、「友だ

ちと意見が違うとき、自分の意見を主張する」である。中学生の場合、前者が、また高校生の場合、後者の割合がそれぞれ高い。

このことは、中学生が友人に対して意見を主張することが、一定、難しいことを示している。その理由には、自分の意見をもっていないこともあるかもしれない。しかし、中学生の間では、意見の対立をうまく調整していく力が、まだ育っていないことが大きいのだろう。この点では、高校生の方が自己主張や権利主張をしやすい仲間関係を作っている。ただし、いじめに関しては、中学生の方がいじめをする友人をやめさせられると考える割合が少し高い。

次に、この自己像と自己決定の意欲度との

図6-6 友人関係における自己像(中学生・高校生の比較)



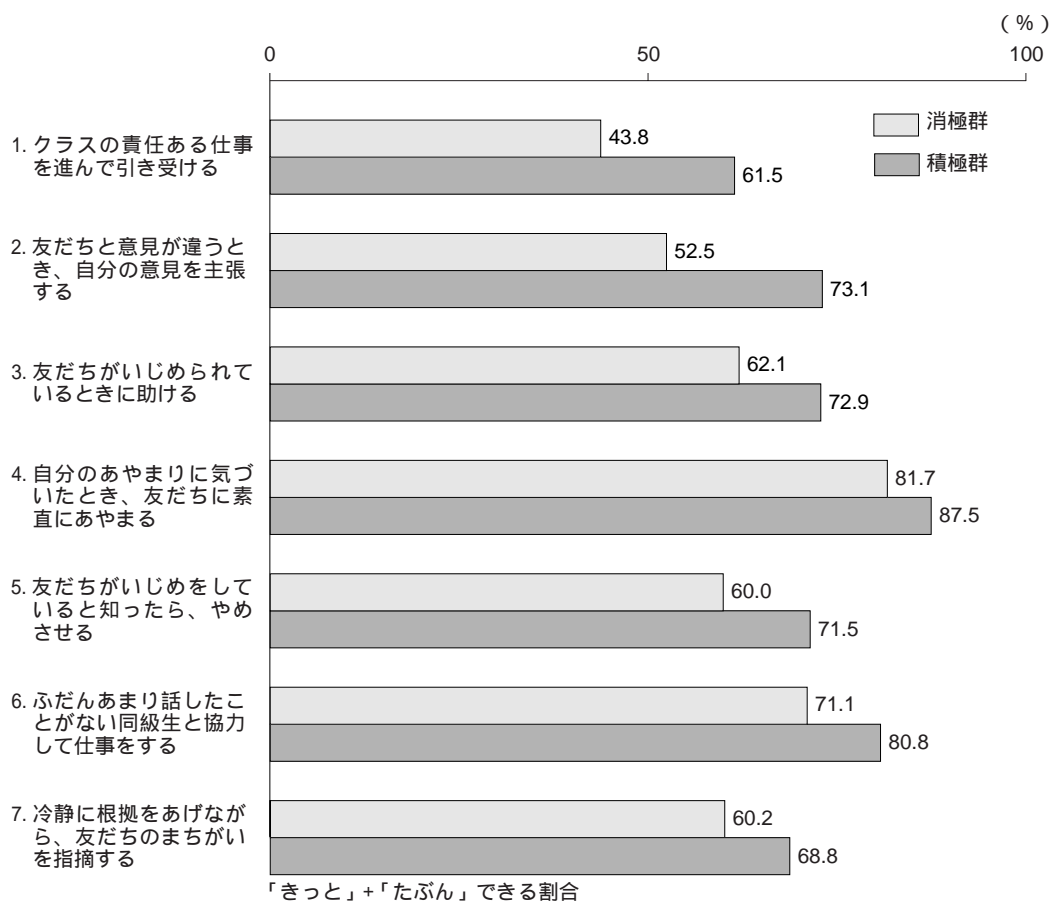
関連を調べた図6-7をみてみよう。全7項目において1%水準で有意差を検出することができた。この結果からうかがえるように、自己決定に意欲的な生徒ほど、クラス内や友人関係に積極的な役割を果たしている。特に、いじめに対してはこれを許さない抑止行動を起こすだろうと確信していることがわかる。また、クラス内でリーダーシップを発揮することに積極的であって、ふだんあまり話したことのない同級生とも協力して仕事ができるだろうと考えている。さらに、友人に対して自分の考えを伝え、友人のまちがいは根拠をあげて指摘しようと試みるし、自分のあやまりは素直に認めるようである。

友人関係へのこうした積極的なかわりが

彼らの「自信」の一端を示しており、対人関係において正義感や公正な態度を貫こうとする意欲を感じさせる。このように、生徒たちが自己決定への意欲を持つことは、彼らが権利についてより深く考え、これを正当に行行使するための基礎として重要な経験であるといえることができる。

「子どもの権利条約」による人権教育では、生徒が自己決定の経験を蓄えることが必要であると考えられるし、また近年、試みられている「法教育」(Law Education)なども、生徒にとって、権利の行使が自分を守るために必要なことを具体的に実感理解するうえで有益な活動となるのではなかろうか。

図6-7 自己決定の意欲度と友人関係における自己像



まとめに代えて

子どもの権利条約理念 の具体化

発達段階をふまえて

「子どもの権利条約」では、子どもを「保護の対象」から「権利行使の主体」に位置づけ、子ども観の転換を求めている。こうした「権利行使の主体としての子ども」という提唱を子ども観のコペルニクス的な転換を求めたと高く評価する声が少ない。

この子ども観の転換を巨視的にみれば、正当なものであろう。近代化の流れの中で、人種や性を超えて、すべての人の平等が認められてきた。子どもだけが例外であっていいわけではない。子どもたちもその子なりの意見を持っている。そうした意見を表明し決定できる権利を、おとなたちと同じように子どもも持っているのである。

そうはいうものの、具体的なレベルに話が進むと、疑問が浮かんでくる。仮に8歳の子どもを「権利行使の主体」とみなし、学校での学習内容の決定を子ども自身に任せるとするのは子どもの発達をふまえていない暴論であろう。かといって、16歳の高校生が自分で学習内容を決定するのは、きちんとした指導のもとであれば、むしろ望ましい行為であろう。人はすべて平等であることは認めるが、子どもは親などの保護がなければ成長がおぼ

つかない。

こうした事例から明らかなように、子どもをとらえる目を「保護の対象」から「権利行使の主体」へ転換するといっても、それは子どもの年齢によって異なる。乳幼児から児童期の前期にかけては子どもは保護する対象であろう。しかし、児童期の後期から青年期になるにつれて、子どもは「権利行使の主体」としての性格を増す。

したがって、子どもを一律的に「権利行使の主体」というのでなく、子どもの発達段階に応じて主体性を増すととらえるのが妥当であろう。

このところ、生徒指導のあり方を考えさせられるできごとが続発している。これまでのいじめや不登校に加え、高校生では高校中退、中学生はキレの子現象、小学生は学級崩壊と、学校段階ごとに問題が生じている。17歳の少年が引き起こした一連のできごともある。

それだけに、どうしても教師からの指導の大事さが説かれ、子どもを諭す感じが強まる。しかし、それぞれの学校段階に応じて、少しずつ子どもの主体性を認め育てていく。そして高校生くらいになれば、自分の行動に責任をとれるようにする。そうした発達段階に対応した指導が望まれよう。

自己決定力を育てる

日本は伝統的に子どもをかわいがる文化を持っていたといわれる。幕末から明治初年にかけて来日した多くの外国人が、日本の赤ん坊の笑顔が印象的だった、あるいは、子どもの元気な姿に驚いたと書いているのはよく知られた事実であろう。

欧米では伝統的に子どもは罪深い存在とみなされてきた。キリスト教的な原罪の思想に根ざした性悪説である。子どもを放置しておけば、野生のままの問題児になってしまう。きちんとしたしつけを通して、子どもは人の子となる。それだけに欧米の子どもは、幼いうち、親からきびしくしつけられるのが常であった。そして、子どもは成長するにつれ自主性が認められ、やがて、すべてを自分の責任で行動するような自主的な判断を持てるように育てられる。

それに対し、日本の子どもは性善説をふまえ、善なるものとしてとらえられてきた。「朱に交わって、赤くなる」ことはあっても、それは悪い友の影響であって、慈しんで育てれば、どの子どももすこやかに育つという考え方だ。

欧米で児童虐待があれだけ多いのに、日本で虐待の事例が少ない背景に、そうした文化的な違いが感じられる。日本の子どもを慈しむ文化は、日本が貧しい社会であった状況では、子どもは親に安心して依存できるので、子どもがすこやかに育つ母体となる。子どもはいずれきびしい世の中に出て、苦しい思いをする。だから、せめて家庭にいる間、愛情をかけようという考え方である。

日本が豊かな社会になり、子どもは中学や高校に入るのはむろん、高等教育に進むのも当たり前になりつつある。それにもかかわらず、子どもは慈しみの対象であって、子どもは高校生になっても親に依存し、親頼りの生活を送っている。その結果、自立が遅れる。

子どもを保護の対象とみなすのは、子ども

が幼いうちは決して誤っていない。欧米の親子関係と対比したとき、乳幼児期については、親の愛情に包まれている分、日本の子どもはしあわせなように思われる。しかし中学生から高校生になっても、子どもを保護の対象としてとらえると、子どもの依存心が強まり、自立する力が育ってこない。

依存から自立へのスイッチの切り替えが遅れ、子どもが自立できないでいるのは家庭だけの問題ではない。欧米と比べると、学校での子どもの扱いも、子どもを保護するだけで、自立心を育てようという風土に乏しい。

今回の調査結果でも、生徒たちの反応を一口に言えば、「聞き分けがいい」につきる。自分を抑制して、わがままを抑えようとしている。権利を乱用する気配も少ない。むしろ、自己決定について自信喪失気味ですらある。

日本が子どもを保護する面で特性を持つ社会だけに、子どもたちの自己決定力を社会的に育てる態度が必要であろう。「子どもは幼いから適切な判断を下せない」といっていると、いつまでたっても責任を持って判断を下せる子どもは育ってこない。

子どもの自己決定力を認めて、権利を主張すると同時に責任も背負う若者を育てる。「子どもの権利条約」に関連して、日本の子どもが自分の行動に責任を持てる自立した存在になれば、21世紀の日本に明るい希望を託すことができる。そのためには、家庭と学校、地域とが足並みを揃え、そして幼児から高校生までを視野に入れて、子どもの自主性を育てるためのグランド・プログラムの設定が望まれよう。

それと同時に、中学では1年から3年にかけての3年間を、生徒の自主性を伸ばす時期ととらえて、「自己決定力を育てる」を重視してはどうか。自分できちんと決定できるようになれば、社会に出ても自立に人生を送ることができる。そうした「自己決定力を育てる教育」の必要性を感じた。

アンケートのお願い

これはテストではありません。全国の中学生にお願いして、中学生の生活の様子をうかがうアンケートです。思ったことをそのままお答えください。

回答のしかた

あなたはスポーツが好きですか。

とても 好き	かなり 好き	ふつう	少し 嫌い	とても 嫌い
1	②	3	4	5

あなたが、もしスポーツをかなり好きだと思ったら、
上のように番号のところを○でかこんでください。

① あなたの学校名などを書いてください。

1) 学校名.....()中学校

2) 学 年.....()年

3) 性 別.....(1.男子 2.女子) < をつけてください >

I. まず、家庭での生活についておたずねします。

② 家庭でのあなたの様子を教えてください。

- | | とても
そう | わりと
そう | 少し
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない |
|-----------------------------------|-----------|-----------|----------|--------------|---------------|
| 1) 朝起きたら家族に「おはよう」と言う …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) パジャマは自分できちんとたたむ …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 自分の食器の後かたづけは自分です …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 自分の部屋の掃除は自分です …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 近所の人に会ったら、あいさつをする …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) 学校であったことを家族に話す …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) 保護者あてのプリントは必ず親に渡す …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 学校に持っていく物は自分できちんと
準備している …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) 親の期待にこたえるように努力している …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 家ではがまんばかりしている …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

③ あなたのお父さんやお母さんはどんな方ですか。

(いない場合は、⑥に進んでください)

- | | とても
そう | わりと
そう | 少し
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない |
|---|-----------|-----------|----------|--------------|---------------|
| 1) あなたに学校のできごとをよく質問する …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 家族で社会のできごとについてよく話す …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) よいことと悪いことをしっかり判断して
くれる …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 家族のことはなんでも話し合って決める …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 子どもの気持ちをわかってくれる …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) しつげにきびしい …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) よい成績をとることを期待している …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) あなたが「学校へ行きたくない」と言っ
たら休ませてくれる …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) たとえ、あなたが校則に違反しても、親が
悪くないと思えば認めてくれる …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 学校で納得できないことがあったら、学
校に抗議に行ってくれる …… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

資料1 調査票見本

④ あなたは、お父さんやお母さんとうまくいっていますか。

とてもうまく
いっている わりとうまく
いっている あまり
うまくいっていない ぜんぜん
うまくいっていない

1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____

⑤ あなたがお父さんやお母さんにしてもらいたいことはどんなことですか。

- | | ぜったい
そうしてほしい | 別に
どちらでもいい | 自分の親は今も
そうしてくれている |
|-------------------------------|-----------------|---------------|----------------------|
| 1) いちいちうるさく言わないでほしい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |
| 2) 家ではゆっくりと休ませてほしい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |
| 3) おいしいごはんを食べさせてほしい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |
| 4) もっと話を聞いてほしい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |
| 5) 家族旅行の行き先はいっしょに決めたい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |
| 6) 友だちづきあいに口を出さないでほしい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |
| 7) 秘密にしているものは勝手に見ないでほしい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |
| 8) 家での様子を先生に言わないでほしい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |
| 9) 自分の味方になって最後までかばってほしい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |
| 10) あまり自分に期待しないでほしい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ |

Ⅱ . 次に、学校生活についておたずねします。

⑥ あなたのクラスは、どんなクラスですか。

- | | とても
そう | わりと
そう | 少し
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない |
|-------------------------------------|-----------|-----------|----------|--------------|---------------|
| 1) チャイムが鳴ったら、先生が
いなくても席につく | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |
| 2) 教室が整理、整頓されている | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |
| 3) 生徒が自主的に係の仕事をする | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |
| 4) なんとなく暗くて、つまらない | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |
| 5) 行事などではみんなで協力して盛りあがる | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |
| 6) 男子と女子の仲がいい | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |
| 7) まじめにやっている人が損をしてしまう | 1 _____ | 2 _____ | 3 _____ | 4 _____ | 5 _____ |

資料1 調査票見本

- | | とても
そう | わりと
そう | 少し
そう | あまり
そうでない | ぜんぜん
そうでない |
|--|-----------|-----------|----------|--------------|---------------|
| 8) 担任の先生の話素直に聞く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) リーダーがいる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 自分の意見を言いやすい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11) 校則やきまりを守る生徒が多い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12) 授業中うるさくて、先生の話が聞こえない
ことがよくある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

7) あなたは学校で、次のような経験がありますか。

- | | しょっちゅう
ある | ときどき
ある | 1、2回
ある | 1度
もない |
|--|--------------|------------|------------|-----------|
| 1) みんなの前で悪口を言われたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 文房具などを貸したら、返してもらえなかったこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) カバンの中や手帳などを勝手に見られたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4) プライバシー(個人の秘密)をみんなの前で
話されたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5) 友だちから無視されたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6) いじめを受けたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7) 授業中、友だちにちょっかい(ふざけること)を
かけられたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8) 校則に違反して叱られたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9) 悪くないのに、自分のせいにされたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10) 先生がある生徒だけを特別扱いしたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11) これまでに、先生から体罰を受けたこと | 1 | 2 | 3 | 4 |

8) 7)にあげたようなことをすることについて、あなたはどのように思いますか。

- | | 理由があれば
してもいい | しかたなく
することもある | どんな理由でも
ぜったい
してはいけない |
|-----------------------------|-----------------|------------------|----------------------------|
| 1) みんなの前で悪口を言うこと | 1 | 2 | 3 |
| 2) 借りた文房具などを返さないこと | 1 | 2 | 3 |
| 3) カバンの中や手帳などを勝手に見ること | 1 | 2 | 3 |

資料1 調査票見本

- | | 理由があれば
してもいい | しかたなく
することもある | どんな理由でも
ぜったい
してはいけない |
|--|-----------------|------------------|----------------------------|
| 4) プライバシー(個人の秘密)をみんなの前で
話すこと | 1 | 2 | 3 |
| 5) 友だちを無視すること | 1 | 2 | 3 |
| 6) いじめること | 1 | 2 | 3 |
| 7) 授業中、友だちにちょっかい(ふざけること)
をかけること | 1 | 2 | 3 |
| 8) 校則に違反すること | 1 | 2 | 3 |
| 9) 悪くないのに、その人のせいにする事 | 1 | 2 | 3 |
| 10) 先生がある生徒だけを特別扱いすること | 1 | 2 | 3 |
| 11) 先生が体罰をすること | 1 | 2 | 3 |

9) あなたの学校では、次のことを決めるとき、どのようにして決めていますか。

- | | 生徒だけで
話し合っ
て決める | 先生と相談するが
どちらかといえば
生徒が決める | 先生と相談するが
どちらかといえば
先生が決める | 先生が
決めている |
|-------------------------|-----------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------|
| 1) 教室の座席 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) クラスの係 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) 文化祭や体育祭のプログラム | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4) 遠足や修学旅行の行き先や内容 | 1 | 2 | 3 | 4 |

10) 次のことを決めるのに自分の意見を言うことができるとしたら、あなたは意見を言いたいですか。

- | | とても
言いたい | わりと
言いたい | 少し
言いたい | あまり
関心がない | ぜんぜん
関心がない |
|-------------------------|-------------|-------------|------------|--------------|---------------|
| 1) 教室の座席 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) クラスの係 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 服装や髪型についてのきまり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 文化祭や体育祭のプログラム | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 遠足や修学旅行の行き先や内容 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) 部活動の活動計画や練習方法 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) 卒業式のプログラム | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 時間割 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

資料1 調査票見本

- | | とても
言いたい | わりと
言いたい | 少し
言いたい | あまり
関心がない | ぜんぜん
関心がない |
|------------------------------------|-------------|-------------|------------|--------------|---------------|
| 9) 授業で勉強する内容..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 通知表につける成績..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11) 高校入試の仕方..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12) 校区にできる新しい公園のプランづくり..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13) 災害にあった人たちを助けるためにどんなことをするか..... | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

11) ①もし、次のことを決めるために、放課後、自主的に話し合いをすることになったら、あなたは参加しますか（強制はされません）

- | | ぜったい
参加する | たぶん
参加する | たぶん
参加しない | ぜったい
参加しない |
|---------------------------------|--------------|-------------|--------------|---------------|
| 1) 「文化祭や体育祭のプログラム」を決める話し合い..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 「授業で勉強する内容」を決める話し合い..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) 「公園のプランづくり」のための話し合い..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

②では、「リーダーになってほしい」と言われたら、あなたは引き受けますか。

- | | ぜったい
引き受ける | たぶん
引き受ける | たぶん
引き受けない | ぜったい
引き受けない |
|-----------------------------|---------------|--------------|---------------|----------------|
| 1) 「文化祭や体育祭」のリーダー..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 「授業で勉強する内容」を決めるリーダー..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) 「公園のプランづくり」のリーダー..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

12) あなたは、次のような考え方は「わがまま」だと思いますか。それとも、「権利の主張」だと思いますか。

- | | ぜったい
わがまま | やや
わがまま | やや
権利の主張 | ぜったい
権利の主張 |
|-------------------------------------|--------------|------------|-------------|---------------|
| 1) 授業中にトイレに行きたくなったら行く..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 給食に嫌いなものがあるときは食べない..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) 制服（標準服）の着方をちょっとだけ変える..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4) 校則に決められているけれど、好きな髪型にする..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5) 全員で校歌を歌うときに、歌わない..... | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6) 先生の教え方が自分に合わないので、授業中違うことをする..... | 1 | 2 | 3 | 4 |

資料1 調査票見本

- | | ぜったい
わがまま | やや
わがまま | やや
権利の主張 | ぜったい
権利の主張 |
|---|--------------|------------|-------------|---------------|
| 7) 気分がのらないときは保健室で休む | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8) 学校へ行きたくない日は欠席する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9) 自分の用事があるときは係の仕事をしなくて帰る | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10) みんなで決めたことだけれど、やりたくないの
やらない | 1 | 2 | 3 | 4 |

Ⅲ. もう少し、あなたの考えについておたずねします。

13) あなたは、「子どもの権利」とはどんなことをいうのだと思いますか。

- | | とても
そう思う | わりと
そう思う | 少し
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|---------------------------------------|-------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1) 子どもは仕事をしなくていいこと | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 子どもの安全をまもるためのもの | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) やりたい勉強や運動ができること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 人に知られたくないことを秘密にできること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 自分の意見をきちんと言えること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) 学校のきまりを自分たちでつくれること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) 自分の進路(人生)を自分で決められること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) おとなになるために必要なもの | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) おとなたちが尊重すべきもの | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 子どもをあまやかすもの | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11) 自分の時間は好きなように使えること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12) 成績や受験のストレスで苦しまないです
むこと | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13) 困っていることをおとなに相談できること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14) 自分の成績や内申書について知ることが
できること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15) 時には、法にふれる行為をしても許され
ること | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

資料1 調査票見本

14 あなたは、中学生が次のようなことをするのは「無理（早い）」と思いますか。それとも、「できる（していい）」と思いますか。

	ぜったい無理	やや無理	ややできる	ぜったいできる
1) 自分たちで校則を決める	1	2	3	4
2) 自分たちで授業で勉強する内容を決める	1	2	3	4
3) 自分で自分の成績をつける	1	2	3	4
4) 自分の将来の職業や進路を決める	1	2	3	4
	ぜったい早い	やや早い	ややしていい	ぜったいしていい
5) アルバイトをする	1	2	3	4
6) お化粧をする	1	2	3	4
7) ピアスをする	1	2	3	4
8) 友だちの家に泊まる	1	2	3	4
9) 好きな人とつきあう	1	2	3	4
10) エッチな雑誌を読む	1	2	3	4
11) セックスをする	1	2	3	4

15 あなたは、次のような考え方についてどう思いますか。

	とても そう思う	かなり そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
1) 人に迷惑をかけなければ、何をやっても その人の自由だ	1	2	3	4	5
2) 校則やきまりは、納得できなくても 守らなくてはならない	1	2	3	4	5
3) 中学生は保護されているのだから、多少の制約 (できないことがある)は仕方ない	1	2	3	4	5
4) 中学生も悪いことをしたら、おとなと同じ ように罰するべきだ	1	2	3	4	5
5) 権利を主張するなら、義務も果たさなくては ならない	1	2	3	4	5
6) 多数決で決めたことは、自分が反対でも したがわなくてはならない	1	2	3	4	5
7) たとえ失敗しても、自分たちのことは 自分たちで決めたい	1	2	3	4	5

資料1 調査票見本

- | | | | | | |
|--|-------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| | とても
そう思う | かなり
そう思う | 少し
そう思う | あまり
そう思わない | ぜんぜん
そう思わない |
|--|-------------|-------------|------------|---------------|----------------|
- 8) みんなと同じことをしていれば、
とりあえず安心だ 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
- 9) めんどくさいことは、誰かに決めて
もらいたい 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
- 10) 先生や親は「自分で決めなさい」と言うが、
実は強制している 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
- 11) まじめにやっている人がいつも損をする 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
- 12) もっと自分の権利を主張すべきだ 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

IV. 最後に、あなた自身のことをおたずねします。

16) あなたの成績は、クラスでだいたいどのくらいですか。

- | | | | | |
|-----|-----|--------|-----|-----|
| 上の方 | 中の上 | まん中くらい | 中の下 | 下の方 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

17) あなたは将来について、どのような見通しをもっていますか。

- | | | | | | |
|--|-------------|-------------|----------|-----------|------------|
| | きっと
そうなる | たぶん
そうなる | 半分
半分 | たぶん
無理 | まったく
無理 |
|--|-------------|-------------|----------|-----------|------------|
- 1) 望みの高校に入れる 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
- 2) 望みの大学に入れる 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
- 3) 望みの仕事につける 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
- 4) 幸せな家庭をつくれる 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
- 5) 社会的な活躍ができる 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

18) あなたは、次のようなことを決めるときに、自分で決めてきた方ですか。それとも、誰かの意見を聞いて決めてきた方ですか。

- | | | | | |
|--|--------------|--------------------------|-----------------------------|-----------------|
| | 自分で
決めてきた | どちらかといえば
自分で
決めてきた | どちらかといえば
誰かの意見で
決めてきた | 誰かの意見で
決めてきた |
|--|--------------|--------------------------|-----------------------------|-----------------|
- 1) どんな服を買うか 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
- 2) どの理髪店(美容院)で髪を切るか 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
- 3) 塾に行くかどうか 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4
- 4) どの部活動に入るか 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4

資料1 調査票見本

- | | 自分で
決めてきた | どちらかといえば
自分で
決めてきた | どちらかといえば
誰かの意見で
決めてきた | 誰かの意見で
決めてきた |
|----------------------------|--------------|--------------------------|-----------------------------|-----------------|
| 5) 休日に家族で出かけるときの行き先 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6) 受験する(進学したい)高校 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7) 将来、つきたい職業 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8) 具合が悪いとき、病院に行くかどうか | 1 | 2 | 3 | 4 |

19) あなたは友だちに対して、次のようなことができますか。

- | | きつと
できる | たぶん
できる | たぶん
できない | まったく
できない |
|--|------------|------------|-------------|--------------|
| 1) クラスの責任ある仕事を進んで引き受ける | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2) 友だちと意見がちがうとき、自分の意見を主張する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3) 友だちがいじめられているときに助ける | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4) 自分のあやまりに気づいたとき、友だちに素直に
あやまる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5) 友だちがいじめをしていると知ったら、やめさせる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6) ふだんあまり話したことがない同級生と協力して仕事を
する | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7) 冷静に根拠(理由)をあげながら、友だちのまちがいを
指摘する | 1 | 2 | 3 | 4 |

20) あなたは、次のような学校のきまりについて、今までに疑問を感じたことがありますか。

- | | 疑問を
感じなかった | 疑問を感じたが
自分の胸に
しまっていた | 疑問を感じて
友だちと不満を
言い合った | 疑問を感じて
先生に
文句を言った | 自分の学校に
そのような
きまりはない |
|--|---------------|----------------------------|----------------------------|-------------------------|---------------------------|
| 1) 授業の前後にあいさつ(「起立・礼」
など)をすること | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 2) 決められたワイシャツやジャージを
着ること | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 3) 校則で髪型を決めること | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 4) ピアスをしてはいけないこと | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 5) 学校で掃除をすること | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 6) クラブ活動に全員参加すること | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 7) 授業中にいねむりをすると叱られること | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 8) 学校で持ち物検査をすること | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |
| 9) マラソン大会や合唱大会などがあること | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) |

資料1 調査票見本

⑳ あなたは「児童（子ども）の権利条約」というものを知っていましたか。

ぜんぜん 知らない	名前だけどこかで 聞いたことがある	どんなものか 少し知っている	自分で読んだ ことがある
1	2	3	4

㉑ 学校のきまりや校則について、何か言いたいことはありますか。
あったら、自由に書いてください。

～これで終わりです。長い間ありがとうございました。～

資料2 学年・性別集計表

単位：サンプル数以外はパーセント

質問項目			全 体	性 別		学 年 別			
				男 子	女 子	1 年	2 年	3 年	
サンプル数			1,238	640	598	363	368	507	
①	属 性	学 年	1. 1年	363	193	170			
			2. 2年	368	182	186			
3. 3年	507		265	242					
	性 別	1. 男子	640						
		2. 女子	598						
②	家 庭	朝起きるとおはらよ	1. とてもそう	30.5	28.1	33.1	38.5	32.7	23.3
			2. わりとそう	22.6	22.6	22.7	19.6	24.5	23.5
			3. 少しそう	13.6	15.6	11.6	15.1	12.6	13.3
			4. あまりそうでない	15.6	14.6	16.6	12.8	15.1	17.9
			5. ぜんぜんそうでない	17.6	19.1	16.1	14.0	15.1	22.1
		自分だけの食器は	1. とてもそう	21.0	16.8	25.5	21.9	21.8	19.8
			2. わりとそう	16.3	14.9	17.7	18.3	18.2	13.4
			3. 少しそう	17.9	17.7	18.1	20.8	17.1	16.4
			4. あまりそうでない	18.9	19.3	18.4	16.6	19.3	20.2
			5. ぜんぜんそうでない	25.9	31.3	20.3	22.5	23.5	30.2
	掃除は自分で	1. とてもそう	29.9	27.4	32.5	29.8	30.3	29.6	
		2. わりとそう	20.9	18.5	23.4	20.8	22.3	19.9	
		3. 少しそう	19.8	21.3	18.2	19.7	19.3	20.3	
		4. あまりそうでない	15.2	15.3	15.2	16.6	12.9	15.9	
		5. ぜんぜんそうでない	14.2	17.5	10.8	13.2	15.2	14.3	
	近所の人と会話	1. とてもそう	36.4	29.6	43.6	34.7	35.9	37.9	
		2. わりとそう	26.4	26.2	26.6	25.2	25.4	28.0	
		3. 少しそう	19.5	22.6	16.3	19.6	21.8	17.9	
		4. あまりそうでない	11.4	12.4	10.4	13.7	11.9	9.5	
		5. ぜんぜんそうでない	6.2	9.2	3.0	6.7	5.0	6.7	
学校の家族に	1. とてもそう	40.5	35.7	45.5	40.1	37.7	42.7		
	2. わりとそう	30.8	29.5	32.2	31.9	32.7	28.6		
	3. 少しそう	15.5	17.5	13.3	12.0	17.2	16.7		
	4. あまりそうでない	7.5	9.1	5.9	10.4	6.9	6.0		
	5. ぜんぜんそうでない	5.7	8.3	3.0	5.6	5.5	6.0		
保護者あては必ず	1. とてもそう	20.3	14.4	26.6	23.6	19.1	18.9		
	2. わりとそう	26.6	22.5	30.9	27.8	28.5	24.5		
	3. 少しそう	23.8	26.2	21.2	20.8	26.2	24.1		
	4. あまりそうでない	18.3	22.4	14.1	16.3	18.0	20.1		
	5. ぜんぜんそうでない	11.0	14.5	7.2	11.5	8.3	12.5		
備物は自分で準備	1. とてもそう	34.6	30.0	39.4	38.3	36.5	30.5		
	2. わりとそう	26.3	24.1	28.6	27.7	27.7	24.2		
	3. 少しそう	20.4	23.3	17.3	18.7	20.6	21.4		
	4. あまりそうでない	14.6	18.0	10.9	12.3	11.3	18.6		
	5. ぜんぜんそうでない	4.2	4.6	3.7	3.1	3.8	5.2		
力を与えるように	1. とてもそう	75.0	68.4	81.8	71.2	75.4	77.3		
	2. わりとそう	16.4	17.9	15.0	17.6	18.5	14.1		
	3. 少しそう	5.7	8.8	2.5	7.3	5.2	5.0		
	4. あまりそうでない	2.0	3.7	0.3	3.4	0.3	2.4		
	5. ぜんぜんそうでない	0.8	1.3	0.3	0.6	0.6	1.2		
親の期待に	1. とてもそう	8.9	7.5	10.5	8.4	9.6	8.8		
	2. わりとそう	23.9	25.5	22.1	26.9	21.2	23.6		
	3. 少しそう	35.2	36.1	34.1	37.3	36.8	32.5		
	4. あまりそうでない	21.1	19.6	22.8	16.2	23.4	23.0		
	5. ぜんぜんそうでない	10.9	11.3	10.5	11.2	9.1	12.0		

資料2 学年・性別集計表

質問項目			全 体	性 別		学 年 別			
				男 子	女 子	1 年	2 年	3 年	
②	家庭での様子	家でか りして いる がま んば	1. とてもそう	7.1	8.7	5.4	5.3	6.3	9.0
			2. わりとそう	10.8	9.7	12.0	10.6	10.5	11.2
			3. 少しそう	25.3	26.7	23.9	24.3	26.7	25.1
			4. あまりそうでない	33.0	34.2	31.6	35.2	31.7	32.3
			5. ぜんぜんそうでない	23.8	20.7	27.1	24.6	24.8	22.5
③	父	学校 の でき ごと を よく 質 問 す	1. とてもそう	13.3	14.1	12.5	13.2	11.3	14.8
			2. わりとそう	27.3	27.8	26.8	25.6	27.7	28.2
			3. 少しそう	29.6	28.8	30.5	29.0	33.2	27.4
			4. あまりそうでない	21.1	19.7	22.6	22.8	18.1	22.0
			5. ぜんぜんそうでない	8.7	9.6	7.7	9.3	9.6	7.6
	親	家 族 で 社 会 の で き ごと を よく 話 す	1. とてもそう	8.3	8.8	7.7	8.7	6.3	9.4
			2. わりとそう	17.3	16.6	18.0	15.5	17.6	18.3
			3. 少しそう	28.3	27.8	28.8	24.5	31.1	28.9
			4. あまりそうでない	29.8	28.0	31.6	30.7	28.7	29.9
			5. ぜんぜんそうでない	16.4	18.8	13.8	20.6	16.3	13.5
	親	よ い こ と と 悪 い こ と を 判 断 し て い る	1. とてもそう	38.1	38.4	37.7	41.8	33.1	39.0
			2. わりとそう	33.6	33.3	34.0	36.4	35.5	30.3
			3. 少しそう	21.4	21.9	20.9	18.9	21.8	22.9
			4. あまりそうでない	4.9	4.1	5.7	2.0	6.6	5.8
			5. ぜんぜんそうでない	2.0	2.2	1.7	0.8	3.0	2.0
	母	家 族 の こ と に 決 め る	1. とてもそう	8.5	8.3	8.7	7.6	8.6	9.0
			2. わりとそう	21.5	20.0	23.1	25.5	18.8	20.6
			3. 少しそう	32.6	33.7	31.4	30.9	37.1	30.5
			4. あまりそうでない	26.7	26.5	26.8	27.2	24.7	27.7
			5. ぜんぜんそうでない	10.8	11.5	10.0	8.8	10.8	12.2
	は	こ ち ど も の わ か り な い こ と を 持 つ	1. とてもそう	12.2	11.0	13.4	14.6	8.3	13.2
			2. わりとそう	27.8	27.0	28.6	28.2	32.5	24.0
			3. 少しそう	30.7	33.4	27.9	33.2	30.9	28.9
			4. あまりそうでない	19.6	19.0	20.3	16.9	17.4	23.2
			5. ぜんぜんそうでない	9.7	9.6	9.8	7.0	11.0	10.6
ん	し つ け に き び しい	1. とてもそう	17.1	19.0	15.2	17.2	19.0	15.7	
		2. わりとそう	27.7	30.3	25.0	29.1	26.9	27.3	
		3. 少しそう	26.7	26.5	27.0	28.0	24.5	27.5	
		4. あまりそうでない	23.0	19.6	26.6	20.9	24.7	23.3	
		5. ぜんぜんそうでない	5.4	4.6	6.2	4.8	4.9	6.2	
な	よ い こ と を 成 績 と し て 期 を 待 つ	1. とてもそう	26.8	32.5	20.7	25.4	27.7	27.0	
		2. わりとそう	26.1	27.4	24.7	29.9	25.3	24.0	
		3. 少しそう	24.5	22.6	26.6	22.9	24.7	25.6	
		4. あまりそうでない	15.1	10.9	19.5	14.7	16.2	14.6	
		5. ぜんぜんそうでない	7.5	6.6	8.4	7.1	6.0	8.8	
か	学 校 へ の 行 き ま た く な い	1. とてもそう	3.2	1.9	4.4	2.3	2.5	4.2	
		2. わりとそう	5.1	4.4	5.8	3.1	6.2	5.6	
		3. 少しそう	13.0	11.8	14.2	11.7	12.6	14.1	
		4. あまりそうでない	25.8	21.8	30.0	25.7	26.7	25.3	
		5. ぜんぜんそうでない	53.0	60.0	45.6	57.1	52.0	50.8	
か	校 則 に 違 反 し て い る こ と を 認 め ない	1. とてもそう	5.2	5.4	5.0	3.4	4.8	6.7	
		2. わりとそう	10.2	7.3	13.2	6.6	9.6	13.2	
		3. 少しそう	20.1	22.0	18.0	18.4	22.2	19.7	
		4. あまりそうでない	31.0	28.5	33.6	33.9	29.2	30.2	
		5. ぜんぜんそうでない	33.6	36.8	30.2	37.6	34.3	30.2	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
3	父親や母親はどのくらいか 納得できる学校に抗議すればできる	1. とてもそう	6.4	6.0	6.9	4.6	6.0	8.1	
		2. わりとそう	9.1	8.3	10.0	8.0	7.4	11.1	
		3. 少しそう	21.9	20.7	23.2	22.6	21.3	21.9	
		4. あまりそうでない	28.8	27.7	29.9	29.1	27.6	29.4	
		5. ぜんぜんそうでない	33.8	37.3	30.1	35.7	37.8	29.6	
4	父親や母親はどのくらいか つとてうまくいっている	1. とてもうまくいっている	26.8	23.3	30.3	34.6	24.5	23.2	
		2. わりとよくいっている	57.4	61.1	53.7	53.7	59.9	58.0	
		3. あまりよくいっていない	12.2	11.6	12.7	9.6	11.0	14.8	
		4. ぜんぜんうまくいっていない	3.7	4.0	3.3	2.2	4.6	4.0	
5	父親や母親にしていること	家で休ませる	1. ぜったいそうしてほしい	45.2	46.2	44.1	40.2	46.0	48.1
			2. 別にどちらでもいい	48.8	49.3	48.3	53.0	49.3	45.5
			3. 自分の親は今もそうしてくれている	6.0	4.5	7.6	6.8	4.7	6.4
		おごさして食べて	1. ぜったいそうしてほしい	47.3	50.5	44.0	46.6	45.7	49.0
			2. 別にどちらでもいい	34.3	37.0	31.5	36.4	32.8	34.1
			3. 自分の親は今もそうしてくれている	18.3	12.5	24.5	17.0	21.5	16.9
		おごさして食べて	1. ぜったいそうしてほしい	27.3	32.9	21.4	24.1	27.0	29.7
			2. 別にどちらでもいい	33.7	39.6	27.4	34.6	32.0	34.3
			3. 自分の親は今もそうしてくれている	39.1	27.6	51.2	41.4	41.0	36.1
		話を聞いて	1. ぜったいそうしてほしい	6.3	6.0	6.7	8.0	4.7	6.4
			2. 別にどちらでもいい	67.9	76.8	58.5	62.3	71.3	69.3
			3. 自分の親は今もそうしてくれている	25.8	17.2	34.7	29.7	24.0	24.3
	家族旅行に先行	1. ぜったいそうしてほしい	20.5	20.5	20.5	25.1	17.9	19.1	
		2. 別にどちらでもいい	57.4	62.2	52.5	51.9	58.8	60.4	
		3. 自分の親は今もそうしてくれている	22.1	17.4	27.0	23.1	23.2	20.5	
	友達に誘われて	1. ぜったいそうしてほしい	42.1	43.8	40.4	36.0	44.6	44.7	
		2. 別にどちらでもいい	43.0	46.1	39.7	47.9	40.7	41.1	
		3. 自分の親は今もそうしてくれている	14.9	10.1	19.9	16.1	14.7	14.2	
	秘密のものを見ないで	1. ぜったいそうしてほしい	64.0	62.6	65.4	61.1	61.8	67.5	
		2. 別にどちらでもいい	19.9	29.2	10.1	22.2	21.6	17.1	
		3. 自分の親は今もそうしてくれている	16.1	8.2	24.5	16.8	16.6	15.3	
	家で先生の様子を言わないで	1. ぜったいそうしてほしい	26.3	25.1	27.5	30.8	27.7	22.1	
		2. 別にどちらでもいい	65.8	68.4	63.1	61.5	66.2	68.5	
		3. 自分の親は今もそうしてくれている	7.9	6.4	9.4	7.7	6.1	9.4	
自分な味	1. ぜったいそうしてほしい	11.6	11.0	12.2	12.8	12.3	10.2		
	2. 別にどちらでもいい	76.6	80.3	72.8	74.7	79.1	76.2		
	3. 自分の親は今もそうしてくれている	11.8	8.7	15.1	12.5	8.6	13.6		
待ちきれない	1. ぜったいそうしてほしい	29.0	27.0	31.0	28.4	29.9	28.7		
	2. 別にどちらでもいい	63.0	67.5	58.3	63.9	63.2	62.4		
	3. 自分の親は今もそうしてくれている	8.0	5.5	10.6	7.7	6.9	9.0		
6	クラスについて	チャイムが鳴ったら席につく	1. とてもそう	12.3	13.8	10.7	10.2	14.7	12.1
			2. わりとそう	26.9	23.9	30.2	27.6	25.5	27.4
			3. 少しそう	23.4	23.7	23.1	21.8	25.3	23.2
			4. あまりそうでない	24.8	24.3	25.3	22.9	26.4	25.0
			5. ぜんぜんそうでない	12.6	14.3	10.7	17.4	8.2	12.3
	教室が整理整頓されている	1. とてもそう	7.9	8.8	6.9	5.6	10.4	7.7	
		2. わりとそう	25.5	23.3	27.9	25.3	30.5	22.0	
		3. 少しそう	31.9	32.4	31.4	36.4	32.2	28.6	
		4. あまりそうでない	24.2	22.8	25.7	25.0	19.3	27.2	
		5. ぜんぜんそうでない	10.5	12.6	8.2	7.8	7.6	14.5	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年	3年	
ク ラ ス に つ い て	生徒が自主的に の仕事をするに	1. とてもそう	9.2	9.9	8.4	10.0	9.8	8.1
		2. わりとそう	27.7	23.9	31.8	24.4	31.1	27.6
		3. 少しそう	37.1	39.1	35.0	35.5	37.2	38.3
		4. あまりそうでない	20.7	20.4	21.0	24.1	18.3	20.0
		5. ぜんぜんそうでない	5.3	6.8	3.7	6.1	3.6	6.0
	てなんとなく暗く	1. とてもそう	3.3	3.9	2.5	4.2	1.9	3.6
		2. わりとそう	5.2	4.4	6.1	5.6	4.9	5.2
		3. 少しそう	14.2	13.9	14.6	13.1	11.7	16.9
		4. あまりそうでない	35.2	34.6	35.7	30.1	35.2	38.7
		5. ぜんぜんそうでない	42.1	43.1	41.1	47.1	46.2	35.7
	行事などが	1. とてもそう	28.9	28.9	29.0	24.0	23.1	36.6
		2. わりとそう	32.8	30.6	35.2	30.4	37.5	31.3
		3. 少しそう	22.6	24.6	20.4	25.3	27.0	17.4
		4. あまりそうでない	10.8	10.6	11.1	15.3	9.1	8.9
		5. ぜんぜんそうでない	4.8	5.4	4.2	5.0	3.3	5.7
	仲がいい男子と女子の	1. とてもそう	11.2	10.6	11.9	10.8	13.6	9.8
		2. わりとそう	30.1	27.8	32.6	26.1	37.9	27.3
		3. 少しそう	34.9	38.5	31.1	30.6	36.0	37.3
		4. あまりそうでない	16.2	14.0	18.5	21.1	9.5	17.5
		5. ぜんぜんそうでない	7.6	9.1	5.9	11.4	3.0	8.2
	をてまじめる人にやっ	1. とてもそう	10.2	11.1	9.1	12.5	6.3	11.3
		2. わりとそう	15.6	14.6	16.6	17.5	14.2	15.1
		3. 少しそう	31.5	34.2	28.6	28.4	33.1	32.6
		4. あまりそうでない	34.0	29.5	38.7	32.9	36.9	32.6
		5. ぜんぜんそうでない	8.8	10.5	6.9	8.6	9.6	8.3
	を担任の先生に聞く	1. とてもそう	8.1	9.3	6.9	8.9	4.9	9.9
		2. わりとそう	21.5	20.3	22.9	21.9	19.9	22.4
		3. 少しそう	31.2	31.6	30.8	29.7	34.3	30.0
		4. あまりそうでない	27.1	26.7	27.6	25.8	30.5	25.6
		5. ぜんぜんそうでない	12.0	12.2	11.8	13.6	10.4	12.1
	リーダーがいる	1. とてもそう	15.8	18.5	12.9	17.3	18.1	13.0
		2. わりとそう	16.4	14.2	18.8	15.6	18.4	15.6
		3. 少しそう	23.8	22.0	25.8	20.4	22.5	27.2
		4. あまりそうでない	23.9	22.6	25.3	24.6	23.8	23.4
		5. ぜんぜんそうでない	20.1	22.7	17.3	22.1	17.3	20.8
	自分の意見を	1. とてもそう	9.8	11.5	7.9	11.1	8.2	9.9
		2. わりとそう	19.3	22.4	16.0	16.1	22.3	19.3
		3. 少しそう	31.9	34.8	28.7	34.7	34.1	28.2
		4. あまりそうでない	28.4	21.1	36.1	28.3	27.0	29.4
		5. ぜんぜんそうでない	10.7	10.2	11.3	9.7	8.4	13.1
	多を校則や生きまがりが	1. とてもそう	7.9	9.1	6.6	9.2	7.4	7.4
		2. わりとそう	22.1	23.3	20.9	24.2	24.8	18.7
		3. 少しそう	32.6	31.0	34.3	30.8	35.4	31.8
		4. あまりそうでない	27.7	25.3	30.3	25.8	25.6	30.6
		5. ぜんぜんそうでない	9.7	11.3	7.9	10.0	6.8	11.5
	がく授業中先生の話を	1. とてもそう	13.2	14.9	11.4	20.4	9.5	10.7
		2. わりとそう	19.9	20.3	19.4	21.8	22.0	16.9
		3. 少しそう	30.9	30.0	31.8	27.9	36.4	29.0
		4. あまりそうでない	24.8	23.9	25.8	19.3	22.3	30.6
		5. ぜんぜんそうでない	11.3	11.0	11.6	10.5	9.8	12.9

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
7	学校の経験	わでみ れた悪 口な の言 前	1. しょっちゅうある	11.1	15.3	6.6	11.2	10.4	11.6
		2. ときどきある	24.6	31.4	17.3	24.0	24.0	25.5	
		3. 1、2回ある	32.6	31.1	34.3	32.7	33.9	31.7	
		4. 1度もない	31.6	22.2	41.8	32.1	31.7	31.3	
		つ貸文 てした こ房具 ないら 返など	1. しょっちゅうある	2.7	3.9	1.3	1.7	2.2	3.8
		2. ときどきある	11.6	12.6	10.6	11.1	10.4	12.9	
		3. 1、2回ある	26.5	23.5	29.7	24.1	27.5	27.4	
		4. 1度もない	59.2	60.0	58.4	63.2	59.9	55.9	
		らヤカ 手パ 帳の を見 中	1. しょっちゅうある	4.4	6.5	2.2	3.1	4.4	5.4
		2. ときどきある	11.1	12.5	9.6	9.7	10.9	12.2	
		3. 1、2回ある	22.4	21.6	23.2	17.8	24.8	23.9	
		4. 1度もない	62.2	59.5	65.0	69.4	59.9	58.6	
		をブラ イライ シ	1. しょっちゅうある	5.6	7.6	3.5	5.3	5.7	5.8
		2. ときどきある	13.0	13.6	12.4	8.6	14.7	14.9	
		3. 1、2回ある	28.1	25.6	30.8	26.7	26.7	30.2	
		4. 1度もない	53.3	53.3	53.3	59.4	52.9	49.2	
		視友 され た た 無	1. しょっちゅうある	5.0	5.4	4.5	5.0	4.1	5.6
		2. ときどきある	16.9	15.6	18.3	15.2	14.2	20.1	
		3. 1、2回ある	33.5	30.1	37.1	35.6	34.5	31.2	
		4. 1度もない	44.6	49.0	40.0	44.2	47.1	43.1	
		い じ め を 受 け た	1. しょっちゅうある	3.3	4.1	2.4	2.8	1.4	5.0
		2. ときどきある	5.5	6.8	4.1	4.2	7.7	4.8	
		3. 1、2回ある	14.5	11.5	17.8	12.5	11.2	18.3	
		4. 1度もない	76.8	77.7	75.8	80.5	79.7	72.0	
		れか授 たい業 を中 かけち よつ	1. しょっちゅうある	16.5	20.4	12.3	16.1	10.1	21.5
		2. ときどきある	25.0	28.9	20.7	22.5	24.9	26.8	
		3. 1、2回ある	31.0	28.9	33.2	33.3	35.8	25.8	
		4. 1度もない	27.5	21.7	33.7	28.1	29.2	25.8	
て校 叱ら れ た 違 反 し	1. しょっちゅうある	4.0	5.0	2.9	2.8	3.6	5.2		
2. ときどきある	13.8	16.5	10.9	11.3	15.0	14.7			
3. 1、2回ある	27.5	29.1	25.8	17.7	33.3	30.4			
4. 1度もない	54.7	49.4	60.4	68.2	48.1	49.8			
さ自悪 れた分 のな せい の に	1. しょっちゅうある	9.6	12.9	6.0	8.9	9.0	10.6		
2. ときどきある	20.1	20.5	19.6	19.9	22.3	18.5			
3. 1、2回ある	38.7	36.9	40.7	36.3	38.3	40.8			
4. 1度もない	31.6	29.7	33.7	34.9	30.4	30.1			
扱徒先 だけ生 しがある 特別	1. しょっちゅうある	19.7	17.0	22.6	14.2	18.9	24.3		
2. ときどきある	20.5	15.3	26.2	16.7	21.9	22.3			
3. 1、2回ある	20.4	19.5	21.3	19.2	20.3	21.3			
4. 1度もない	39.4	48.3	29.9	50.0	38.9	32.2			
を先生 受から けた 体罰	1. しょっちゅうある	4.3	6.3	2.2	3.9	3.8	5.0		
2. ときどきある	5.9	8.0	3.7	7.5	7.1	4.0			
3. 1、2回ある	12.3	15.2	9.2	12.5	14.1	10.9			
4. 1度もない	77.4	70.5	84.9	76.2	75.0	80.1			
8	どう思うか	を前み 言うで 悪ん 口な の	1. 理由があればそれでもいい	16.4	18.7	14.0	17.5	15.1	16.7
		2. しかたなくすることもある	39.9	40.8	38.9	38.9	42.2	39.0	
		3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	43.6	40.5	47.0	43.6	42.7	44.3	
		さ房借 ないり 返文	1. 理由があればそれでもいい	6.7	7.4	6.0	6.6	6.8	6.7
		2. しかたなくすることもある	11.5	12.9	10.1	8.8	11.2	13.7	
		3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	81.7	79.7	83.9	84.5	82.0	79.6	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
8	ど う 思 う か	手やカバンの中に見る	1. 理由があればしてもいい	6.7	7.2	6.1	7.2	6.5	6.4
			2. しかたなくすることもある	15.0	18.7	11.1	11.6	14.2	18.1
			3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	78.3	74.1	82.9	81.2	79.3	75.5
		の 前 で 話 す	1. 理由があればしてもいい	5.0	6.0	3.9	7.2	3.6	4.4
			2. しかたなくすることもある	11.2	12.7	9.6	6.5	12.6	13.9
			3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	83.8	81.3	86.6	86.7	83.9	81.7
		無 視 す る	1. 理由があればしてもいい	11.5	11.6	11.4	14.1	10.1	10.7
			2. しかたなくすることもある	30.8	28.6	33.3	29.4	32.2	31.0
			3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	57.6	59.8	55.3	56.5	57.8	58.3
		い じ め る こ と	1. 理由があればしてもいい	5.0	5.7	4.4	6.4	5.2	4.0
			2. しかたなくすることもある	11.4	12.4	10.3	9.9	11.2	12.5
			3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	83.6	81.9	85.4	83.7	83.7	83.5
け つ か い を か	1. 理由があればしてもいい	17.5	18.1	16.8	12.8	17.5	20.9		
	2. しかたなくすることもある	40.2	42.2	38.0	37.5	40.4	41.9		
	3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	42.3	39.7	45.1	49.7	42.1	37.2		
反 校 則 に 違	1. 理由があればしてもいい	20.7	18.0	23.7	17.3	17.3	25.6		
	2. しかたなくすることもある	35.9	33.7	38.3	26.8	36.3	42.1		
	3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	43.3	48.3	38.0	55.9	46.4	32.2		
に 人 の せ い	1. 理由があればしてもいい	3.2	3.8	2.5	2.5	3.8	3.2		
	2. しかたなくすることもある	17.0	19.1	14.8	14.8	18.0	17.9		
	3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	79.8	77.2	82.7	82.7	78.2	78.9		
扱 い ず る	1. 理由があればしてもいい	5.7	7.9	3.4	5.8	5.2	6.0		
	2. しかたなくすることもある	13.3	16.2	10.1	12.4	12.9	14.1		
	3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	81.0	75.9	86.5	81.8	81.9	79.9		
を す る	1. 理由があればしてもいい	7.7	10.8	4.4	5.5	7.4	9.5		
	2. しかたなくすることもある	13.2	18.4	7.7	12.7	13.6	13.3		
	3. どんな理由でもぜったいしてはいけない	79.0	70.8	87.9	81.7	79.0	77.1		
9	決 め 方	教 室 の 座 席	1. 生徒だけで話し合っている	24.4	26.7	22.0	15.8	13.0	38.9
			2. 先生と相談するが生徒が決める	53.9	51.8	56.0	52.1	59.4	51.1
			3. 先生と相談するが先生が決める	17.6	18.1	17.0	25.4	23.5	7.8
			4. 先生が決めている	4.1	3.3	4.9	6.8	4.1	2.2
		ク ラ ス の 係	1. 生徒だけで話し合っている	47.1	46.2	48.1	36.6	41.5	58.8
			2. 先生と相談するが生徒が決める	48.0	47.3	48.6	56.4	51.6	39.2
			3. 先生と相談するが先生が決める	3.9	5.0	2.7	5.9	5.2	1.6
			4. 先生が決めている	1.0	1.4	0.5	1.1	1.6	0.4
		グ ラ ム の プ ロ グ ラ ム	1. 生徒だけで話し合っている	10.6	12.0	9.1	9.9	9.9	11.6
			2. 先生と相談するが生徒が決める	41.2	40.1	42.3	40.0	39.8	43.0
			3. 先生と相談するが先生が決める	23.3	24.0	22.6	28.2	21.5	21.1
			4. 先生が決めている	25.0	24.0	26.0	22.0	28.7	24.3
行 遠 足 や 修 学 旅	1. 生徒だけで話し合っている	5.3	7.8	2.5	3.7	3.8	7.4		
	2. 先生と相談するが生徒が決める	19.2	20.7	17.6	14.0	16.2	25.1		
	3. 先生と相談するが先生が決める	22.6	21.3	24.1	19.9	23.0	24.3		
	4. 先生が決めている	52.9	50.2	55.8	62.4	57.0	43.2		
10	意 見 を 言 い た い か	教 室 の 座 席	1. とても言いたい	19.4	20.6	18.2	24.7	18.8	16.1
			2. わりと言いたい	17.7	16.4	19.2	18.1	19.1	16.5
			3. 少し言いたい	27.6	23.1	32.3	27.5	28.6	26.8
			4. あまり関心がない	24.1	24.6	23.5	20.0	22.1	28.4
			5. ぜんぜん関心がない	11.2	15.3	6.9	9.7	11.4	12.1

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
⑩	意見	クラスの係	1. とても言いたい	13.7	14.7	12.6	15.0	12.8	13.3
			2. わりと言いたい	14.2	12.9	15.5	14.5	15.0	13.3
			3. 少し言いたい	23.7	22.2	25.3	23.7	24.3	23.3
			4. あまり関心がない	34.4	32.2	36.9	33.7	36.1	33.8
			5. ぜんぜん関心がない	14.0	18.0	9.8	13.1	11.7	16.3
	意見	服装や髪型につきまわり	1. とても言いたい	20.9	17.9	24.1	20.9	22.8	19.4
			2. わりと言いたい	14.4	9.6	19.6	13.1	12.1	17.1
			3. 少し言いたい	24.2	22.9	25.6	22.9	24.2	25.2
			4. あまり関心がない	24.1	28.1	19.9	25.4	25.3	22.4
			5. ぜんぜん関心がない	16.3	21.5	10.8	17.6	15.7	15.9
	意見	文化祭や体育祭のプログラム	1. とても言いたい	11.3	12.5	10.1	8.4	10.4	14.1
			2. わりと言いたい	11.3	10.0	12.6	11.2	10.4	11.9
			3. 少し言いたい	23.2	21.0	25.6	21.6	24.4	23.6
			4. あまり関心がない	34.3	33.7	35.0	39.2	33.4	31.5
			5. ぜんぜん関心がない	19.8	22.8	16.7	19.6	21.4	18.8
	意見	遠足や修学旅行の行き先や内容	1. とても言いたい	26.0	26.2	25.8	21.6	25.3	29.6
			2. わりと言いたい	19.1	13.1	25.4	19.0	18.3	19.7
			3. 少し言いたい	24.0	23.4	24.6	20.7	27.2	23.9
			4. あまり関心がない	19.5	21.8	17.0	26.3	17.2	16.3
			5. ぜんぜん関心がない	11.5	15.5	7.2	12.3	12.0	10.5
	意見を言いたか	部活動や練習方法の計画	1. とても言いたい	20.0	23.0	16.9	16.7	19.2	23.1
			2. わりと言いたい	17.5	16.2	19.0	18.3	17.0	17.3
			3. 少し言いたい	28.0	26.6	29.4	29.4	26.3	28.1
			4. あまり関心がない	23.0	20.9	25.2	24.2	24.7	20.9
			5. ぜんぜん関心がない	11.5	13.3	9.6	11.4	12.9	10.6
	意見を言いたか	卒業式のプログラム	1. とても言いたい	12.1	10.6	13.8	7.0	11.7	16.1
			2. わりと言いたい	10.4	6.8	14.1	10.1	6.8	13.1
			3. 少し言いたい	21.0	19.7	22.4	18.5	21.8	22.2
			4. あまり関心がない	36.7	37.3	36.0	41.3	39.2	31.5
			5. ぜんぜん関心がない	19.8	25.6	13.6	23.0	20.4	17.1
	意見を言いたか	時間割	1. とても言いたい	20.3	21.4	19.1	18.6	18.5	22.8
			2. わりと言いたい	13.7	13.5	13.9	15.6	10.1	15.1
			3. 少し言いたい	22.0	22.0	22.0	22.2	23.2	21.0
			4. あまり関心がない	27.9	23.5	32.6	27.8	30.0	26.4
			5. ぜんぜん関心がない	16.1	19.5	12.4	15.8	18.3	14.7
	意見を言いたか	授業で勉強する内容	1. とても言いたい	15.1	16.1	14.1	15.9	13.1	16.1
			2. わりと言いたい	12.3	10.4	14.3	12.3	12.0	12.5
			3. 少し言いたい	25.3	26.5	24.0	23.7	23.4	27.8
			4. あまり関心がない	31.3	27.1	35.8	33.1	33.0	28.8
			5. ぜんぜん関心がない	15.9	19.9	11.8	15.0	18.5	14.7
	意見を言いたか	通知表につける成績	1. とても言いたい	23.8	25.5	22.1	20.9	19.1	29.3
			2. わりと言いたい	13.5	11.7	15.3	11.7	11.2	16.3
			3. 少し言いたい	25.4	24.5	26.4	23.2	25.4	27.1
			4. あまり関心がない	24.8	22.2	27.6	30.2	29.8	17.3
			5. ぜんぜん関心がない	12.5	16.1	8.6	14.0	14.5	10.0
意見を言いたか	高校入試の仕方	1. とても言いたい	22.9	23.6	22.3	17.6	21.0	28.1	
		2. わりと言いたい	16.5	15.5	17.5	12.0	13.1	22.2	
		3. 少し言いたい	25.8	26.1	25.5	25.5	27.0	25.1	
		4. あまり関心がない	22.5	19.6	25.6	29.1	26.4	15.0	
		5. ぜんぜん関心がない	12.2	15.2	9.1	15.7	12.5	9.6	

資料2 学年・性別集計表

質問項目			全体	性別		学年別			
				男子	女子	1年	2年	3年	
10	意見を言いたい か	公校 園区 のに で プ ラ キ ン	1. とても言いたい	12.8	14.0	11.4	11.7	12.3	13.9
			2. わりと言いたい	8.5	7.6	9.6	8.6	8.5	8.5
			3. 少し言いたい	14.8	15.6	13.9	12.8	13.9	16.9
			4. あまり関心がない	34.5	31.7	37.5	35.9	35.8	32.5
			5. ぜんぜん関心がない	29.4	31.1	27.6	30.9	29.5	28.2
	こる被 の災 を者 にを すど すん 助 るか なけ	ム祭 の文 話の化 しプ祭 合しや 合いグ 合いラ 合い	1. とても言いたい	13.2	13.9	12.4	12.8	10.4	15.5
			2. わりと言いたい	16.9	16.1	17.8	15.6	15.5	18.8
			3. 少し言いたい	33.8	31.2	36.6	35.6	31.6	34.1
			4. あまり関心がない	23.5	23.0	24.0	25.6	27.0	19.4
			5. ぜんぜん関心がない	12.7	15.9	9.2	10.6	15.5	12.1
11 ①	話し合 いに 参加 する か	ム祭 の文 話の化 しプ祭 合しや 合いグ 合い	1. ぜったい参加する	14.0	13.5	14.4	11.1	10.1	18.8
			2. たぶん参加する	36.3	31.0	41.9	37.5	36.5	35.3
			3. たぶん参加しない	38.2	40.5	35.7	38.6	42.8	34.5
			4. ぜったい参加しない	11.5	15.0	7.9	12.8	10.6	11.3
	め授 業業 の業 話の業 し合業 合い決 合い	ム祭 の文 話の化 しプ祭 合しや 合いグ 合い	1. ぜったい参加する	13.2	11.8	14.6	13.9	11.7	13.7
			2. たぶん参加する	34.9	31.5	38.6	36.7	36.0	32.9
			3. たぶん参加しない	38.5	40.0	36.9	35.6	40.9	38.9
			4. ぜったい参加しない	13.4	16.7	9.9	13.9	11.4	14.5
	話ン公 し園の 合つ 合い合 合いり のプ のラ	ム祭 の文 話の化 しプ祭 合しや 合いグ 合い	1. ぜったい参加する	10.1	11.6	8.6	9.7	8.4	11.7
			2. たぶん参加する	24.2	22.0	26.5	27.8	25.1	21.0
			3. たぶん参加しない	41.9	39.9	44.0	40.3	46.0	40.0
			4. ぜったい参加しない	23.8	26.4	21.0	22.2	20.4	27.3
11 ②	リー ダー を引 き受 ける か	ダ育文 祭の化 り祭の り体	1. ぜったい引き受ける	8.9	8.7	9.2	7.8	7.4	10.9
			2. たぶん引き受ける	27.8	22.1	33.9	25.1	24.5	32.1
			3. たぶん引き受けない	38.8	39.4	38.1	40.9	43.6	33.7
			4. ぜったい引き受けない	24.5	29.8	18.8	26.2	24.5	23.2
	ダ授業 め業 の業 り業 り業 を	ダ育文 祭の化 り祭の り体	1. ぜったい引き受ける	5.6	7.1	4.0	5.8	5.2	5.8
			2. たぶん引き受ける	17.8	14.7	21.2	18.1	15.6	19.2
			3. たぶん引き受けない	45.8	42.4	49.4	42.6	48.9	45.8
			4. ぜったい引き受けない	30.8	35.8	25.4	33.4	30.3	29.2
	リン公 つ園の ダ園の ダーく のプ のラ	ダ育文 祭の化 り祭の り体	1. ぜったい引き受ける	6.8	7.9	5.7	6.4	5.7	7.9
			2. たぶん引き受ける	17.7	16.2	19.3	16.7	15.3	20.2
			3. たぶん引き受けない	40.8	37.4	44.5	40.9	45.8	37.1
			4. ぜったい引き受けない	34.6	38.5	30.5	35.9	33.2	34.7
12	「わが まま」 か「権 利の主 張」 か	つ授業 た中 ら行 行く たト くイ くな レ	1. ぜったいわがまま	6.5	8.0	4.9	10.6	4.9	4.8
			2. ややわがまま	25.5	24.1	27.0	34.3	24.7	19.8
			3. やや権利の主張	39.8	38.0	41.8	38.4	43.7	38.0
			4. ぜったい権利の主張	28.2	29.9	26.3	16.7	26.6	37.4
	べな給 な食 いの 嫌の 食の を嫌 食い い	つ授業 た中 ら行 行く たト くイ くな レ	1. ぜったいわがまま	20.7	26.8	14.1	26.7	17.5	18.7
			2. ややわがまま	43.0	39.3	47.0	45.7	42.2	41.7
			3. やや権利の主張	22.6	19.4	25.9	18.4	23.8	24.6
			4. ぜったい権利の主張	13.8	14.5	13.0	9.2	16.4	15.1
	変を制 えち服 るよの 着つ と方	つ授業 た中 ら行 行く たト くイ くな レ	1. ぜったいわがまま	9.5	12.4	6.4	13.1	10.4	6.3
			2. ややわがまま	36.1	39.8	32.2	38.7	35.2	34.9
			3. やや権利の主張	39.8	34.5	45.5	36.5	41.3	41.1
			4. ぜったい権利の主張	14.6	13.2	16.0	11.7	13.1	17.7
	なて校 髪則 型で が決 まら ない が好 まき まつ	つ授業 た中 ら行 行く たト くイ くな レ	1. ぜったいわがまま	18.9	22.5	15.0	25.3	19.5	13.9
			2. ややわがまま	33.1	33.5	32.6	33.3	33.7	32.4
			3. やや権利の主張	31.8	26.7	37.3	28.3	30.4	35.4
			4. ぜったい権利の主張	16.2	17.3	15.0	13.1	16.4	18.3

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
12	「わがママ」	わがママ全員で校歌を歌うときに歌を	1. ぜったいわがママ	24.0	22.4	25.7	30.8	20.3	21.8
		2. ややわがママ	46.5	44.6	48.5	46.2	47.7	45.8	
		3. やや権利の主張	20.4	20.5	20.3	17.6	22.5	20.8	
		4. ぜったい権利の主張	9.1	12.5	5.6	5.3	9.6	11.5	
	「わがママ」	先生の教え方をわすれず守る	1. ぜったいわがママ	35.0	33.6	36.5	42.6	31.5	32.2
		2. ややわがママ	38.5	37.6	39.6	37.3	38.4	39.6	
		3. やや権利の主張	19.1	19.0	19.2	15.0	22.7	19.3	
		4. ぜったい権利の主張	7.3	9.8	4.7	5.0	7.4	8.9	
	「か」	健康的な生活を送る	1. ぜったいわがママ	47.3	48.1	46.4	51.0	47.0	44.8
		2. ややわがママ	29.4	24.3	34.8	27.3	30.3	30.2	
		3. やや権利の主張	13.7	15.8	11.4	13.1	13.9	13.9	
		4. ぜったい権利の主張	9.7	11.8	7.4	8.6	8.7	11.1	
	「権利の主張」	学校生活へ行く日	1. ぜったいわがママ	54.0	56.5	51.4	58.8	52.6	51.7
		2. ややわがママ	24.3	20.3	28.6	22.0	25.8	25.0	
		3. やや権利の主張	13.3	12.5	14.1	11.7	13.2	14.6	
		4. ぜったい権利の主張	8.3	10.6	5.9	7.5	8.5	8.8	
「か」	用事がある仕事と係の仕事をしない	1. ぜったいわがママ	30.5	28.6	32.5	32.0	30.1	29.6	
	2. ややわがママ	34.1	33.3	35.0	34.3	32.9	35.0		
	3. やや権利の主張	25.3	24.6	25.9	25.3	26.0	24.7		
	4. ぜったい権利の主張	10.1	13.4	6.6	8.4	11.0	10.7		
「権利の主張」	みんなの意見を尊重する	1. ぜったいわがママ	57.8	52.3	63.6	58.5	52.2	61.3	
	2. ややわがママ	29.3	30.2	28.3	29.8	33.0	26.2		
	3. やや権利の主張	7.8	10.0	5.6	6.4	8.5	8.3		
	4. ぜったい権利の主張	5.1	7.6	2.5	5.3	6.3	4.2		
13	「子ども」	子どもを大切に育てる	1. とてもそう思う	8.0	10.5	5.4	7.8	9.3	7.3
		2. わりとそう思う	11.9	12.7	11.0	11.9	15.6	9.1	
		3. 少しそう思う	24.5	23.8	25.3	26.0	25.4	22.8	
		4. あまりそう思わない	39.7	36.4	43.3	41.8	34.7	41.9	
		5. ぜんぜんそう思わない	15.8	16.6	15.0	12.5	15.0	18.8	
	「子どもの権利」	子どもの権利を守る	1. とてもそう思う	22.2	24.3	19.9	18.2	20.3	26.4
		2. わりとそう思う	25.8	23.7	28.1	23.5	24.2	28.6	
		3. 少しそう思う	33.0	32.1	33.8	35.8	34.6	29.8	
		4. あまりそう思わない	13.7	13.3	14.1	17.6	15.1	9.9	
		5. ぜんぜんそう思わない	5.4	6.6	4.1	5.0	5.8	5.4	
	「権利」	権利を行使する	1. とてもそう思う	30.3	32.3	28.1	20.4	30.9	36.8
		2. わりとそう思う	28.4	27.4	29.4	29.3	27.3	28.5	
		3. 少しそう思う	26.7	24.8	28.8	31.6	26.8	23.2	
		4. あまりそう思わない	11.4	11.1	11.7	15.1	10.9	9.1	
		5. ぜんぜんそう思わない	3.3	4.4	2.0	3.6	4.1	2.4	
	「権利」	権利を行使する	1. とてもそう思う	27.1	28.1	25.9	22.6	22.5	33.5
2. わりとそう思う		22.9	22.2	23.7	18.4	23.3	25.8		
3. 少しそう思う		25.6	25.8	25.4	26.8	29.0	22.2		
4. あまりそう思わない		18.3	15.4	21.3	24.0	18.9	13.7		
5. ぜんぜんそう思わない		6.2	8.5	3.7	8.1	6.3	4.8		
「権利」	自分の意見を言う	1. とてもそう思う	32.1	30.8	33.4	27.4	31.9	35.5	
	2. わりとそう思う	28.5	27.4	29.5	27.4	25.3	31.5		
	3. 少しそう思う	24.7	26.2	23.1	24.6	29.7	21.2		
	4. あまりそう思わない	9.5	9.0	10.0	13.7	7.7	7.8		
	5. ぜんぜんそう思わない	5.3	6.6	3.9	7.0	5.5	4.0		

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年	3年	
13	つを学 く自校 れる分 のたき こちま とでり	1. とてもそう思う	16.0	16.3	15.6	13.6	14.8	18.5
		2. わりとそう思う	17.4	16.3	18.6	18.1	17.8	16.7
		3. 少しそう思う	28.8	29.8	27.7	28.1	31.0	27.8
		4. あまりそう思わない	24.8	22.4	27.2	26.2	23.8	24.4
		5. ぜんぜんそう思わない	13.0	15.1	10.8	13.9	12.6	12.7
	れ自自 る分分 こでの と決進 め路 らを	1. とてもそう思う	48.6	49.4	47.7	40.9	46.0	55.8
		2. わりとそう思う	21.3	19.3	23.5	22.0	23.0	19.6
		3. 少しそう思う	20.6	21.3	19.8	25.6	21.6	16.2
		4. あまりそう思わない	6.6	6.1	7.1	8.6	6.0	5.5
		5. ぜんぜんそう思わない	2.9	3.9	1.9	2.8	3.3	2.8
	もたお のめと にな に必 要な なる	1. とてもそう思う	22.3	25.1	19.2	19.3	21.0	25.2
		2. わりとそう思う	27.4	25.0	30.1	23.0	31.7	27.4
		3. 少しそう思う	32.5	32.0	33.1	39.2	31.7	28.4
		4. あまりそう思わない	13.0	11.6	14.4	14.8	8.7	14.7
		5. ぜんぜんそう思わない	4.8	6.3	3.2	3.6	6.8	4.2
	も尊お の重と すな るた べち きが	1. とてもそう思う	20.7	20.7	20.6	17.0	19.7	24.0
		2. わりとそう思う	18.8	19.0	18.6	16.2	21.1	19.0
		3. 少しそう思う	35.6	37.4	33.6	38.8	37.1	32.1
		4. あまりそう思わない	18.3	15.5	21.3	20.4	16.1	18.4
		5. ぜんぜんそう思わない	6.7	7.4	6.0	7.5	6.1	6.6
	か子 すど もも のを 甘や	1. とてもそう思う	3.5	5.2	1.7	2.8	4.4	3.4
		2. わりとそう思う	6.6	8.2	4.9	6.2	9.9	4.6
		3. 少しそう思う	20.6	26.8	14.0	22.8	22.2	18.0
		4. あまりそう思わない	35.7	31.7	40.0	39.9	34.5	33.5
		5. ぜんぜんそう思わない	33.6	28.2	39.4	28.4	29.0	40.5
こ好自 とき分 にの 使時 え間 るは	1. とてもそう思う	28.7	30.5	26.7	24.5	29.1	31.3	
	2. わりとそう思う	22.5	19.8	25.6	21.7	21.7	23.8	
	3. 少しそう思う	27.7	28.4	26.9	27.6	31.6	25.0	
	4. あまりそう思わない	15.8	13.7	18.1	18.9	13.7	15.0	
	5. ぜんぜんそう思わない	5.3	7.7	2.7	7.2	3.8	5.0	
しス成 まト績 ないレ や受 こに験 と苦の	1. とてもそう思う	16.8	17.5	16.0	15.4	15.9	18.3	
	2. わりとそう思う	13.7	13.2	14.1	13.8	12.9	14.1	
	3. 少しそう思う	28.3	28.2	28.4	32.3	32.6	22.3	
	4. あまりそう思わない	28.0	25.2	31.1	26.4	26.8	30.1	
	5. ぜんぜんそう思わない	13.2	15.9	10.4	12.1	11.8	15.1	
でを困 おつて ること ないに 相こと 談と	1. とてもそう思う	22.4	22.6	22.1	23.4	20.7	22.9	
	2. わりとそう思う	19.9	16.8	23.3	25.1	18.2	17.5	
	3. 少しそう思う	30.8	32.5	28.9	29.2	35.0	28.8	
	4. あまりそう思わない	17.0	17.3	16.6	14.8	14.9	20.1	
	5. ぜんぜんそう思わない	10.0	10.7	9.2	7.5	11.3	10.7	
て内自 知申分 る書の こと成 とつ績 いや	1. とてもそう思う	24.3	24.4	24.2	18.2	23.6	29.2	
	2. わりとそう思う	19.6	18.7	20.5	18.7	18.7	20.9	
	3. 少しそう思う	30.5	30.7	30.3	33.2	33.2	26.6	
	4. あまりそう思わない	18.1	17.5	18.8	22.1	16.2	16.7	
	5. ぜんぜんそう思わない	7.4	8.7	6.1	7.8	8.2	6.6	
許る時 され行 はには る為 を法 して こと にふ もれ	1. とてもそう思う	6.3	8.6	3.7	4.2	7.1	7.1	
	2. わりとそう思う	6.2	6.8	5.6	5.9	6.6	6.2	
	3. 少しそう思う	19.2	21.2	16.9	25.1	23.3	11.9	
	4. あまりそう思わない	28.2	25.2	31.5	30.2	31.0	24.8	
	5. ぜんぜんそう思わない	40.2	38.2	42.3	34.6	32.1	50.0	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
14	「無理」か「できる」か	る校自	1. ぜったい無理	26.6	34.2	18.4	31.6	26.8	22.8
		分をた	2. やや無理	39.1	37.2	41.1	41.3	39.3	37.3
		決ち	3. ややできる	25.3	19.0	32.2	23.0	24.3	27.8
		めで	4. ぜったいできる	9.0	9.6	8.4	4.2	9.6	12.1
	「できる」か	決授自	1. ぜったい無理	32.6	36.9	27.9	34.7	29.2	33.5
		める業分	2. やや無理	46.5	43.7	49.6	46.1	43.7	48.9
		た	3. ややできる	16.4	14.2	18.8	15.8	21.3	13.2
		ちを	4. ぜったいできる	4.5	5.2	3.7	3.3	5.7	4.4
	「早い」か「いい」か	けの自	1. ぜったい無理	55.9	58.4	53.1	58.6	51.6	56.9
		成分	2. やや無理	28.9	26.5	31.5	27.8	31.7	27.8
		績で	3. ややできる	9.4	8.5	10.5	9.2	9.0	9.9
		を自	4. ぜったいできる	5.8	6.6	4.9	4.4	7.7	5.4
	「早い」か「いい」か	めや将	1. ぜったい無理	5.5	7.4	3.5	8.1	5.8	3.6
		進来	2. やや無理	13.0	14.8	11.1	15.6	15.9	9.1
		路の職	3. ややできる	41.7	38.9	44.8	45.0	42.3	39.0
		を決業	4. ぜったいできる	39.7	38.9	40.5	31.4	36.0	48.3
14	「早い」か「いい」か	をアル	1. ぜったい早い	15.4	17.9	12.6	23.1	17.8	8.1
		するバ	2. やや早い	30.4	28.9	32.0	35.4	30.1	27.2
		イト	3. ややしていい	31.1	28.1	34.2	27.9	28.4	35.3
			4. ぜったいしていい	23.1	25.0	21.1	13.6	23.8	29.4
	「早い」か「いい」か	すお	1. ぜったい早い	24.6	33.3	15.3	33.1	28.7	15.7
		る化	2. やや早い	30.3	33.3	27.0	33.7	29.5	28.4
		粧を	3. ややしていい	29.4	21.6	37.6	21.4	26.2	37.3
			4. ぜったいしていい	15.7	11.7	20.1	11.7	15.7	18.7
	「早い」か「いい」か	すピ	1. ぜったい早い	27.9	36.2	18.9	41.5	29.8	16.7
		るア	2. やや早い	30.6	31.5	29.6	27.3	30.3	33.1
		スを	3. ややしていい	23.8	18.8	29.1	18.9	20.7	29.5
			4. ぜったいしていい	17.8	13.4	22.5	12.3	19.3	20.7
「早い」か「いい」か	に友	1. ぜったい早い	4.0	5.7	2.2	6.4	4.9	1.6	
	泊だ	2. やや早い	7.9	8.7	7.1	10.4	9.6	5.0	
	ちの	3. ややしていい	33.1	35.3	30.6	37.0	34.8	29.0	
	家	4. ぜったいしていい	55.0	50.3	60.1	46.2	50.7	64.4	
「早い」か「いい」か	つ好	1. ぜったい早い	5.7	8.6	2.6	11.3	5.8	1.6	
	きな	2. やや早い	9.6	12.7	6.3	16.9	9.2	4.8	
	あな	3. ややしていい	29.4	32.3	26.4	31.5	28.9	28.3	
	うと	4. ぜったいしていい	55.3	46.3	64.8	40.3	56.1	65.3	
「早い」か「いい」か	誌エ	1. ぜったい早い	23.6	26.8	20.2	44.8	21.0	10.3	
	をツ	2. やや早い	26.5	23.6	29.6	27.7	29.0	23.7	
	読む	3. ややしていい	28.3	25.8	31.0	15.4	30.4	36.0	
	な雑	4. ぜったいしていい	21.6	23.9	19.2	12.0	19.6	30.0	
「早い」か「いい」か	すセ	1. ぜったい早い	45.0	47.8	41.9	71.1	39.9	29.8	
	ック	2. やや早い	24.0	22.9	25.1	14.6	28.8	27.3	
	スを	3. ややしていい	15.2	12.3	18.4	5.3	16.5	21.5	
		4. ぜったいしていい	15.8	17.0	14.6	9.0	14.8	21.5	
15	自由なまりにて	のけ人	1. とてもそう思う	17.7	19.5	15.8	16.0	19.0	18.1
		なな	2. かなりそう思う	14.3	14.3	14.3	10.8	12.9	17.9
		の迷	3. 少しそう思う	28.2	26.0	30.6	32.0	28.8	25.0
		れ惑	4. あまりそう思わない	26.0	22.8	29.3	25.1	26.6	26.0
		をそ	5. ぜんぜんそう思わない	13.8	17.3	9.9	16.0	12.6	12.9

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
15	自由と生きまじりについで	くは校則も守るべきなり	1. とてもそう思う	15.0	20.1	9.6	20.0	15.7	11.0
		2. かなりそう思う	21.1	24.3	17.6	26.7	18.2	19.1	
		3. 少しそう思う	34.0	30.3	37.8	31.4	35.0	35.1	
		4. あまりそう思わない	22.0	17.2	27.0	16.4	24.0	24.5	
		5. ぜんぜんそう思わない	8.0	8.1	7.9	5.6	7.2	10.4	
	ない	1. とてもそう思う	12.5	15.5	9.3	15.2	12.7	10.4	
		2. かなりそう思う	21.8	25.9	17.4	23.3	20.8	21.6	
		3. 少しそう思う	44.6	38.3	51.4	44.9	46.3	43.3	
		4. あまりそう思わない	15.0	12.8	17.3	12.5	14.7	17.0	
		5. ぜんぜんそう思わない	6.1	7.4	4.6	4.2	5.5	7.8	
	と同じに罰する	1. とてもそう思う	22.0	25.6	18.2	17.4	22.4	25.1	
		2. かなりそう思う	19.7	18.6	20.7	20.7	17.4	20.5	
		3. 少しそう思う	33.4	31.8	35.2	34.3	35.9	31.1	
		4. あまりそう思わない	18.3	15.3	21.4	18.8	17.7	18.3	
		5. ぜんぜんそう思わない	6.6	8.7	4.4	8.8	6.6	5.0	
果敢と	1. とてもそう思う	25.9	27.8	23.9	22.5	24.9	29.2		
	2. かなりそう思う	20.7	21.2	20.2	20.6	20.7	20.8		
	3. 少しそう思う	37.4	34.1	40.9	40.8	38.1	34.4		
	4. あまりそう思わない	11.9	11.1	12.9	11.4	11.9	12.4		
	5. ぜんぜんそう思わない	4.0	5.8	2.0	4.7	4.4	3.2		
きま	1. とてもそう思う	19.7	21.9	17.3	23.6	17.8	18.3		
	2. かなりそう思う	25.7	25.1	26.3	28.7	24.9	24.1		
	3. 少しそう思う	35.5	31.5	39.7	33.4	37.5	35.5		
	4. あまりそう思わない	13.7	14.0	13.4	11.2	15.3	14.3		
	5. ぜんぜんそう思わない	5.4	7.4	3.2	3.1	4.4	7.8		
り	1. とてもそう思う	26.6	26.9	26.2	20.7	25.3	31.7		
	2. かなりそう思う	31.3	28.8	33.9	36.0	28.0	30.3		
	3. 少しそう思う	34.4	34.2	34.6	35.7	36.5	31.9		
	4. あまりそう思わない	5.7	6.6	4.6	4.8	7.7	4.8		
	5. ぜんぜんそう思わない	2.1	3.5	0.7	2.8	2.5	1.4		
ついで	1. とてもそう思う	8.8	10.1	7.5	9.6	8.9	8.2		
	2. かなりそう思う	17.0	17.9	16.0	19.7	17.5	14.7		
	3. 少しそう思う	40.7	37.9	43.6	40.6	42.9	39.2		
	4. あまりそう思わない	23.8	22.4	25.4	20.6	23.7	26.3		
	5. ぜんぜんそう思わない	9.7	11.7	7.5	9.6	7.0	11.6		
て	1. とてもそう思う	12.5	15.2	9.7	13.3	11.8	12.5		
	2. かなりそう思う	16.6	17.2	16.0	16.9	12.9	19.2		
	3. 少しそう思う	39.7	36.5	43.1	37.6	45.6	36.9		
	4. あまりそう思わない	23.0	22.2	23.9	23.7	22.0	23.2		
	5. ぜんぜんそう思わない	8.2	8.9	7.3	8.5	7.7	8.3		
は強制している	1. とてもそう思う	19.3	20.3	18.2	18.9	20.8	18.4		
	2. かなりそう思う	18.2	19.2	17.2	17.5	16.7	19.8		
	3. 少しそう思う	32.3	28.5	36.5	30.5	37.5	29.9		
	4. あまりそう思わない	22.7	23.5	21.8	24.9	20.3	22.8		
	5. ぜんぜんそう思わない	7.5	8.6	6.3	8.2	4.7	9.0		
損をす	1. とてもそう思う	11.8	13.1	10.4	12.1	8.8	13.8		
	2. かなりそう思う	12.5	13.3	11.6	14.1	10.5	12.8		
	3. 少しそう思う	34.0	32.3	35.8	32.4	36.6	33.2		
	4. あまりそう思わない	31.4	29.0	34.1	30.4	35.0	29.6		
	5. ぜんぜんそう思わない	10.3	12.3	8.0	11.0	9.1	10.6		

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年	3年	
15	自由と専らについて もっと自分の権を主張すべき	1. とてもそう思う	18.8	21.0	16.6	18.6	17.9	19.7
		2. かなりそう思う	20.8	20.0	21.7	22.6	17.6	21.9
		3. 少しそう思う	40.2	39.0	41.5	37.9	44.9	38.6
		4. あまりそう思わない	16.5	14.8	18.3	16.7	15.2	17.3
		5. ぜんぜんそう思わない	3.6	5.2	1.9	4.2	4.4	2.6
16	どのくらいか 成績はクラスで	1. 上の方	10.0	12.0	7.9	11.2	9.1	9.8
		2. 中の上	18.8	17.4	20.4	17.9	20.0	18.7
		3. まん中くらい	31.6	31.3	31.9	31.3	31.8	31.7
		4. 中の下	22.4	19.8	25.0	24.9	22.1	20.8
		5. 下の方	17.2	19.5	14.8	14.6	17.1	19.1
17	将来の見通し 入望みの高校に	1. きっとそうなる	15.1	19.3	10.5	8.5	9.0	24.2
		2. たぶんそうなる	19.2	18.8	19.7	20.6	17.2	19.8
		3. 半分半分	46.6	43.8	49.6	45.4	52.5	43.2
		4. たぶん無理	14.3	13.0	15.8	19.4	16.7	9.0
		5. まったく無理	4.8	5.1	4.4	6.2	4.6	3.8
	入望みの大学に	1. きっとそうなる	9.6	12.6	6.3	6.2	7.8	13.3
		2. たぶんそうなる	11.9	12.0	11.8	11.3	10.3	13.5
		3. 半分半分	46.0	43.5	48.8	44.1	48.9	45.3
		4. たぶん無理	19.4	18.5	20.3	22.9	22.2	14.8
		5. まったく無理	13.1	13.4	12.8	15.5	10.8	13.1
	就望みの仕事に	1. きっとそうなる	15.5	18.9	11.9	11.6	10.4	22.0
		2. たぶんそうなる	17.1	15.4	19.0	17.2	16.4	17.6
		3. 半分半分	47.9	46.0	50.0	47.7	51.0	45.8
		4. たぶん無理	15.8	15.7	15.8	20.1	18.4	10.8
		5. まったく無理	3.7	4.1	3.2	3.4	3.8	3.8
	つ幸せな家庭を	1. きっとそうなる	22.2	21.7	22.7	15.8	18.9	29.3
		2. たぶんそうなる	21.1	17.3	25.3	23.1	19.4	21.0
		3. 半分半分	43.9	44.1	43.7	47.6	48.9	37.7
		4. たぶん無理	8.6	11.0	6.1	8.7	9.0	8.2
		5. まったく無理	4.1	5.9	2.2	4.8	3.8	3.8
が社会的な活躍	1. きっとそうなる	12.8	16.0	9.4	9.9	10.1	16.9	
	2. たぶんそうなる	12.2	13.6	10.6	12.1	10.7	13.3	
	3. 半分半分	46.7	44.4	49.2	46.0	50.0	44.8	
	4. たぶん無理	21.0	19.3	22.8	24.6	21.0	18.5	
	5. まったく無理	7.3	6.7	8.0	7.3	8.2	6.6	
18	自分で決めてきたか 買ったか どんな服を	1. 自分で決めてきた	43.2	38.8	48.0	36.2	42.0	49.1
		2. どちらかといえば自分で決めてきた	34.0	30.9	37.5	36.2	33.5	32.9
		3. どちらかといえば誰かの意見で決めてきた	17.5	22.5	12.2	21.5	19.6	13.2
		4. 誰かの意見で決めてきた	5.2	7.9	2.4	6.2	4.9	4.8
	髪を切るか どの理髪店で	1. 自分で決めてきた	43.6	39.2	48.3	34.1	41.7	51.7
		2. どちらかといえば自分で決めてきた	28.2	29.2	27.1	29.5	27.8	27.5
		3. どちらかといえば誰かの意見で決めてきた	19.9	20.1	19.7	24.9	21.5	15.2
		4. 誰かの意見で決めてきた	8.3	11.5	4.9	11.5	9.0	5.6
	塾に行くか	1. 自分で決めてきた	44.0	40.1	48.1	40.7	44.0	46.3
		2. どちらかといえば自分で決めてきた	26.7	26.9	26.4	27.0	26.3	26.7
		3. どちらかといえば誰かの意見で決めてきた	18.6	20.5	16.6	19.8	17.4	18.6
		4. 誰かの意見で決めてきた	10.8	12.5	9.0	12.5	12.3	8.5
	どの部か活動	1. 自分で決めてきた	73.3	74.0	72.5	70.5	73.8	74.7
		2. どちらかといえば自分で決めてきた	16.8	15.9	17.8	20.4	15.5	15.2
		3. どちらかといえば誰かの意見で決めてきた	7.6	7.5	7.8	6.8	9.0	7.2
		4. 誰かの意見で決めてきた	2.3	2.7	1.9	2.3	1.6	2.8

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全体	性別		学年別				
			男子	女子	1年	2年	3年		
18	自分で決めてきたか	の休日に家族で 出かけるとき	1. 自分で決めてきた	17.1	17.9	16.2	15.2	18.5	17.5
		2. どちらかといえば自分で決めてきた	17.3	12.5	22.5	17.5	16.9	17.5	
		3. どちらかといえば誰かの意見で決めてきた	42.8	41.2	44.6	45.8	43.6	40.0	
		4. 誰かの意見で決めてきた	22.8	28.4	16.8	21.5	21.0	25.0	
	受験する高校	1. 自分で決めてきた	48.8	47.0	50.7	39.8	42.9	59.3	
		2. どちらかといえば自分で決めてきた	33.0	32.6	33.4	31.4	40.2	28.9	
		3. どちらかといえば誰かの意見で決めてきた	14.5	15.5	13.4	20.5	14.1	10.6	
		4. 誰かの意見で決めてきた	3.7	4.8	2.6	8.4	2.8	1.2	
	い将来職業につきた	1. 自分で決めてきた	65.1	60.9	69.6	59.9	63.5	69.9	
		2. どちらかといえば自分で決めてきた	27.9	29.1	26.6	31.1	30.7	23.6	
		3. どちらかといえば誰かの意見で決めてきた	5.5	8.2	2.6	7.2	5.0	4.7	
		4. 誰かの意見で決めてきた	1.5	1.8	1.2	1.7	0.8	1.8	
行と具 くとき か病 院悪 にい	1. 自分で決めてきた	26.1	27.0	25.2	26.6	24.9	26.7		
	2. どちらかといえば自分で決めてきた	26.3	27.1	25.3	24.6	28.7	25.7		
	3. どちらかといえば誰かの意見で決めてきた	37.0	34.8	39.5	37.7	37.2	36.5		
	4. 誰かの意見で決めてきた	10.6	11.1	10.0	11.0	9.3	11.2		
19	友だちに対して	引事ク きをラ 受進ス け入の るで仕	1. きっとできる	13.5	14.3	12.6	10.2	12.3	16.6
		2. たぶんでできる	40.6	39.0	42.2	41.6	43.2	37.9	
		3. たぶんでできない	38.1	37.6	38.7	37.7	39.3	37.5	
		4. まったくできない	7.9	9.2	6.5	10.5	5.2	8.0	
	を自 主分 張の 意見	1. きっとできる	18.0	18.1	17.9	13.0	16.4	22.8	
		2. たぶんでできる	46.6	48.0	45.1	48.4	46.4	45.4	
		3. たぶんでできない	30.5	28.5	32.8	32.9	32.0	27.8	
		4. まったくできない	4.9	5.4	4.3	5.7	5.2	4.0	
	め友 をた 助ち けるの いじ	1. きっとできる	19.5	19.5	19.5	20.4	14.8	22.3	
		2. たぶんでできる	49.0	47.4	50.7	50.7	50.5	46.6	
		3. たぶんでできない	26.8	26.4	27.1	24.9	29.4	26.1	
		4. まったくできない	4.8	6.7	2.7	4.0	5.2	5.1	
にま自 あり分 や素の まあ素 直や	1. きっとできる	36.9	35.0	38.9	33.9	35.3	40.2		
	2. たぶんでできる	48.2	48.2	48.3	51.1	49.6	45.2		
	3. たぶんでできない	12.6	14.3	10.8	13.0	12.9	12.0		
	4. まったくできない	2.3	2.5	2.0	2.0	2.2	2.6		
さじ友 せめだ るをち やのめ い	1. きっとできる	19.5	20.6	18.2	20.9	16.0	21.0		
	2. たぶんでできる	47.3	45.9	48.9	44.9	53.2	44.8		
	3. たぶんでできない	28.9	28.1	29.7	30.2	25.6	30.2		
	4. まったくできない	4.4	5.4	3.3	4.0	5.2	4.0		
事いふ を同だ す級ん 生話 とさ 仕な	1. きっとできる	21.2	19.8	22.7	19.8	19.5	23.5		
	2. たぶんでできる	55.5	54.1	56.9	57.2	58.4	52.1		
	3. たぶんでできない	18.2	19.2	17.1	17.0	17.8	19.3		
	4. まったくできない	5.1	6.8	3.2	5.9	4.4	5.0		
が友根 いた拠 をちの 指あげ 摘ま	1. きっとできる	16.4	17.1	15.5	14.7	14.3	19.0		
	2. たぶんでできる	48.9	48.4	49.4	51.7	51.4	45.1		
	3. たぶんでできない	30.2	28.1	32.4	29.4	28.6	31.9		
	4. まったくできない	4.6	6.3	2.7	4.2	5.8	4.0		
20	学校のまらじい	い授 業の 前後 にあ	1. 疑問を感じなかった	79.0	75.9	82.3	81.3	80.2	76.5
		2. 疑問を感じたが自分の胸にしまっていた	14.5	15.5	13.4	11.9	14.3	16.5	
		3. 疑問を感じて友だちと不満を言い合った	5.1	6.2	3.9	6.2	4.7	4.6	
		4. 疑問を感じて先生に文句を言った	1.0	1.6	0.3	0.3	0.5	1.8	
		5. 自分の学校にそのようなきまりはない	0.4	0.8	0.0	0.3	0.3	0.6	

資料2 学年・性別集計表

質問項目		全 体	性 別		学 年 別				
			男 子	女 子	1 年	2 年	3 年		
20	学 校 の ま ま に つ い て	決められたワイシャツを着る	1. 疑問を感じなかった	58.4	61.3	55.2	56.5	63.9	55.6
			2. 疑問を感じたが自分の胸にしまっていた	21.9	21.0	22.8	24.9	19.8	21.3
			3. 疑問を感じて友だちと不満を言い合った	15.6	12.6	18.7	15.5	13.2	17.3
			4. 疑問を感じて先生に文句を言った	1.9	2.9	0.9	1.4	1.4	2.6
			5. 自分の学校にそのようなきまりはない	2.3	2.2	2.4	1.7	1.7	3.2
	決校則で髪型を いけなさいこと	はい	1. 疑問を感じなかった	28.8	36.4	20.7	34.9	30.8	23.0
			2. 疑問を感じたが自分の胸にしまっていた	21.7	24.6	18.5	22.6	20.6	21.8
			3. 疑問を感じて友だちと不満を言い合った	21.1	14.3	28.2	16.9	22.3	23.2
			4. 疑問を感じて先生に文句を言った	2.6	3.7	1.4	1.4	1.9	3.8
			5. 自分の学校にそのようなきまりはない	26.0	20.9	31.2	24.3	24.5	28.2
	学校で掃除を 全ク と ま す に つ い て	はい	1. 疑問を感じなかった	51.2	60.1	41.8	61.4	49.6	45.3
			2. 疑問を感じたが自分の胸にしまっていた	17.2	15.7	18.8	16.2	17.0	18.0
			3. 疑問を感じて友だちと不満を言い合った	14.6	9.7	19.8	8.5	14.8	18.8
			4. 疑問を感じて先生に文句を言った	2.2	3.4	1.0	1.7	1.4	3.2
			5. 自分の学校にそのようなきまりはない	14.8	11.2	18.6	12.2	17.3	14.7
	学校で持たせられたものを 全ク と ま す に つ い て	はい	1. 疑問を感じなかった	72.1	71.1	73.3	77.0	71.2	69.4
			2. 疑問を感じたが自分の胸にしまっていた	13.8	15.1	12.4	11.6	15.9	13.8
			3. 疑問を感じて友だちと不満を言い合った	11.2	10.0	12.4	9.7	10.2	13.0
			4. 疑問を感じて先生に文句を言った	2.4	2.9	1.9	1.7	1.6	3.4
			5. 自分の学校にそのようなきまりはない	0.5	1.0	0.0	0.0	1.1	0.4
授業中の叱りね を 全ク と ま す に つ い て	はい	1. 疑問を感じなかった	55.5	60.4	50.3	59.9	57.8	50.6	
		2. 疑問を感じたが自分の胸にしまっていた	22.1	20.3	24.0	21.0	21.4	23.4	
		3. 疑問を感じて友だちと不満を言い合った	12.5	9.4	15.8	12.5	13.7	11.7	
		4. 疑問を感じて先生に文句を言った	2.1	2.6	1.5	0.9	2.7	2.4	
		5. 自分の学校にそのようなきまりはない	7.8	7.3	8.3	5.7	4.4	11.9	
学校で持ち物検査 を 全ク と ま す に つ い て	はい	1. 疑問を感じなかった	68.7	65.8	71.9	71.4	69.8	66.1	
		2. 疑問を感じたが自分の胸にしまっていた	15.9	16.6	15.2	16.7	15.1	16.0	
		3. 疑問を感じて友だちと不満を言い合った	8.2	9.6	6.6	6.5	10.4	7.7	
		4. 疑問を感じて先生に文句を言った	2.0	3.5	0.3	1.7	1.6	2.4	
		5. 自分の学校にそのようなきまりはない	5.2	4.5	6.0	3.7	3.0	7.9	
マラソン大会などがあること	はい	1. 疑問を感じなかった	19.4	25.6	12.7	28.9	19.1	12.9	
		2. 疑問を感じたが自分の胸にしまっていた	12.7	12.8	12.5	12.6	16.9	9.7	
		3. 疑問を感じて友だちと不満を言い合った	10.9	10.9	11.0	10.6	12.4	10.1	
		4. 疑問を感じて先生に文句を言った	2.8	4.5	1.0	1.7	2.5	3.8	
		5. 自分の学校にそのようなきまりはない	54.2	46.2	62.8	46.3	49.2	63.4	
「児童の権利条約」を知っているか	はい	1. 疑問を感じなかった	60.6	61.0	60.2	65.7	60.0	57.4	
		2. 疑問を感じたが自分の胸にしまっていた	17.2	17.5	16.8	17.0	18.4	16.5	
		3. 疑問を感じて友だちと不満を言い合った	18.8	16.7	20.9	14.7	18.1	22.1	
		4. 疑問を感じて先生に文句を言った	2.8	3.8	1.7	2.3	3.0	3.0	
		5. 自分の学校にそのようなきまりはない	0.7	1.0	0.3	0.3	0.5	1.0	
21	「児童の権利条約」を知っているか	1. ぜんぜん知らない	38.1	42.7	33.3	44.6	49.4	25.3	
		2. 名前だけはどこかで聞いたことがある	36.6	33.5	39.8	35.1	32.6	40.5	
		3. どんなものか少し知っている	18.9	17.9	20.0	15.1	11.6	26.9	
		4. 自分で読んだことがある	6.4	5.8	7.0	5.1	6.4	7.3	

資料3 自由記述回答例

学校のきまりや校則について言いたいこと

学校	性別	学校のきまりや校則について言いたいこと
A	男子	<ul style="list-style-type: none"> 先生が少し叩いたりしたくらいで今の子は体罰だというけれど、僕たちのことをどうでもいいというのなら注意もしてくれない。叩かれるということは口で言ってもきかないからだと思う。叩かれたとブーブー言う前に、自分のやったことを良く考えた方がいいと思う。 カミをそめるのはよくない。 生徒には「ジャージを脱いで半袖短パンになれ」とか言って、担任の先生が厚着をする。しかもグーで顔をなぐってきます。 生徒に決めさせるとか言って、先生が決めないでほしい。先生の意見を生徒に強制しないでほしい。悪いことをしてなぐられるのはいいんだけど、顔をグーで思いっきりなぐり、ふっつんでよけたとか言って、もう1回なぐるのはよしてほしい。 ある先生は、生徒を特別扱いしていることがある。授業で、ある生徒がうるさいと怒鳴るように注意するのに、その特別視している生徒に対しては、笑いながら接している。自分では、気づいていないのかもしれないが、生徒の99%は気づいている。その先生には、どの生徒にも平等に接してほしい。
	女子	<ul style="list-style-type: none"> 中学生は義務教育で親に守られているのだから、学校の規則にしたがうのは当然!! なのに、反対したり文句を言うのはまちがっていると思う。 守っていない人がけっこういるので、そういう人には直るまできちんと叱ってほしい。 校則はないといけないうる大切なものだと思うけど、それによって一人一人の個性がなくなっていると思う。みんな同じ制服を着ていていいの?と疑問を感じている。 先生に、「授業がわからない」と言うと、生徒のせいにする。授業がわからないから友だちにきいてうるさくなくなってしまいうるのに、怒られるのはとてもいやです。私は怒っている。私はバカなのに、これ以上バカになりたくありません。 制服を着ることに意味はあるのか教えてほしい。髪型や制服などの校則を直してほしい。ピアスもなんでだめなのか? おとなたちは、結局、校則の中に子どもをおしつけている。みんな一緒に個性がない。「中学生にはまだ早い」何が早いのかかわからない。 くつ下とかにまで、こだわらなくてもいいと思うし、ワンポイントで2cm以内とかまではかる先生がいるので、それはいきすぎ。あと、髪をむすぶゴムの色もドーでもいいと思います。 化粧とか髪をそめるってなんでやっちゃいけないんですかあ? 誰にも迷惑かけてないのに。誰にも迷惑かけてなければいいと思う。それと、中学生らしいかっこうって何ですか? 超意味わかんねえ。 必要なものもあるけど、何でいけないのかかわからないものも多い。どうして校則で決まっているのかも教えるべきだと思うし、自分たちでかえられるようにするべきだと思う。おとなの勝手な言い分などでいつもはぐらかされる。あと、生徒がどうしてそんなことをしているのか、理由もちゃんと聞いてあげるべき。
B	男子	<ul style="list-style-type: none"> 校則で髪型を決めるというのは個人の自由(権利)なのでよくないと思う。 とりあえず、行事が他の学校の先生たちにみせるためのものになっているのが頭にくる。なぜ卒業式の練習をするのか理解に苦しむ。また、同じ理由で制服を着ることも反対。学校は、子どもが勉強するところであって、先生たちが他人に格好つける場所ではない。 ピアスぐらいゆるしてほしい。そしたら、穴を開けられるのに。髪型は、どんなんだっていいと思う。(化粧も)髪の色もどうでもいいんじゃないのかなあ?
	女子	<ul style="list-style-type: none"> とても、自由でよいと思う。学校で持ち物検査があるなんてはじめて知りました。私が通っている学校は自由にはばたけている、自分を主張できるよい場だと思う。 うちの学校は公立だけど、基準服も私立なみにかわいいし、決められた日(朝会、卒業式etc)以外は私服でもいいです。変な校則なんてないし、一度うちの学校へ来てもらいたいくらいです。

資料3 自由記述回答例

学校	性別	学校のきまりや校則について言いたいこと
B	女子	<ul style="list-style-type: none"> 私の学校は、特にきまりがないから何とも言えない…。でも、多少のきまりがあってあとは自己責任…というこの学校は、けっこういいと思うよ。 制服のスカートや髪の色を言われたとき、「そんな校則にはないんだから」と思いムカついた！校則をやぶったりしたら、うるさくするのはやめてほしい…。きちきちするのは自由なくなるから、いやだ…。 子どもにだって権利はあるのに「あなたはまだ子どもだから」などおとなと差別しないでほしい。自分のことは自分で決められる歳だし。いちいち口出ししないでほしい。やられたら反対に反発したくなる。 個人個人の意見をもっと尊重できるような校則にしてほしいと思った。自由がいい。ピアスなんかつけてもぜんぜん他人に迷惑をかけないし。
	男子	<ul style="list-style-type: none"> あまりにも服やら髪とかについてうるさいような気がする。あんまりきびしすぎるのもよくないような気がする。 先生が勝手なことをしていると思う。先生がこうだと言ったらしたがわなければいけない。少しずるい気がする。
C	女子	<ul style="list-style-type: none"> きまりは、守らなきゃいけないと思います。 髪型や服装や持ち物などを学校で言われたくない。なんで自分で決められないのか。 スカートのたけ、髪型、くつ下の長さ、ジャージ、体育着など、校則がきびしすぎると思う。せめて、スカートのたけ、髪型、くつ下の長さぐらいは自由にさせてほしいと思う。昔と、今では時代がちがうから、いつまでも昔のままでないでほしい。 なぜピアスはいけないのか？（私はしないけど）髪の色が決められていること。（茶くらいはOKと思う） よけいな校則がありすぎるからやめてほしい。コートなど、指定にしてほしくない。マフラーをコートの中に入れるなど、そんな校則なくていい。髪型までグチ×2言ってほしくない。ヒザ下のスカートはやダ！
D	男子	<ul style="list-style-type: none"> 私の学校では、校則があまりない。なので、授業中、先生によっておしゃべりをするか、しないかっていう感じ。もう少し校則はきびしくてもいいと思う。 先生だからってえらそうにしてるやつ見るとなぐりたくなる。まだまだ自分らのこと本気で考えてくれる先生は数少ないと思う。
	女子	<ul style="list-style-type: none"> けっこう自由にできるのでいいと思うが、その「自由」の意味をまちがえてしまったらいけないと思う。 校則とかきまりには文句ないけど、先生に対して、自分の気に入った子だけかわいがってりゃいいの？！！ って思う。 校則違反っていうのは、別に何かや誰かに反抗してるんじゃないで、ただの個性だってどうしてわかんないかなー。みんなと一緒にするからつまらない人間になっちゃうんだよ？ だいたい、違反してるから責任はちゃんととるよ。以上！ 髪や、ルーズソックスをはいてたり、スカートが短いだけで「あのこはダメね」みたいに思われたくない。まとめれば、外見で判断されたくない。ピアスって何でしちゃいけないの？ コートで授業受けてだめならもっと教室をあったかくしてほしい。セーター姿でだめなんて変。お金は不用物じゃないと思う。何かあったときに公衆電話とか使いたいし。乗り物乗らなきゃいけない。
E	男子	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで自由な学校ができればいいと思う。 ピアスや髪型などは、人に迷惑をかけなければ自分たちの自由でいいと、僕はそう思う。 なんか自由とかいってるけど、茶髪にしてきておこられる人を見たことがある、別にいけないとは書いてないのに。あと、いい人には何気に特別にしてる先生がうざい。 中学生らしい髪型とあるが、そめてもいいじゃないか。教師もきまりを守れ。 「子どもだから～」と言うのはやめてほしい。「少しはおとなだから～」と言ってくれた方がいい。

資料3 自由記述回答例

学校	性別	学校のきまりや校則について言いたいこと
E	女子	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしの学校は「E中宣言」なるものを自分たちで作り、何がいいか悪いかは自分で決めているため、別にいいことはない。 ・うちの学校は特に校則は多くないが、「E中宣言」は守っていききたい。そして、それは一生涯の宝物だと思います。 ・十分、自由だと思う。茶髪やピアス、パーマはだめだけど、まだ子どもなのでいい。むしろ、おとなになってからたくさん楽しめるから禁止の方がいい。 ・E中の校則は、少しだけきびしいが、他の学校よりはいいと思う。きびしいと思うなら、自分たちが常識をわきまえて、判断できるようになったら、少しずつ改善できると思う。 ・いろんなことを決めすぎてないからいいけど、もう少しきびしくしてもいいのでは、と思う。校則を守ってない人もいるし、それをもっと気をつけるべきだと思う。 ・先生が「君らの目は死んでいる」って言ったけれど、みんなまとめて一緒に言われたくない。一人一人のかげやきを見てほしい。それが見えない先生の方が死んでいると思う。 ・「自由に決めろ、夢を持って」って言うくせに、どうしてこんな小さな箱の中におしこまれてもがいていなければいけないのでしょうか？ 校則にないことをしても怒られる...「個性」って何ですか？ ・先生もやっぱり差別をしていると思う!! セクハラをする先生がいるのでいやだ。 ・「生徒の自主性にまかせている」とか言いながら、実はかなり先生が中心。生徒の気持ちももっと考えてほしい。学校のきまりや校則は、生徒一人一人の意見を尊重して作りあげていくべきだと思う。生徒がダメで先生がいいなんていうのはおかしいと思う。
F	男子	<ul style="list-style-type: none"> ・なんで何もなくてもたたかれるんですか。なんでカバン点検するんですか。 ・1人の生徒をひいきしてほしい。先生のセクハラをきびしく処罰してください。 ・人がどんなかっこうをしようと関係ない。中学生らしいとか言うのはムカツク!
	女子	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では別はない。しいて言うなら、もっときびしくしてほしい(校則を)。あと子どもも犯罪をおかせばおとなと同じ罰をもらうべきだ。 ・くつ下のワンポイントが入ってたって、別に白いくつ下だったらいいと思う。くだらないきまりはなくしてほしい。 ・もう少し生徒の意見を大事にしてもらいたい。 ・髪型や髪につけるピンやゴムは自由にしてほしい!! ・うちの学校は校則がありすぎる。しかも他校にくらべてきびしい。やりたいことをやらせてほしい。先生をもっといい先生にしてほしい。 ・先生は先生だからいいっていうのが納得いかない。子どもにしてほしいなら先生も多少のことは守るべきだと思う。